

リテ消滅ス

前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其ノ計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六百五十二條 本章ノ規定ハ船舶カ不可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ於テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之ヲ準用ス

第五章 海難救助

第六百五十二條ノ二 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナクシテ之ヲ救助シタル者ハ其ノ結果ニ對シテ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十二條ノ三 救助料ニ付キ特約ナキ場合ニ於テ其ノ額ニ付キ争アルトキハ危險ノ程度、救助ノ結果救助ノ爲メニ要シタル勞力及ヒ費用其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第六百五十二條ノ四 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助料ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ額カ著シク不相當ナルトキハ當事者ハ其ノ増加又ハ減少ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百五十二條ノ五 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ救助セラレタル物ノ價額ニ超ユルコトヲ得ス先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ額ハ先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル殘額ニ超ユルコトヲ得ス

第六百五十二條ノ六 數人カ共同シテ救助ヲ爲シタル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付テハ第六百五十二條ノ三ノ規定ヲ準用ス

人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ規定ニ從ヒテ救助料ノ分配ヲ受クルコトヲ得

第六百五十二條ノ七 救助ニ從事シタル船舶カ汽船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船ナルトキハ其ノ二分ノ一ヲ船舶所有者ニ仕拂ヒ其ノ殘額ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ海員ニ支拂フコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ金額ノ分配ハ船長之ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス前二項ノ規定ニ反スル契約ハ無効トス

第六百五十二條ノ八 船長カ前條第二項ノ規定ニ依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終ルマテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告示スルコトヲ要ス

第六百五十二條ノ九 海員カ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其ノ告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最初ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコトヲ得

船長ハ異議ノ落著前ニハ救助料ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第六百五十二條ノ十 船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタルトキハ管海官廳ハ海員ノ請求ニ因リ船長ニ對シテ分配案ノ作成ヲ命スルコトヲ得

船長カ前項ノ命令ニ從ハサルトキハ管海官廳ハ分配案ヲ作ルコトヲ得

第六百五十二條ノ十一 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス

一、故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタルトキ

二、正當ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラズ強ヒテ之ニ從事シタルトキ

三、救助シタル物品ヲ隠匿シ又ハ濫ニ之ヲ處分シタルトキ

第六百五十二條ノ十二 救助者ハ其ノ債權ニ付キ救助シタル積荷ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ニハ船舶債權者ノ先取特權ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百五十二條ノ十三 船長ハ救助料ノ債務者ニ代ハリテ其ノ支拂ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

救助料ニ關スル訴ニ於テハ船長ハ自ラ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得但其ノ訴ニ付キ言渡シタル判決ハ救助料ノ債務者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第六百五十二條ノ十四 積荷ノ所有者ハ救助セラレタル物ヲ以テ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第六百五十二條ノ十五 積荷ノ上ニ存スル先取特權ハ債務者カ其ノ積荷ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其ノ積荷ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

第六百五十二條ノ十六 救助料ノ請求權ハ救助ヲ爲シタル時ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ依リテ消滅ス

第六章 保 險

第六百五十三條 海上保險契約ハ航海ニ關スル事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ以テ其目的トス

海上保險契約ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第三編第十章第一節第一款ノ規定ヲ適用ス

第六百五十四條 保險者ハ本章又ハ保險契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外保險期間中保險ノ目的ニ付キ航海ニ關スル事故ニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第六百五十五條 保險者ハ被保險者カ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補スル責ニ任ス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百五十六條 船舶ノ保險ニ付テハ保險者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ以テ保險價額トス

第六百五十七條 積荷ノ保險ニ付テハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積並ニ保險ニ關スル費

用ヲ以テ保險價額トス

第六百五十八條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ以テ保險價額ヲ定メザリシトキハ保險金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推定ス

第六百五十九條 一航海ニ付キ船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル時ヲ以テ始マル

荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚カ不可抗力ニ因ラスシテ遅延シタルトキハ其終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル

第六百六十條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責任ハ其積荷カ陸地ヲ離レタル時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其ノ陸揚カ終了シタル時ヲ以テ終ハル

前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百六十一條 海上保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一、船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ其船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船長ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港ノ定アルトキハ其港名
- 二、積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港

第六百六十二條

保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ航海ノ變更シタルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ
保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコ
トナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラ
ス

到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタル
モノト看做ス

第六百六十三條

被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他著シ
ク危險ヲ變更若クハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付責任ヲ負フコトナシ
但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホサ、リシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若
クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十四條

保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ効力ニ影響ヲ及ホサ
ス

第六百六十五條

積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル
場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更
カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十六條

保險契約ヲ爲スニ當タリ積荷ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者
又ハ被保險者カ其積荷ヲ船積シタルコトヲ知りタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ
國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其効力ヲ失フ

第六百六十七條

保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス

一、保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重
大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

二、船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ
爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害

三、積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於
テ備船者荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

四、水先案内料、入港料、燈臺料、檢疫料其他船舶又ハ積荷ニ付キ航海ノ爲メニ出シタル通常ノ
費用

第六百六十八條

共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セスシテ保險價額ノ百
分ノ二ヲ超エサルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セス

右ノ損害又ハ費用カ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エタルトキハ保險者ハ其全額ヲ支拂フコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ當事者カ契約ヲ以テ保險者ノ負擔セサル損害又ハ費用ノ割合ヲ定メタル場合ニ之ヲ
準用ス

前三項ニ定メタル割合ハ各航海ニ付キ之ヲ計算ス

第六百六十九條

保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シ
タル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一
部ヲ填補スル責ニ任ス

第六百七十條

航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其賣却ニ依

リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シタルモノト保險價額トノ差ヲ以テ保險者ノ負擔トス但保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ第三百五十一條ノ適用ヲ妨ケス
前項ノ場合ニ於テ買主カ代價ヲ支拂ハサルトキハ保險者ハ其支拂ヲ爲スコトヲ要ス但其支拂ヲ爲シタルトキハ被保險者ノ買主ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス
第六百七十一條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

一、船舶カ沈没シタルトキ

二、船舶ノ行方カ知レサルトキ

三、船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ

四、船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ

五、船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六ヶ月間解放セラレサルトキ

第六百七十二條 船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス

保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ被保險者ハ委付ヲ爲スコトヲ得但船舶カ保險期間内ニ滅失セザリシコトノ證明アリタルトキハ其委付ハ無効トス

第六百七十三條 第六百七十一條第三號ノ場合ニ於テ船長カ遲滞ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス

第六百七十四條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三ヶ月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ第六百七十一條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知りタル時ヨリ之ヲ起算ス

ル時ヨリ之ヲ起算ス

再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其ノ被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十五條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス

委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得

保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ應シテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百七十六條 保險者カ委付ヲ承認シタルトキハ後日其委付ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第六百七十七條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス

被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第六百七十八條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當リ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス

保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス

保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第六百七十九條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス

第七章 船舶債權者

第六百八十條 左ニ掲ケタル債權ヲ有スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送貨ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一、船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費
- 二、最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費
- 三、航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
- 四、水先案内料及ヒ挽船料
- 五、救助料及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損
- 六、航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
- 七、雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權
- 八、船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲サ、ル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ艤裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ艤裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權
- 九、第二號、第四號乃至第六號及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第五百四十四條ノ規定ニ依リ委付ヲ許シタル債權

第六百八十一條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス

第六百八十二條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第六百八十條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ノ債權者間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

ルモノニ先ツ

同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク但第六百八十條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セサリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ

第六百八十三條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

第六百八十四條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓受ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス

先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サ、リシトキハ其先取特權ハ消滅ス

第六百八十五條 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第六百八十六條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ

船舶ノ抵當權ニ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百八十七條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

第六百八十八條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得

第六百八十九條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

船舶職員

船舶職員法

(明治二十九年四月公布)
昭和四年四月改正
昭和八年三月改正 法律第十二號

第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシム

ヘシ但シ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セサル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、三等運轉士、機關長、一等機關士、二等機關士及三等機關士ヲ謂フ

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

遞信大臣ハ海技免狀ノ効力ニ制限ヲ加ヘタルモノヲ授與スルコトヲ得

第四條 各船舶ニ乗組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル第一號表ニ定ムル免狀ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ免狀ヲ以テ代用スルコトヲ得

第五條 海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ體格検査及學術試験ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ船舶ノ運航若ハ機關ノ運轉ニ關スル學術ヲ教授スル學校ノ所定ノ課程及練習ヲ卒リ遞信大臣ニ於テ學術試験ニ合格スト認ムル者ニハ試験ヲ行ハスシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

小形船舶ニ乗組ム船舶職員ノ有スヘキ海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ學術試験ヲ行ハスシテ之ヲ授與スルコトヲ得

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ船舶職員タルコトヲ得ス又前條ノ體格検査及學術試験ヲ受クルコトヲ得ス

一、六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二、六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

三、瘋癲、白痴、身體不具其ノ他精神又ハ身體ニ缺陷ヲ有シ執職ニ不適當ナル者

四、海技免狀ノ行使ヲ停止セラレタル者

五、海技免狀ノ行使停止中ノ者

六、破産者ニシテ復權ヲ得サル者

遞信大臣ハ海技免狀受有者ニシテ前項第三號ニ該當スルノ疑アルモノニ就キ管轄官廳ヲシテ體格検査ヲ執行セシムルコトヲ得

第七條 左ニ掲ケル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

一、外國各港間ノミヲ航行スル船舶

二、漁獵其ノ他特殊ノ目的ニ專用スル船舶

三、特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第八條 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ相當スル船舶職員ヲ乗組マシメサルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶貸借ノ場合ニ於テハ船舶借入人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シテ船舶職員トナリタル者、海技免狀ノ行使ノ假停止若ハ差押中其ノ職務ヲ執リタル者又ハ海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法併合罪ノ例ヲ用キス

前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人カ法人ナルトキハ其ノ代表者、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ船舶ノ管理ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限りニ在ラス

第九條ノ二 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ日本船舶ニ非サル船舶ニシテ船舶安全法第十四條各號ニ掲ケタルモノニ準用スルコトヲ得

第九條ノ三 朝鮮總督ノ授與シタル海技免狀ニシテ遞信大臣ニ於テ第五條ノ規定ニ依リ授與シタルモノト同等ト認メタルモノハ之ヲ第五條ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ授與シタル海技免狀ト看做ス

第九條ノ四 地方長官ハ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セサル船舶ニ於テ船舶職員ニ該當スル職務ヲ執ル者ノ資格ニ關シ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第十條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十一條 明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十二條 明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム

第十三條 前項ニ掲ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ代用スルコトヲ得

第十四條 此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス

第十四條 遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乗組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齢二十歳以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ試験ヲ用キス

シテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得
 第十五條 遞信大臣ハ第一號表中近海區域ニシテ登簿噸數五百噸未滿ノ汽船及沿海區域ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限り二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乘組マシメサルコトヲ得

附 則 (明治三十八年三月法律第六十九號附則)

此ノ法律施行前海員名簿ニ登錄セラレタル者ハ海技免狀原簿ニ登錄セラレタル者ト看做ス
 此ノ法律施行ノ際現存スル日本船舶ニハ命令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外明治三十八年十二月三十一日マテ從前ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

附 則 (昭和四年四月法律第四十六號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和五年五月十日ヨリ施行)
 本法施行ノ際現ニ船舶職員トシテ就職中ノ者ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ本法施行後引續キ同一ノ船舶ニ於テ同一ノ職ヲ執ル期間内ニ限り仍從前ノ例ニ依リ就職スルコトヲ得
 本法ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス(一號表ハ省略)

附 則 (昭和九年二月勅令第十八號)

昭和八年法律第十二號ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス(第一號表ハ省略)
 第二號表

新舊免狀對照表

舊 免 狀	新 免 狀
甲種船長	甲種船長
甲種一等運轉手	甲種一等運轉士
甲種二等運轉手	甲種二等運轉士
甲種一等機關手	機關長
甲種二等機關手	一等機關士
乙種船長	乙種船長若ハ丙種船長
假免狀船長	乙種船長若ハ丙種船長
乙種一等運轉手	乙種一等運轉士若ハ丙種運轉士
假免狀一等運轉手	乙種一等運轉士若ハ丙種運轉士
乙種二等運轉手	乙種二等運轉士若ハ丙種運轉士
假免狀二等運轉手	乙種二等運轉士若ハ丙種運轉士
乙種一等機關手	一等機關士
假免狀一等機關手	一等機關士

船舶職員法施行細則

昭和五年二月公布省令第一號
昭和六年十一月改正省令第五十一號
昭和九年二月改正省令第二十五號

第一章 海技免狀

- 第一條 船舶職員法第三條第二項ニ依リ效力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀及其ノ行使範圍ハ第一號表ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 船舶職員法第五條第二項ニ依リ遞信大臣ニ於テ學術試驗ニ合格スト認ムル者及其ノ者ニ授與スヘキ海技免狀ハ別ニ之ヲ告示ス
- 船舶職員法第五條第三項ニ依リ授與スル海技免狀ハ小形船丙種運轉士免狀、小形船乙種二等運轉士免狀及小形發動機船三等機關士免狀ニ限ル
- 第三條 船舶職員ノ有スヘキ海技免狀ハ上級ノモノヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
- 各海技免狀ノ階級ノ上下ハ第二號表ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 船舶職員法第九條ノ三ニ該當スル海技免狀ハ別ニ之ヲ告示ス

乙種二等機關手	二等機關士
假免狀二等機關手	二等機關士
小形船船長	乙種二等運轉士
小形船機關手	三等機關士

第二章 船舶職員

- 第四條ノ二 本令ニ於テ近海區域トハ船舶安全法施行規則第二十八條ノ規定ニ拘ラス同條第二項ニ掲クル近海區域第一區又ハ同第二區ヲ謂ヒ二區以上ノ近海區域ヲ連續シタルモノ又ハ近海區域第三區ハ之ヲ遠洋區域トス
- 第五條 漁船ニ乗組マシムヘキ船舶ノ職員ニ付テハ第三號表ニ依ル但シ機關ヲ有スル漁業帆船ノ機關部職員ニ付テハ第六條ノ規定ニ依ルコトヲ得
- 第六條 機關ヲ有スル帆船ニ乗組マシムヘキ機關部ノ職員ニ付テハ第四號表ニ依ルコトヲ得
- 第六條ノ二 船舶安全法施行規則第三十五條ノ認可ヲ受ケタル場合ト雖船舶職員ニ關シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該船舶力航行ヲ認可セラレタル區域ニ付定メラレタル範圍内ニ於テ海技免狀ヲ受有スル者ノ乗組ヲ命スルコトヲ得
- 第七條 前三條ニ掲クル船舶ヲ除キ船舶職員法第七條第二號又ハ第三號ニ該當スルモノニ付テハ最寄遞信局長ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ掲クル船舶職員ヲ減シ又ハ之ニ代ヘテ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乗組マシムルコトヲ得
- 第八條 船舶所有者前條ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信局長ニ提出スヘシ
 - 一、船舶ノ種類、名稱、總噸數、速力及機關ノ種類、公稱馬力
 - 二、特殊ノ構造ヲ有スル船舶ナルトキハ其ノ構造
 - 三、特殊ノ目的ニ專用スル船舶ナルトキハ其ノ目的、期間及航程

四、航行スヘキ區域

五、輕減セムトスル船舶職員ノ名稱

六、相當ノ技能ヲ有スル者ヲシテ船舶職員ノ職ヲ執ラシメムトスルトキハ其ノ者ノ氏名及海技免狀ヲ有スル者ナルトキハ其ノ免狀ノ種類、海技免狀ヲ有セサル者ナルトキハ其ノ者ノ海上履歴

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本令ニ定ムル船舶職員ノ全部又

ハ一部ヲ乘組マシメサルコトヲ得但シ第一號乃至第三號ニ付テハ船舶職員ヲ雇入レ難キ場合ニ限ル

一、外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ最終港迄回航スルトキ

二、外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ補充ノ手續中ナルトキ

三、内地又ハ臺灣ト外國トノ間ヲ航行スル船舶カ外國ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ内地臺灣ノ港

迄歸航スルトキ

四、平水區域又ハ沿海區域ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶カ當該外國政府ノ法規ニ依

リ相當免狀受有者ヲ乘組マシメタルトキ

五、航行中船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキ

六、他船ニ曳カレテ航行スルトキ

七、入渠、修繕又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ船舶ヲ航行ノ用ニ供セサルトキ

八、管海官廳ノ認可ヲ受ケ倉庫船又ハ繫留船ヲ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ

前項第一號乃至第三號又ハ第七號ノ場合ニ於テ船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメタルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ前項但書ノ規定ニ該當スルコトヲ又第七號ノ場合ニ於テハ船舶ヲ航行ノ用ニ供セサル期間ヲ明カニシ内地ニ在リテハ管海官廳外國ニ在リテハ領

事官又ハ貿易事務官ニ遲滞ナク其ノ旨届出ツヘシ此ノ場合管海官廳又ハ領事官若ハ貿易事務官ハ必要アリト認ムルトキハ適當ト認ムル者ノ乘組ヲ命スルコトヲ得

船舶安全法施行規則第三十七條ノ規定ニ依リ旅客又ハ貨物ヲ搭載セスシテ船舶ヲ回航スルニ當リ第四條ノ二ニ定ムル遠洋區域ヲ航行スルトキハ近海區域ニ相當スル船舶職員近海區域ヲ航行スルトキハ沿海區域ニ相當スル船舶職員沿海區域ヲ航行スルトキハ平水區域ニ相當スル船舶職員ヲ各乘組マシムルコトヲ得

前各項ノ規定ハ日本船舶カ朝鮮、樺太、關東州若ハ南洋群島ノ各港間又ハ此等ノ港ト内地若ハ外國ノ港トノ間ヲ航行スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニ付テハ船長及機關長以外ノ船舶職員ノ乘組ヲ省略スルコトヲ得

一、内地又ハ臺灣ノ湖川港内ノミヲ航行スル船舶

二、平水ノ航行區域ヲ有シ始發港ヨリ最終港迄ノ航程三十海里未滿ノ航海ニ從事スル船舶

第十條ノ二 第四條ノ二ニ定ムル遠洋ノ航行區域ヲ有スル總噸數二百噸未滿ノ帆船ノ船長ハ丙種船長免狀、一等運轉士ハ丙種運轉士免狀ノ受有者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十條ノ三 第二種甲又ハ第三種甲ノ從業制限ヲ有スル漁船ニシテ「ベーリング」海及第二種乙若ハ

第三種乙ニ付規定スル區域内又ハ東ハ東經百七十五度、西ハ同九十度、南ハ南緯十三度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域内ニ於テ從業スルモノハ第二種乙又ハ第三種乙ノ從業制限ニ付定メラレタル船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得、此ノ場合内地又ハ臺灣ニ在リテハ管海官廳、外國ニ在リテハ領事官又ハ貿易事務官ニ就キ其ノ旨當該船舶検査證書ニ記載ヲ受クヘシ、前項ノ場合總

噸數三十噸未滿又ハ公稱馬力五十馬力未滿ノ船舶ニ在リテハ小形船乙種二等運轉士免狀、小形船丙種運轉士免狀又ハ小形發動機船三等機關士免狀ヨリ上級ノ免狀受有者ヲ乗組マシムルコトヲ要ス但シ第五條但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三章 機關ノ公稱馬力

第十一條 船舶所有者ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ船舶ノ機關ノ公稱馬力ヲ算定スヘシ但シ算式ニ依リ得タル數カ百未滿ナルトキハ小數點以下ヲ、百以上千未滿ナルトキハ一位以下ヲ、千以上ナルトキハ十位以下ヲ切捨ツヘシ

一、往復汽機

$$W = \sqrt[3]{P} \times \left(\frac{N \times D^2 \times \sqrt{S}}{A} + \frac{H}{B} \right)$$

Wハ公稱馬力

Pハ汽壓制限

每平方英尺(每平方吋封度)ニテ

Nハ低壓汽筒ノ數

Dハ低壓汽筒ノ徑

Sハ行長

Hハ汽機ノ總受熱面積 平方米(平方呎)ニテ

A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウヘシ

汽機ノ通風種類	A	B
自然通風ナルトキ	七〇四〇〇(九〇)	一・二二七(三二)
強壓通風ナルトキ	七〇四〇〇(九〇)	一・〇三五(二七)

二、「タービン」汽機

$$W = \frac{H}{A \times \left(1 + \frac{B}{P}\right)}$$

W、H、Pハ前號ニ同シ

A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウヘシ

汽機ノ通風種類	A	B
自然通風ナルトキ	〇・二二三(〇・四)	一・九七(二八)
強壓通風ナルトキ	〇・二〇四(一・二)	一・九七(二八)

三、「ディーゼル」式發動機

$$W = \frac{N \times D^2 \times (\sqrt[3]{D} + A)}{B}$$

Wハ公稱馬力

Nハ氣筒ノ數

Dハ氣筒ノ徑

耗(吋)ニテ

A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウヘシ

發動機ノ種類	A	B
四「サイクル」單働發動機	六(二・〇四一)	二九〇〇〇(一五・二九)
二「サイクル」單働發動機	六(二・〇四一)	一六一〇〇(八・四九)
四「サイクル」複働發動機	六(二・〇四一)	一四九〇〇(七・八六)
二「サイクル」複働發動機	六(二・〇四一)	八三〇〇(四・三八)
二「サイクル」向合吸鑄發動機	六(二・〇四一)	九三〇〇(四・九〇)

豫燃室ヲ有スル「デーゼル」式發動機ニ在リテハ算式ニ依リ得タルモノニ百分ノ八十ヲ乘スヘシ

四、「デーゼル」式ニ非サル發動機

$$W = \frac{N \times D^2 \times (\sqrt{D} - A)}{B}$$

W、N、D、ハ前號ニ同シ

A、B、ハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數ヲ用ウヘシ

發動機ノ種類	A	B
四「サイクル」單働發動機	一(〇・三四)	三〇〇〇(一五・八二)
二「サイクル」單働發動機	一(〇・三四)	一六七〇〇(八・八〇)

往復汽機及「タービン」汽機ノ併用ニ依リ推進スル船舶ノ機關ノ公稱馬力ハ前項第二號ニ依リ算定スヘシ

電動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關ノ公稱馬力ハ發電機ノ原動機關ニ付之ヲ算定スヘシ

第十二條 前條ニ該當セサル機關ヲ備フル船舶ノ機關ノ公稱馬力ハ船舶所有者ノ申請ニ依リ管海官廳之ヲ算定ス

第十三條 船長ハ船舶ノ機關ノ公稱馬力ノ算定書ヲ船内ニ備置キ當該官吏ノ要求アルトキハ之ヲ檢閲ニ供スヘシ

當該官吏必要ト認ムルトキハ前項ノ算定書ノ訂正ヲ命スルコトヲ得

第四章 登録

第十四條 海技免狀原簿ニ登録ヲ受ケムトスル者ハ當該船舶職員試験ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ申請書ヲ遞信省ニ提出スヘシ

船舶職員試験ニ合格シタル日ヨリ六十日以後ニ於テ前項ノ申請ヲ爲ス者ハ船舶職員法第六條第一項第一號、第二號及第六號ニ該當セサルコトノ證明書(申請ノ日ヨリ遡リ六十日以内ノ作成ニ係ルモノナルコト)ヲ申請書ニ添付スヘシ

第十五條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ海技免狀原簿ニ登録シ第二號書式ノ海技免狀ヲ授與ス

- 一、海技免狀ノ種類
- 二、氏名

三、本籍(外國人ナルトキハ國籍)

四、出生ノ年月日

五、船舶職員試験ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱

六、合格ノ年月日

第十六條 前條ノ登録ハ海員懲戒法ニ依リ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ニ付テハ審判不繼續ノ決定又ハ確定裁決アル迄又ハ海技免狀ノ行使ヲ停止セラレタル者ニ付テハ其ノ執行處分ヲ終ル迄之ヲ停止シ海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者ニ付テハ其ノ申請ヲ却下ス

第十七條 第十五條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ當該免狀受有者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ三十日以内ニ第三號書式ノ書面ヲ遞信省ニ提出シ登録ノ變更(及必要アルトキハ海技免狀ノ書換)ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ登録事項ノ變更ニ關スル戸籍ノ謄本又ハ抄本、外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ添付スヘシ

第十八條 遞信省ハ前條ノ申請ニ依リ登録ノ變更ヲ爲シ必要ノ場合ニハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請者ニ交附ス

第十九條 行政區劃ノ變更ニ因リ海技免狀受有者ノ本籍ニ變更ヲ生シタルトキハ遞信省ニ於テ登録ヲ訂正シ必要ノ場合ニハ無料ニテ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ本人ニ交付ス

海技免狀受有者前項ノ變更アリタルコトヲ知りタルトキハ遲滞ナク之ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

第二十條 海技免狀受有者船舶職員法第六條第一項第一號、第三號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキハ二週間以内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ提出シ登録ノ抹消ヲ申請スヘシ

船舶職員法第六條第二項ニ依リ體格検査ノ結果同條第一項第三號ニ該當スト決定セラレタル者ニ付亦同シ

海技免狀受有者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

登録ノ抹消ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添付シ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ若シ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第二十一條 遞信省ハ左ノ場合ニ於テ登録ノ抹消ヲ爲ス

一、前條ノ申請ヲ受ケタルトキ

二、登録ノ抹消ヲ申請スヘキ場合ニ於テ所定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ

三、不正ノ行爲ニ依リ海技免狀ノ交付ヲ受ケタルトキ又ハ當該船舶職員試験カ無効ナルトキ

四、海員懲戒法第四十五條第三項ニ依リ海技免狀ヲ無効ト爲シタルトキ

遞信省ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ登録ノ抹消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ當該免狀受有者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク該免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第二十二條 海技免狀受有者上級免狀ニ對スル登録ヲ受ケタルトキハ下級免狀ニ對スル登録ハ遞信省ニ於テ之ヲ抹消ス

前項ノ場合ニ於テ上級免狀ハ下級免狀ト引換ニ之ヲ交付ス

第二十三條 海技免狀受有者登録又ハ海技免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク第三號書式ノ書面ヲ遞信省ニ提出シ登録ノ訂正又ハ海技免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

登録ノ錯誤又ハ遺漏カ第十五條第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルトキハ前項ノ書面ニ戸籍ノ謄本又ハ抄本外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ添付スルヲ要ス

遞信省ハ第一項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登録ヲ訂正シ又ハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請者ニ交付ス

第二十四條 遞信省ハ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ訂正ヲ爲シ當該免許狀受有者ニ之ヲ通知ス

前項ノ錯誤又ハ遺漏カ免狀受有者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因ル場合ニ於テハ遞信省ハ必要ニ應シ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ當該免狀受有者ニ交付ス

第二十五條 海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ當該免狀受有者ハ遲滞ナク第四號書式ノ書面ヲ遞信省ニ提出シ再交付ヲ申請スヘシ

遞信省ハ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀ヲ申請者ニ交付ス

第二十六條 第十八條、第十九條、第二十三條若ハ第二十四條ニ依リ海技免狀ノ交付ヲ受ケ又ハ前條ニ依リ海技免狀毀損ノ爲其ノ再交付ヲ受クル場合ニ於テハ之ト引換ニ舊免狀ヲ返還スヘシ

第五章 手数料

第二十七條 左ノ各號ノ申請ヲ爲ス者ハ一件ニ付手数料壹圓ヲ納付スヘシ

一、第十七條又ハ第二十三條ニ依ル海技免狀ノ書換（記載事項ノ錯誤又ハ遺漏カ免狀受有者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因ル場合ニ限ル）

二、第二十五條ニ依ル海技免狀ノ再交付

前項第一號及第二號ノ申請ヲ同時ニ爲ストキハ一件ニ對スル手数料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第二十八條 手数料ノ納付ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル納付書ヲ申請書ニ添付シ之ヲ爲スヘシ登録稅ノ納付ニ付亦同シ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘキモノトス

第六章 雜則

第二十九條 海技免狀受有者船舶職員法第六條第一項第二號又ハ第六號ニ該當スルニ至リタルトキハ當該判決又ハ宣告確定後遲滞ナク左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ海技免狀ヲ遞信省ニ提出スヘシ

一、判決又ハ宣告確定ノ年月日
二、判決又ハ宣告ヲ爲シタル裁判所ノ名稱
三、判決ニ付テハ刑ノ種類、期間及刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル場合ニ在リテハ其ノ猶豫期間

前項ノ海技免狀ハ當該事實ノ存スル間遞信省之ヲ領置ス

海技免狀受有者船舶職員法第六條第一項第二號又ハ第六號ニ該當スル事實止ミタル旨ヲ明カニシ申請ヲ爲ストキハ前項ノ海技免狀ハ之ヲ還付ス

第三十條 第十七條第一項、第十九條第二項、第二十條、第二十一條第三項、第二十三條第一項第二十五條第一項又ハ前條第一項若ハ第三項ニ依リ申請書、届書又ハ海技免狀ヲ遞信省ニ提出スルニハ最寄管海官廳ヲ經由スルコトヲ得

第三十一條 海技免狀受有者ハ管海官廳又ハ當該吏員ノ要求アルトキハ海技免狀ヲ檢閱ニ供スヘシ

第三十二條 海技免狀原簿ニ登録ヲ爲シ又ハ之ヲ抹消シタルトキハ其ノ旨官報ニ公告ス

海技免狀滅失シルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ其ノ無効ナルコトヲ官報ニ

公告ス

第三十三條 本令ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶管理人ニ船舶賃貸借ノ場合ニ在リテハ之ヲ船舶賃借人ニ適用シ船長ニ關スル規定ハ之ヲ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ適用ス

第七章 罰則

第三十四條 第九條第二項及第四項、第十條ノ三第一項第十三條第一項、第十七條第一項、第二十二條第一項、第二十五條第一項、第二十九條第一項及第三十一條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本令ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十五條 本令ハ昭和四年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和五年五月十日ヨリ施行)

第三十六條 明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則及明治十七年五月農商務省達第十三號汽船公稱馬力算定方法ハ之ヲ廢止ス

第三十七條 本令施行前明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則ニ依リ爲シタル申請届出又ハ認可ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十八條 外國ノ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ニ於テハ領事官又ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ當分ノ内船舶職員ニ代ヘ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乗組マシムルコトヲ得

第三十九條 昭和四年法律第四十六號附則第二項ニ依リ船舶職員トシテ就職スル者ハ遲滞ナク第五號書式ノ申請書二通ニ就職ノ期日及現ニ就職中ナル事實ヲ證スル船員手帖其ノ他ノ證憑ヲ添付シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ引續就職者タル證明ヲ受クヘシ

第四十條 前條ノ就職者下船シタルトキハ遲滞ナク下船ノ日ヲ明カニシ最寄管海官廳ニ其旨届出ヘシ

第四十一條 昭和四年法律第四十六號附則第二項ニ依リ船舶職員トシテ就職中ノ者一時下船シ其ノ翌日ヨリ起算シ三十日以内ニ同一船舶ノ同一ノ職ニ復スルトキハ之ヲ引續就職者ト看做ス

前項ニ依リ復職スル者ハ其ノ都度第五號書式ノ申請書二通ニ引續就職者タル證明書及下船ノ期日ヲ證スル船員手帖其ノ他ノ證憑ヲ添付シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ復職ノ證明ヲ受クヘシ

第四十二條 明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則第八條ノ規定ニ依リ效力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀ハ第五號表ニ依リ之ニ相當スル新海技免狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十三條 明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則第八條ニ依ル效力ヲ一定區域ノ湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限リタル乙種一等運轉士免狀、效力ヲ漁業帆船又ハ帆船ニ限リタル甲種二等運轉士免狀、效力ヲ漁業帆船又ハ帆船ニ限リタリ甲種一等運轉士免狀及效力ヲ帆船ニ限リタル甲種船長免狀ハ第一條ノ規定ニ拘ラス仍從前ノ例ニ依リ之ヲ行使スルコトヲ得

第一號表 效力制限海技免狀表

効力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀	行 使 範 圍
小形船丙種運轉士免狀	沿海ノ航行區域ヲ有スル總噸數三十噸未満ノ帆船 第一種、第二種乙又ハ第三種乙ノ從業制限ヲ有スル總噸數三十噸未満ノ漁業帆船
沿岸丙種運轉士免狀	沿海ノ航行區域ヲ有スル總噸數七十噸未満ノ帆船漁業帆船

湖川港乙種二等運轉士免狀	一定區域ノ湖川港内ノミヲ航行スル汽船
小形船乙種二等運轉士免狀	沿海以下ノ航行區域ヲ有スル總噸數三十噸未満ノ旅客定員ヲ有セザル汽船、第一種、第二種乙又ハ第三種乙ノ從業制限ヲ有スル總噸數三十噸未満ノ漁業汽船
沿岸乙種二等運轉士免狀	沿海以下ノ航行區域ヲ有スル總噸數四十噸未満ノ汽船漁業汽船
漁船乙種一等運轉士免狀	漁業汽船
漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁業汽船
漁船甲種二等運轉士免狀	漁船
汽船甲種二等運轉士免狀	汽船
漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁業汽船
漁船甲種一等運轉士免狀	漁船
汽船甲種一等運轉士免狀	汽船
漁汽船甲種船長免狀	漁業汽船
漁船甲種船長免狀	漁船
汽船甲種船長免狀	汽船
湖川港汽船三等機關士免狀	湖川港内ノミヲ航行スル汽船(發動機船ヲ包含セズ)
小形發動機船三等機關士免狀	公稱馬力五十馬力未満ノ發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル公稱馬力三十馬力未満ノ發動機船

第二號表 海技免狀階級表

上	級	下	級
甲種船長免狀		甲種一等運轉士免狀	
甲種一等運轉士免狀		甲種二等運轉士免狀	
甲種二等運轉士免狀		丙種船長免狀	
		丙種運轉士免狀	
沿岸發動機船三等機關士免狀	公稱馬力百五十馬力未満ノ發動機ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ平水ノ航行區域ヲ有スル公稱馬力二百馬力未満ノ汽船	汽船ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ近海以下ノ航行區域ヲ有スル汽船(發動機船ヲ包含セズ)	汽船ヲ有スル漁船若ハ帆船又ハ近海以下ノ航行區域ヲ有スル汽船(發動機船ヲ包含セズ)
發動機船三等機關士免狀	汽船	汽船	汽船
汽船三等機關士免狀	汽船	汽船	汽船
近海發動機船二等機關士免狀	汽船	汽船	汽船
近海汽船二等機關士免狀	汽船	汽船	汽船
發動機船二等機關士免狀	汽船	汽船	汽船
發動機船一等機關士免狀	汽船	汽船	汽船
發動機船船長免狀	汽船	汽船	汽船

備考 本表ニ掲クル効力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀ノ行使範圍ハ効力ニ制限ヲ加ヘサル同種ノ免狀ノ行使範圍ヲ超ユルコトナシ

乙種船長免狀	乙種一等運轉士免狀
乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀
丙種船長免狀	丙種運轉士免狀
汽船甲種船長免狀	汽船甲種一等運轉士免狀
汽船甲種一等運轉士免狀	汽船甲種二等運轉士免狀
汽船甲種二等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀
漁船甲種船長免狀	漁船甲種一等運轉士免狀
漁船甲種一等運轉士免狀	漁船甲種二等運轉士免狀
漁船甲種二等運轉士免狀	沿岸丙種運轉士免狀
漁汽船甲種船長免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀
漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀
漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀
漁船乙種一等運轉士免狀	沿岸乙種二等運轉士免狀
漁船乙種二等運轉士免狀	小形船乙種二等運轉士免狀
沿岸丙種運轉士免狀	小形船丙種運轉士免狀

機長免狀	一等機關士免狀
一等機關士免狀	二等機關士免狀
二等機關士免狀	三等機關士免狀
發動機船機長免狀	發動機船一等機關士免狀
發動機船一等機關士免狀	發動機船二等機關士免狀
發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀
近海發動機船二等機關士免狀	發動機船三等機關士免狀
發動機船三等機關士免狀	沿岸發動機船三等機關士免狀
沿岸發動機船三等機關士免狀	小形發動機船三等機關士免狀
近海汽船二等機關士免狀	汽船三等機關士免狀
汽船二等機關士免狀	湖川港汽船三等機關士免狀
汽船三等機關士免狀	

同種免狀ニシテ効力ニ制限ヲ加ヘサルモノハ効力ニ制限ヲ加ヘタルモノニ對シ又同種免狀ニシテ汽船又ハ漁船ニ限リ効力ヲ有スルモノハ漁汽船ニ限リ効力ヲ有スルモノニ對シ各上級トス

乙 種 三 第 八 又 乙 種											
船 帆			船								
二百噸以上	二百噸未滿	三十噸未滿	五千噸以上			五千噸未滿			二千噸未滿		千噸未滿
			三等運轉士	二等運轉士	一等運轉士	船長	二等運轉士	一等運轉士	船長	一等運轉士	船長
丙種船長免狀	沿岸丙種運轉士免狀	小形船丙種運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀	漁汽船甲種船長免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀	漁汽船甲種船長免狀	漁船乙種一等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀	漁船乙種一等運轉士免狀
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第三號表

(其ノ一) 漁船船長及運轉士定員表

第 二 種		第 一 種										從業 制限				
汽		船 帆			汽							船類				
五百噸未滿	二百噸未滿	百噸未滿	三十噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿	三十噸未滿	五百噸以上			二百噸未滿				總噸數		
							一等運轉士	船長	船	船	船	船	船		船	船
沿岸乙種二等運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀	沿岸乙種二等運轉士免狀	丙種運轉士免狀	沿岸丙種運轉士免狀	小形船丙種運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀	漁船乙種一等運轉士免狀	沿岸乙種二等運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀	小形船乙種二等運轉士免狀	海	技	免	狀
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 一				從業 制限	
第 一				公 稱 馬 力	船 船 職 員
千五百馬力未滿	三百五十馬力未滿	百五十馬力未滿	五十馬力未滿	機 關 長	機 關 長
機 關 長	機 關 長	機 關 長	機 關 長	汽 機	汽 機
發 動 機	發 動 機	發 動 機	發 動 機	近海汽船二等機關士免狀	近海汽船二等機關士免狀
汽 機	汽 機	汽 機	汽 機	汽船三等機關士免狀	汽船三等機關士免狀
發 動 機	發 動 機	發 動 機	發 動 機	沿岸發動機船三等機關士免狀	沿岸發動機船三等機關士免狀
機 關 長	機 關 長	機 關 長	機 關 長	小形發動機船三等機關士免狀	小形發動機船三等機關士免狀
機 關 長	機 關 長	機 關 長	機 關 長	海 技 免 狀	海 技 免 狀
機 關 長	機 關 長	機 關 長	機 關 長	定 員	定 員

(其ノ二) 漁船機關長及機關士定員表

甲 種	
船	
五百噸以上	五百噸未滿
船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士
漁船甲種二等運轉士免狀	漁船甲種二等運轉士免狀
船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士
漁船甲種船長免狀	漁船甲種船長免狀
船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士
漁船甲種一等運轉士免狀	漁船甲種一等運轉士免狀
船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士
漁船甲種二等運轉士免狀	漁船甲種二等運轉士免狀
船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士
漁船甲種二等運轉士免狀	漁船甲種二等運轉士免狀

第 三		第 二		第 一	
帆		汽		汽	
二百噸未滿		五千噸以上		五千噸未滿	
船 長	船 長	船 長	船 長	船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士
丙種運轉士免狀	漁船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀
船 長	船 長	船 長	船 長	船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士
漁汽船甲種船長免狀	漁汽船甲種船長免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀
船 長	船 長	船 長	船 長	船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士
漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀
船 長	船 長	船 長	船 長	船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士
漁汽船甲種船長免狀	漁汽船甲種船長免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀	漁汽船甲種一等運轉士免狀
船 長	船 長	船 長	船 長	船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士
漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀
船 長	船 長	船 長	船 長	船 長	船 長
一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士	一等運轉士
沿岸丙種運轉士免狀	漁汽船甲種二等運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀	漁船乙種一等運轉士免狀

第 八 又 乙 種

四 千 馬 力 未 滿		二 千 馬 力 未 滿				千 五 百 馬 力 未 滿				千 馬 力 未 滿	
一 等 機 關 士		機 關 長		一 等 機 關 士		機 關 長		一 等 機 關 士		機 關 長	
汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機
一 等 機 關 士 免 狀	發 動 機 船 一 等 機 關 士 免 狀	機 關 長 免 狀	發 動 機 船 機 關 長 免 狀	一 等 機 關 士 免 狀	發 動 機 船 一 等 機 關 士 免 狀	機 關 長 免 狀	發 動 機 船 機 關 長 免 狀	近 海 汽 船 二 等 機 關 士 免 狀	近 海 發 動 機 船 二 等 機 關 士 免 狀	一 等 機 關 士 免 狀	發 動 機 船 一 等 機 關 士 免 狀
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

二 第 種

六 百 馬 力 未 滿		三 百 馬 力 未 滿		百 五 十 馬 力 未 滿		五 十 馬 力 未 滿		二 千 馬 力 以 上		二 千 馬 力 未 滿	
機 關 長		機 關 長		機 關 長		機 關 長		一 等 機 關 士		機 關 長	
汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	發 動 機	發 動 機	發 動 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機
近 海 汽 船 二 等 機 關 士 免 狀	近 海 發 動 機 船 二 等 機 關 士 免 狀	汽 船 三 等 機 關 士 免 狀	發 動 機 船 三 等 機 關 士 免 狀	沿 岸 發 動 機 船 三 等 機 關 士 免 狀	發 動 機	小 形 發 動 機 船 三 等 機 關 士 免 狀	發 動 機	一 等 機 關 士 免 狀	發 動 機 船 一 等 機 關 士 免 狀	機 關 長 免 狀	發 動 機 船 機 關 長 免 狀
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 八 又 甲 種 二											
三千馬力未滿				二千馬力未滿				千馬力未滿			
二等機關士		一等機關士		機 關 長		一等機關士		機 關 長		一等機關士	
汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機
二等機關士免狀	發動機船二等機關士免狀	一等機關士免狀	發動機船一等機關士免狀	機關長免狀	發動機船機關長免狀	一等機關士免狀	發動機船一等機關士免狀	機關長免狀	發動機船機關長免狀	近海汽船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 乙 種 三											
六百馬力未滿				四千馬力以上							
一等機關士		機 關 長		三等機關士		二等機關士		一等機關士		機 關 長	
汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機	汽 機	發 動 機
汽船三等機關士免狀	發動機船三等機關士免狀	二等機關士免狀	發動機船二等機關士免狀	二等機關士免狀	發動機船二等機關士免狀	一等機關士免狀	發動機船一等機關士免狀	一等機關士免狀	發動機船一等機關士免狀	機關長免狀	發動機船機關長免狀
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

甲		種		三	
三千馬力以上					
三等機關士		二等機關士		一等機關士	
汽機	發動機	汽機	發動機	汽機	發動機
二等機關士免狀	發動機船二等機關士免狀	一等機關士免狀	發動機船一等機關士免狀	一等機關士免狀	發動機船一等機關士免狀
—	—	—	—	—	—

備考

一、第二種乙又ハ第三種乙ト稱スルハ第二種又ハ第三種中東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル区域内ニ於テ從業スルモノヲ謂フ

二、第二種甲又ハ第三種甲ト稱スルハ第二種又ハ第三種中前號ニ規定スルモノヲ除キタルモノヲ謂フ

附則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス船舶安全法第三十五條ノ規定ニ依リ船舶検査ニ關シ舊法ニ依ル船舶ニ付テハ同法第三十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ受クルニ至ル迄之ニ乗組マシムヘキ船舶職員ニ關シテモ仍從前ノ例ニ依ル

昭和五年二月逡信省令第一號船舶職員法施行細則第一條ニ依ル湖川港三等機關士免狀及近海二等機關士免狀ハ第一條ノ規定ニ拘ラス仍從前ノ例ニ依リ之ヲ行使スルコトヲ得

近海二等機關士免狀ハ近海汽船二等機關士免狀ノ上級免狀トス

第四號表 機關ヲ有スル帆船ノ機關部職員定員表

公稱馬力	船舶職員	機關種類	海技免狀	定員
五十馬力未満	機關長	發動機	小形發動機船三等機關士免狀	—
百五十馬力未満	機關長	發動機	沿岸發動機船三等機關士免狀	—
三百馬力未満	機關長	汽機	汽船三等機關士免狀	—
		發動機	發動機船三等機關士免狀	—
六百馬力未満	機關長	汽機	近海汽船二等機關士免狀	—
		發動機	近海發動機船二等機關士免狀	—
六百馬力以上	機關長	汽機	一等機關士免狀	—
		發動機	發動機船一等機關士免狀	—

第五號表 海技免狀新舊對照表

舊	海	技	免	狀	新	海	技	免	狀
効力ヲ沿海航路限定ト爲ス總噸數五十噸未満ノ帆船ニ限リタル丙種運轉士免狀					沿岸丙種運轉士免狀				
効力ヲ漁船ニ限リタル丙種運轉士免狀					湖川港乙種二等運轉士免狀				
効力ヲ一定區域ノ湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限リタル乙種二等運轉士免狀					沿岸乙種二等運轉士免狀				
効力ヲ沿海航路若ハ平水航路ヲ航路限定ト爲ス總噸數三十噸未満ノ汽船ニ限リタル乙種二等運轉士免狀効力ヲ漁船ニ限リタル乙種二等運轉士免狀					漁船乙種一等運轉士免狀				
効力ヲ漁船ニ限リタル乙種一等運轉士免狀					漁汽船甲種二等運轉士免狀				
効力ヲ漁業汽船ニ限リタル甲種二等運轉士免狀					漁船甲種二等運轉士免狀				
効力ヲ漁船ニ限リタル甲種二等運轉士免狀					汽船甲種二等運轉士免狀				
効力ヲ漁業汽船ニ限リタル甲種一等運轉士免狀					漁汽船甲種一等運轉士免狀				
効力ヲ漁船ニ限リタル甲種一等運轉士免狀					漁船甲種一等運轉士免狀				
効力ヲ汽船ニ限リタル甲種船長免狀					汽船甲種船長免狀				
効力ヲ湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限リタル三等機關士免狀					湖川港三等機關士免狀				

効力ヲ發動機船ニ限リタル三等機關士免狀	發動機船三等機關士免狀
効力ヲ發動機船ニ限リタル二等機關士免狀	發動機船二等機關士免狀
効力ヲ發動機船ニ限リタル一等機關士免狀	發動機船一等機關士免狀
効力ヲ發動機船ニ限リタル機關長免狀	發動機船機關長免狀

第一號書式

海技免狀原簿登錄申請書

- 一、登錄ヲ申請セムトスル海技免狀ノ種類
 - 二、氏名(振假名ヲ附スヘシ)
 - 三、本籍
 - 四、出生ノ年月日
 - 五、船舶職員試験ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
 - 六、合格ノ年月日
 - 七、現ニ受有スル海技免狀ノ種類及番號
 - 八、海員懲戒法ニ依ル審判繫屬ノ有無
- 右海技免狀原簿ニ登錄ノ上海技免狀授與相成度船舶職員法施行細則第十四條ニ依リ及申請候也

年 月 日

申請者 氏

名 印

現住所

逓信大臣 宛

第二號書式

(花紋)

第 號

道府縣(外國人ニ在リテハ國籍)

氏

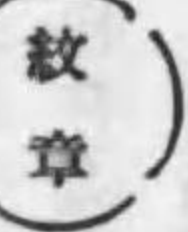
年

月

日生

名

年 月 日 登錄



(免狀種類)免狀

明治二十九年法律第六十八號船舶職員法ニ依リ之ヲ授與ス

年 月 日

逓信大臣(爵)

氏

名 印

備考

- 一、甲種船長、甲種一等運轉士、甲種二等運轉士、機關長、一等機關士及二等機關士(効力ヲ近海區域ニ限リタルモノヲ除ク)ノ免狀ハ其ノ裏面ニ英譯文ヲ附ス
- 一、前項ニ掲クル免狀ノ紋章ハ菊章トシ其ノ他ノ免狀ノ紋章ハ桐章トス

第三號書式

海技免狀原簿登錄變更
海技免狀原簿登錄訂正
海技免狀原簿登錄換
申請書

一、海技免狀ノ番號
二、海技免狀ノ種類
三、登錄ノ年月日
四、氏名
五、本籍
六、出生ノ年月日
右ノ通 登錄變更 相成度戸籍簿本(抄本)及 登錄稅 相添及申請候也
免狀書換

新(正)(振假名ヲ附スヘシ)
舊(誤)
新(正)
舊(誤)
誤正

年 月 日

通信大臣宛

申請者 氏
現住所

名 印

備考 本書式中不用ノ事項ハ申請者ニ於テ之ヲ抹消スヘシ

第四號書式

海技免狀再交付申請書

一、海技免狀ノ番號
二、海技免狀ノ種類
三、登錄ノ年月日
四、氏名(振假名ヲ附スヘシ)
五、本籍
六、出生ノ年月日
右 年 月 日(流失、遺失、紛失、毀損等ノ事由ヲ記載ス)ニ付再交付相成度手数料相
添及申請候也

年 月 日

通信大臣宛

申請者 氏
現住所

名 印

第五號書式

引續就職者證明申請書

- 一、船舶職員ノ名稱
 - 二、海技免狀ノ種類及番號
 - 三、氏名
 - 四、就職年月日(復職者證明申請者ニハ下)
(船年月日ヲ記載スルコト)
 - 五、船舶ノ番號、種類及名稱
 - 六、總噸數又ハ機關ノ種類(汽機若ハ發動機ノ別)及公稱馬力
 - 七、航行區域
 - 八、船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
- 右者昭和四年法律第四十六號附則第二項ニ依ル引續就職者ナルコトヲ證明相成度及申請候也

年 月 日

申請者 氏
現住所

名 印

管海官廳宛

第一號表

(其ノ一) 船長及運轉士定員表

航行區域	沿海區域				水平區域				船舶種類	總噸數	船舶職員	免狀種類	定員
	帆船	汽船			汽船								
	二十噸以上	千噸以上	千噸未滿	二百噸未滿	千五百噸以上	千五百噸未滿	五百噸未滿	五百噸未滿					
	船長	船長	一等運轉士	船長	一等運轉士	船長	船長	船長					
	乙種一等運轉士免狀	丙種運轉士免狀	乙種船長免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	乙種二等運轉士免狀					
	—	—	—	—	—	—	—	—					

備考 本表ノ定員ハ機關長ヲ除クノ外最少員數ヲ示シタルモノトス	遠 洋 區 域												
	二千馬力未満			三千馬力未満			五千馬力未満ノ旅客船又ハ三千馬力以上ノ非旅客船			五千馬力以上ノ旅客船			
	機 關 長	一 等 機 關 士	二 等 機 關 士	機 關 長	一 等 機 關 士	二 等 機 關 士	機 關 長	一 等 機 關 士	二 等 機 關 士	三 等 機 關 士	機 關 長	一 等 機 關 士	二 等 機 關 士
	機 關 長 免 狀	一 等 機 關 士 免 狀	二 等 機 關 士 免 狀	機 關 長 免 狀	一 等 機 關 士 免 狀	二 等 機 關 士 免 狀	機 關 長 免 狀	一 等 機 關 士 免 狀	二 等 機 關 士 免 狀	三 等 機 關 士 免 狀	機 關 長 免 狀	一 等 機 關 士 免 狀	二 等 機 關 士 免 狀
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

公稱馬力算定方法

船舶職員法ハ昭和四年法律第四十六號ヲ以テ改正セラレ機關ヲ有スル船舶ニ乗組マシムヘキ機關部職員ニ付テハ其ノ機關ノ公稱馬力ニ依リテ定メラルルコトトナリ、其ノ公稱馬力ハ船舶所有者ニ於テ船舶職員法施行細則第十一條ニ規定スル算式ニ依リテ之ヲ算定スヘキモノテアルカラ之カ算定上ニ付解

一、機關ノ公稱馬力ハ將來交付セララルヘキ船舶検査證書ノ公稱馬力欄ニ記入セララルモノテアルガ之カ記入ノ時期ハ船舶検査證書ノ書換ヲ行フ機會、即チ定期検査等ヲ受クル場合デアツテ、其際検査官吏ニ依リ、船主ノ算定シタル公稱馬力ヲ更ニ試算シタル上、之ヲ船舶検査證書面ニ記載セラルルノデアル、故ニ機關ノ公稱馬力ノ記載ヲ、受クルノミノ目的ニテ態々船舶検査證書ノ書替ヲ申請スルニハ及バナイモノデアアル。

二、機關ノ公稱馬力ヲ算定シタルトキハ其ノ算定書ヲ必ス船内ニ備ヘ置クヘキテアルカ其ノ算定書ニ付テハ別段一定シタル形式ナク單ニ計算ノ基礎トシタル細目ヲ明ニ列擧シ本船機關ノ公稱馬力ハ斯クノ如クニ算定シタリト臨検吏員ニ示シ得ル程度ノモノヲ以テ足ルノデアアル。

三、機關ノ公稱馬力算定上必要ト爲ス細目ハ汽機ニ對シテハ汽壓制限、低壓汽筒ノ數、徑及行長、汽缸ノ受熱面積、通風ノ種類等又發動機ニ對シテハ氣筒ノ徑及其ノ數テアツテ孰レモ船舶ニ於テ機關士ノ容易ニ測定シ得ルモノデアアルカ其ノ解釋ニ付キテハ次ニ述フル通りデアアル。

(イ) 汽壓制限
船舶検査證書ニ記載スルモノヲ云フ
(ロ) 低壓汽筒ノ數
汽機一臺ニシテ低壓汽筒二箇ヲ有スルトキ其ノ數ヲ二箇ト算スルハ元ヨリ明瞭デアアルカ今左右兩舷機ヲ備ヘ各機一箇ノ低壓汽筒ヲ有スル場合ニ於テハ亦二箇ト算スヘキデアアル尙算式上ヨリ

容易ニ知り得ヘキコトテハアルカ汽機ニ臺ニ對シ各一臺宛ノ馬力ヲ算出シ之ヲ加フルモノテハナイ

(ハ) 汽筒ノ徑

製造當時ノ原徑ヲ云フ原徑不明ナルトキハ實測シタル徑ヲ云ヒ又徑ヲ變更スル爲内筒ヲ新換シタルモノニ對シテハ之ヲ更ニ原徑トスヘキハ云フマテモナイ

(ニ) 行 長

曲拐ノ長サ(曲拐軸及曲拐栓ノ兩中心間ノ距離)ノ二倍ヲ云フ一般ニ馬力ノ計算ニ行長ヲ關係セシムルトキ之カ單位ヲ米又ハ呎ヲ以テスルモノテアルカ算式ニテハ之ト異リ耗又ハ吋トシタルヲ以テ算定スルニ當リ此ノ點ハ注意スヘキテアル

(ホ) 總受熱面積

推進機關用蒸氣ヲ發生シ得ヘキ汽罐ノ總受熱面積ヲ云フ故ニ例ヘハ主汽罐五箇ヲ有スル船舶ニ於テ航海又ハ其ノ他ノ都合上交互ニ三罐ノミヲ使用スルトシテモ勿論五罐ノ受熱面積ヲ以テ算スヘキハ云フマテモナク又常ニ補助汽罐ニ使用スル小型汽罐ト雖主汽罐同様ノ汽壓制限ヲ有シ且汽管ノ配置カ主汽罐ニ連絡スルモノハ勿論之ヲ算入スルモノテアル

受熱面積ノ單位ハ平方米(平方呎)テアルカラ耗(吋)ニテ測リタルモノハ之ヲ米(呎)ニ換算シテ計算ヲ爲スヘキハ當然テアル受熱面積ノ實測及計算ニ關シテハ次ノ定メニ依リタイト思フ

一、筒形汽罐

筒形汽罐ノ總受熱面積トハ焰管、後管板、燃燒室板及火爐ノ各受熱面積ノ總和ヲ云フ

(イ) 焰管ノ受熱面積ハ左式ニ依ル

$$A_1 = N \times l \times d_1 \times \pi$$

A_1 ハ焰管ノ受熱面積

d_1 ハ焰管ノ外徑

l ハ焰管ノ長(前後兩管板間ノ長サヲ云フ)

N ハ焰管ノ數

π ハ圓周率(三・一四一六)

(ロ) 後管板ノ受熱面積ハ左式ニ依ル

$$A_2 = a - N \times a_1$$

A_2 ハ後管板ノ受熱面積

a ハ後管板ノ全面積

a_1 ハ焰管取付孔ノ面積($d_1^2 \times \frac{\pi}{4}$)

d_1 及 N ハ前ニ同シ

(ハ) 燃燒室板ノ受熱面積ハ

火床ヲ有スル場合ニハ火床線以上ノ各板ノ面積ノ和ヲ云フ

火床ヲ有セサル場合ニハ各板ノ面積ノ和ヲ云フ

(ニ) 火爐ノ受熱面積ハ左式ニ依ル

$$A_3 = N \times l \times C$$

A_3 ハ火爐ノ受熱面積

N ハ火爐ノ數

l ハ火爐ノ長

但シ皺形火爐ニテハ一箇ノ皺ヲ長サニ向ケ皺ニ沿ヒテ測リ其ノ長サニ皺ノ數ヲ乗シタルモノトス
又ハ、次ノ皺形火爐ニテハ、左式ニ依リテモ差支ハナイ

$$S = S_1 + A \times n$$

n ハ皺ノ數 左ハ兩管板間ノ距離 A ハ左表ニ依ル

火 爐 種 類	A
デ イ ト ン 式	1 1/4 吋
モ リ ソ ン、サ ス ベ ン シ ョ ン 式	3/4 吋
リ ー ズ、フ オ ー ジ、バ ル プ 式	1 1/4 吋
フ ラ ク ス 式	1 吋

C ハ左表ニ依ル

$C = \frac{d_1 \times \pi}{2}$	火床線カ火爐ノ中心線ノ位置ニアルモノ
$C = \frac{d_1 \times \pi}{2} + G_2$	火床線カ火爐ノ中心線ノ位置ヨリ b タケ下ニアルモノハ簡單ノ方法トシテ之ニ依リテ差支ナイ
$C = \frac{d_1 \times \pi}{2}$	火床ヲ有セサルモノ
d ₁ ハ火爐ノ徑ニシテ皺形火爐(バーブス式ヲ除ク)ニテ(グースネツク)部以外ニ於ケル最大外徑ト最少内徑トノ平均徑ヲ云フ	

二、水管式汽鍋

航路ノ都合上往航ニ石炭ヲ復航ニ燃油ヲ焚クカ如キモノハ火床ヲ有スルモノト見做ス

水管式汽鍋ノ總受熱面積トハ總水管ノ受熱面積ヲ云フ即チ

$$A_1 = N \times l \times d \times \pi$$

A₁ ハ總受熱面積

d ハ水管ノ外徑

l ハ水管ノ長サ(但シ管カ曲形ナルモノハ長サニ向ケ曲リニ沿ヒテ測ルモノトス)

N ハ水管ノ數

左表ハ管ノ長サ一呎ニ對シ、平方呎ニ於ケル受熱面積ヲ集メタルモノナレハ、表ヨリ管徑ニ對スル受熱面積

管ノ外徑 (吋)	長サ 1 呎ニ於ケル受熱面積 (平方呎)
1	0.1618
1 1/8	0.2945
1 1/4	0.3272
1 3/8	0.3600
1 1/2	0.3926
1 5/8	0.4254
1 3/4	0.4580
1 7/8	0.4745
1 15/16	0.4909
2	0.5072
2 1/8	0.5236
2 1/4	0.5533
2 3/8	0.5890
2 1/2	0.6217
2 5/8	0.6545
2 3/4	0.6372
2 7/8	0.7200
3	0.7540
3 1/8	0.7853
3 1/4	0.8181
3 3/8	0.8503
3 1/2	0.8835
3 5/8	0.9163
3 3/4	0.9490
3 7/8	0.9817
4	1.0014
4 1/4	1.0472
4 1/2	1.1126
4 3/4	1.1781
4 7/8	1.2362
5	1.3680

右ヲ求メ長サ及ヒ數ヲ乗スレハ總受熱面積ヲ知ルコトガ出來ル

以上ハ實測ノ方法ヲ示シタルモノテアルカ多クノ船舶中ニハ偶々業務ノ都合上休鑪シ得サルモノモアラウ之等ニ對シテハ受熱面積ノ實測ハ多少ナリトモ不便ヲ感スルコトテアルカラ若シ船舶又

ハ製造工場等ニ之カ記録ノ保存スルモノアラハ其ノ數字ニ信賴シテ算定スルヲ便ナリトスヘシ又何處ニモ其ノ記録ヲ存セサルトキハ船長保管ノ検査手帖ヲ管海官廳ニ持參シ係官ヨリ手帖ニ記載セル其ノ數字ヲ聞クコトモ亦一方法ナリト思フ

- 四、算定上數ノ平方及立方根ハ小數點以下三位マテトス又算式ヨリ得タル數カ100未満ノモノハ小數點以下ヲ100以上1000未満ノモノハ一位以下ヲ1000以上八十位以下ヲ各切捨テ以テ機關ノ公稱馬力ト爲ス例ヘハ99.25ト算出シタルトキハ99ト爲シ165ナラハ160ト爲シ1326ハ1300ト爲スカ如シ
- 五、第一號表及第二號表ハ計算ヲ簡便ナラシムル一助トシテ添付シタルモノテアルカ第一號表ハ徑、行長及汽壓ニ對シ普通有リ勝ノ數ヲ摘出シテ其ノ平方ト立方根トヲ列舉シタルモノテアル、又第二號表ハ發動機ノ氣筒一箇ニ對スル徑ト公稱馬力トヲ對照シタルモノテアルカラ船舶ノ有スル氣筒數ヲ之ニ乘スルトキハ其ノ船舶ノ機關ノ公稱馬力ヲ知り得ヘキテアル
- 六、次ニ各算式ニ例ヲ當テ嵌メ計算ノ方法ヲ明示ス
- 一、往復汽機

$$W = \sqrt[3]{P} \times \left(\frac{N \times D^2 \times \sqrt[3]{S}}{A} + \frac{H}{B} \right)$$

- Wハ公稱馬力
 Pハ汽壓制限 每平方英尺(每平方吋封度)ニテ
 Nハ低壓汽筒ノ數
 Dハ低壓汽筒ノ徑 耗(吋)ニテ
 Sハ行長 耗(吋)ニテ

Hハ汽罐ノ總受熱面積 平方米(平方呎)ニテ

A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル、但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用フヘシ

汽罐通風種類	A	B
自然通風ナルトキ	七〇四〇〇(九〇)	一・二二七(三二)
強壓通風ナルトキ	七〇四〇〇(九〇)	一・〇三五(二七)

例、二聯成汽機一箇アリ、汽壓制限115封度、低壓汽筒ノ數一箇、其ノ徑21½吋、行長13吋、汽罐ノ總受熱面積10平方呎自然通風ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \sqrt[3]{115} \times \left(\frac{1 \times (21\frac{1}{2})^2 \times \sqrt[3]{13}}{90} + \frac{440}{32} \right)$$

第一號表ヨリ $\sqrt[3]{115} = 4.862$
 $(21\frac{1}{2})^2 = 446.265$
 $\sqrt[3]{13} = 2.351$

$$\therefore W = 4.862 \times \left(\frac{1 \times 446.265 \times 2.351}{90} + 13.75 \right)$$

$$= 4.862 \times 25.407$$

$$= 123.528$$

一位以下ヲ切捨テ
 = 120

例、三聯成汽機二箇ヲ備フル汽船アリ汽機ノ低壓汽筒ハ各一箇ニシテ其ノ徑27吋行長27吋汽壓制限

200封度汽罐ノ總受熱面積9108平方呎強壓通風ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \sqrt[3]{200} \times \left(\frac{2 \times (56)^2 \times \sqrt[3]{48}}{90} + \frac{9108}{27} \right)$$

第一號表ヨリ $\sqrt[3]{200} = 5.848$

$$\sqrt[3]{48} = 3.634$$

$$(56)^2 = 3136$$

$$\therefore W = 5.848 \times \left(\frac{2 \times 3136 \times 3.634}{90} + \frac{9108}{27} \right)$$

$$= 5.848 \times (253.249 + 337.333)$$

$$= 5.848 \times 590.582$$

$$= 3453$$

十位以下ヲ切捨テ

$$= 3400$$

二「タービン」汽機

$$W = \frac{H}{A \times \left(1 + \frac{B}{P}\right)}$$

W、H、Pハ前號ニ同シ

A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル

但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用フヘシ

汽罐ノ通風種類	A	B
自然通風ナルトキ	0.2113(0.214)	1.97(2.18)
強壓通風ナルトキ	0.2104(0.211)	1.97(2.18)

例、「タービン」汽機二箇ヲ備フル船舶アリ汽壓制限200封度、汽罐ノ總受熱面積9508平方呎強通風ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \frac{9508}{2.2 \times \left(1 + \frac{28}{200}\right)}$$

$$= 3791$$

十位以下ヲ切捨テ

$$= 3700$$

例、二箇ノ三聯成汽機及一箇ノ低壓タービン汽機ヲ連結スル汽機アリ汽壓制限200封度總受熱面積16861タービン汽機ノ算式ニ依ル規定ナルヲ以テ

$$W = \frac{16861}{2.2 \times \left(1 + \frac{28}{200}\right)}$$

$$= 6722$$

十位以下ヲ切捨テ

$$= 6700$$

例、三相交流ノ電動機二箇ヲ有スル電氣推進船アリ、發電機ノ原動機關ハ「スタルタービン」機ナリ汽壓制限230封度汽罐ノ總受熱面積6478平方呎強壓通風ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

推進機關トシテ電動機ヲ備フル船舶ノ公稱馬力ハ發電機ノ原動機關ノ算式ニ依ル規定ナレハ

$$W = \frac{6478}{2.2 \times \left(1 + \frac{28}{230}\right)}$$

$$= 2624 \quad \text{十位以下ヲ切捨テ}$$

$$= 2600$$

三、「デイーゼル」式發動機

$$W = \frac{N \times D^2 \times (\sqrt[3]{D} + A)}{B}$$

W ハ公稱馬力

N ハ氣筒ノ數

D ハ氣筒ノ徑 耗(吋)ニテ

A、B ハ定數ニシテ左表ニ依ル

但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用フヘシ

發動機ノ種類	A	B
四サイクル單働發動機	六(二・〇四一)	二九〇〇〇(一五・二九)
二サイクル單働發動機	六(二・〇四一)	一六一〇〇(八・四九)
四サイクル複働發動機	六(二・〇四一)	一四九〇〇(七・八六)

豫燃室ヲ有スル(デイーゼル)發動機ニアリテハ算式ニ依リ得タルモノニ百分ノ八十ヲ乘スヘシ
 例、ズルザー型四筒二サイクル單働デイーゼル式發動機二箇アリ氣筒ノ徑310耗豫燃室ヲ有スルト
 キ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \frac{2 \times 4 \times (310)^2 \times (\sqrt[3]{310} + 6)}{16100}$$

第一號表ヨリ (310)² = 96100

$$\therefore W = \frac{8 \times 96100 \times (6.767 + 6)}{16100}$$

$$= 609.6$$

豫燃室ヲ有スル故

$$W = 609.6 \times 0.8 = 487.68$$

$$W = 480$$

一位以下ヲ切捨テ

又第二號表ヨリ徑310耗ハ76.2馬力ナルヲ知リ

$$76.2 \times 4 \times 2 = 609.6$$

$$609.6 \times 0.8 = 487.68$$

一位以下ヲ切捨テ

∴ W = 480

例、二サイクル向合吸鋸式六筋ディーゼル發動機アリ氣筒ノ徑22吋ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \frac{6 \times (22)^2 \times \sqrt[3]{22} + 2.041}{4.9}$$

第一號表ヨリ (22)² = 484

$$\sqrt[3]{22} = 2.802$$

$$\therefore W = \frac{6 \times 484 \times (2.802 + 2.041)}{4.9}$$

$$= 2870$$

十位以下ヲ切捨テ

$$= 2800$$

四、ディーゼル式ニ非サル發動機

$$W = \frac{N \times D^2 \times (\sqrt[3]{D} - A)}{B}$$

W、N、Dハ前號ニ同シ

A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル

但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用フヘシ

發動機ノ種類	A	B
四サイクル單働發動機	1(0.34)	3000(15.82)
二サイクル單働發動機	1(0.34)	1670(8.80)

例、單筋二サイクル單働石油發動機アリ氣筒ノ徑14.5吋ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \frac{(14.5)^2 \times (\sqrt[3]{14.5} - 0.34)}{8.8}$$

第一號表ヨリ (14.5)² = 210.25

$$\sqrt[3]{14.5} = 2.438$$

$$\therefore W = \frac{210.25 \times 2.098}{8.8} = 50.12$$

小数點以下ヲ切捨テ

$$W = 50$$

又第二號表ヨリ求ムヘシ

$$14\frac{1}{2} \times 50.12$$

馬力ナレハ

$$\therefore W = 50.12$$

小数點以下ヲ切捨テ

$$= 50$$

船舶職員試驗規程

(昭和五年三月省令第六號)
(昭和九年二月改正省令第二十六號)

第一章 總 則

第一條 船舶職員試驗ハ左ノ三十七種トス
小形船内種運轉士試験

- 沿岸丙種運轉士試驗
- 丙種運轉士試驗
- 丙種船長試驗
- 小形船乙種二等運轉士試驗
- 湖川港乙種二等運轉士試驗
- 沿岸乙種二等運轉士試驗
- 乙種二等運轉士試驗
- 漁船乙種一等運轉士試驗
- 乙種一等運轉士試驗
- 乙種船長試驗
- 漁汽船甲種二等運轉士試驗
- 漁船甲種二等運轉士試驗
- 汽船甲種二等運轉士試驗
- 甲種二等運轉士試驗
- 漁汽船甲種一等運轉士試驗
- 漁船甲種一等運轉士試驗
- 汽船甲種一等運轉士試驗
- 甲種一等運轉士試驗
- 漁汽船甲種船長試驗

- 漁船甲種船長試驗
 - 汽船甲種船長試驗
 - 甲種船長試驗
 - 小形發動機船三等機關士試驗
 - 湖川港汽船三等機關士試驗
 - 沿岸發動機三等機關士試驗
 - 發動機船三等機關士試驗
 - 汽船三等機關士試驗
 - 三等機關士試驗
 - 近海發動機船二等機關士試驗
 - 發動機船二等機關士試驗
 - 近海汽船二等機關士試驗
 - 二等機關士試驗
 - 發動機船一等機關士試驗
 - 一等機關士試驗
 - 發動機船機關長試驗
 - 機關長試驗
- 第二條 試驗ハ別ニ告示スル場所及期日ニ於テ管海官廳定期ニ之ヲ行フ臨時ニ試験ヲ行フ必要アル場合ニ於テハ其ノ場所及期日ヲ隨時公示ス

第三條 本令ニ規定スル乗船期間ヲ計算スルニハ乗船ノ翌日ヨリ之ヲ起算シ末日ハ終了ニ至ラサルモ之ヲ算入ス

月又ハ年ヲ以テ定ムル乗船期間ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算シ月又ハ年ノ始ヨリ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於ケル起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ最後ノ月又ハ年ニ應當口ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了スルモノトス

乗船期間ヲ計算スルニハ一月ニ滿タサル乗船日數ハ之ヲ合算シ三十日ニ滿ツルトキ一月トシ又ハ一年ニ滿タサル乗船月數ハ之ヲ合算シ十二月ニ滿ツルトキ一年トス

第二章 受 驗 資 格

第四條 試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗開始期日ノ前日迄ニ年齡滿二十年ニ達シ試驗ノ種類ニ應シ別表受驗履歴表ニ定ムル履歴ノ一ヲ有スルコトヲ要ス

小形船丙種運轉士試驗、小形船乙種二等運轉士試驗及小形發動機船三等機關士試驗ヲ受ケムトスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且試驗ノ種類ニ應シ別表受驗履歴表ニ定ムル履歴ノ一ヲ有スルコトヲ要ス

一、所轄管海官廳ノ認可シタル講習會ニ於テ所定ノ講習ヲ卒リ講習ノ終了日迄ニ年齡二十年ニ達シタル者

二、別ニ告示スル水産學校、水産講習所其ノ他船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ關スル學術ヲ教授スル學校ヲ卒リ年齡滿二十年ニ達シタル者

第五條 上級免狀ニ對スル受驗履歴ハ下級免狀ニ對スル受驗履歴、上級免狀ヲ有シテ執職シタル履歴

ハ下級免狀ヲ有シテ執職シタル履歴又上級ノ職ヲ執リタル履歴ハ下級ノ職ヲ執リタル履歴トシテ之ヲ認ムルコトヲ得

總噸數百噸以上ノ機關ヲ有セサル縱帆裝置ノ近海以上ノ航行區域ヲ航行スル帆船ニ乗組ミタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間横帆裝置ノ近海區域以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乗組ミタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得

機關長及機關士ノ試驗ニ在リテハ別表受驗履歴表ニ定ムル乗船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄汽船（發動機船ヲ包含セス）ニ乗組ミタル期間ハ發動機船ニ乗組ミタル期間ハ汽船ニ乗組ミタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得

湖川港汽船三等機關士試驗汽船三等機關士試驗及三等機關士試驗ニ對スル乗船履歴ニ付テハ火夫トシテ勤務シタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間機關運轉ニ從事シタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得但シ換算シタル期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

機關ヲ有スル帆船ニ乗組ミタル履歴ニ付テハ機關長及機關士ノ試驗ニ在リテハ其ノ乗船期間ノ二分ノ一ニ相當スル期間汽船（發動機船ヲ包含セス）又ハ發動機船ニ乗組ミタルモノトシテ計算ス但シ此ノ場合ニ於テハ第三項ノ規定ヲ準用ス

第六條 遞信大臣ハ朝鮮、樺太、關東州、南洋群島若ハ外國ノ港又ハ此等ノ各港間ヲ航行スル船舶ニ乗組ミタル履歴ハ別表受驗履歴表ニ照シ之ヲ相當ノ履歴トシテ認定スルコトヲ得

上海漢口間ヲ航行スル汽船ニ乗組ミタル期間ハ別表受驗履歴表ニ定ムル乗船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄沿海區域ヲ航行スル汽船ニ乗組ミタルモノト看做ス

第七條 遞信大臣ハ朝鮮、若ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶又ハ外國船舶ニ乗組ミタル履歴ハ別表受

驗履歴表ニ照シ之ヲ相當ノ履歴トシテ認定スルコトヲ得

第八條 朝鮮總督ノ授與シタル海技免狀又ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル外國政府ノ授與シタル海技免狀ヲ有シテ執職シタル履歴ハ遞信大臣ノ授與シタル相當海技免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス

第九條 朝鮮總督又ハ外國政府ノ授與シタル海技免狀ヲ有スル者ハ遞信大臣ノ認定スル所ニ依リ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第十條 別ニ告示スル學校ニ於テ航海又ハ機關ニ關スル課程及練習ヲ卒リタル者ハ其ノ乘船期間カ別表受驗履歴表ニ定ムル乘船期間ニ達セサルモ遞信大臣ノ認定スル所ニ依リ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第十一條 別表受驗履歴表其ノ二ニ定ムル工場履歴ハ別ニ告示スル機關工場ニ於テ汽機、汽罐若ハ發動機ノ製造又ハ修繕ニ從事シタルモノナルコトヲ要ス

前項ノ工場履歴ノ期間ハ當該試驗ニ付定メラレタル乘船履歴ノ最短期間ヲ超ユル期間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

機關工場ニ於ケル勤務期間ノ計算ニ付テハ第三條ノ規定ヲ準用ス但シ缺勤日數ハ之ヲ控除スルモノトス發動機船二等機關士試驗又ハ近海發動機船二等機關士試驗ノ受驗履歴トシテノ工場ニ勤務シタル期間ハ別表受驗履歴表ニ定ムル工場履歴ノ二分ノ一ニ達スル迄二等機關士試驗又ハ近海汽船二等機關士試驗ノ受驗履歴トシテノ工場ニ勤務シタルモノト看做シ之ヲ換算スルコトヲ得

第十二條 左ニ掲クル履歴ハ之ヲ受驗履歴トシテ爲スコトヲ得ス

- 一、倉庫船又ハ繫留船ニ乗組ミタル履歴
- 二、年齢十四年未滿ノ履歴

- 三、試驗開始期日ヨリ遡リ十年ヲ超ユル前ノ履歴
- 四、主トシテ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事セサル職務ノ履歴

第三章 受驗申請

第十三條

試驗ヲ受ケムトスル者ハ定期試験ニ在リテハ試驗開始期日十二日前迄ニ又臨時試験ニ在リテハ試驗開始期日五日前迄ニ試験ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書類及手札形寫眞（最近撮影ニ係ル單獨半身脱帽ノモノニ限ル）ヲ添付シ第一號書式ノ受驗申請書ヲ提出スヘシ

一、戶籍謄本

二、船舶職員法第六條第一項第一號、第二號及第六號ニ該當セサルコトノ市區町村長其ノ他當該官公吏ノ證明書

三、第十條又ハ第二十條末項ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ資格ヲ證スル證書ノ寫

四、海技免狀ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ寫

前項第一號及第二號ノ書類ハ外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條 船舶職員法第五條第二項又ハ第三項ニ該當スル者ニシテ體格検査ヲ受ケムトスル者ハ試験ヲ行フ管海官廳ニ前條ノ書類及寫眞ヲ添付シ第二號書式ノ體格検査申請書ヲ提出スヘシ

第十五條 船舶職員法第五條第二項ニ該當スル者ニシテ體格検査ヲ受ケムトスル者管海官廳ニ於テ體格検査ヲ受クルコト能ハサルトキハ別表體格検査標準表ニ依リ相當醫師ノ検査ヲ以テ前條ノ検査ニ代フルコトヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ申請者ハ當該醫師ノ體格検査成績書ヲ提出シ且管海官廳ノ體格検査ヲ受クルコト能ハサル事山ヲ疏明スヘシ

管海官廳ハ前項ノ申請ヲ受理シタル場合體格檢査成績書ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ當該申請者ヲ體格檢査ニ合格シタルモノト看做スコトヲ得

第十六條 第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ試驗ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シ其ノ受驗資格ヲ證明スヘシ

- 一、乗船履歷ニ付テハ船員手帖若ハ之ニ準スヘキモノ又ハ船員證明規則ニ依ル證明書
- 二、海軍艦船艇又ハ官公署ノ所屬船ニ乗組ミタル履歷ニ付テハ當該官公署ノ辭令書若ハ證明書又ハ當該官公吏ノ證明書

三、前各號ノ一ニ依リ難キ者ノ乗船履歷ニ付テハ船舶所有者又ハ船長ノ證明書

四、工場履歷ニ付テハ當該工場ノ證明書

五、第十三條第一項第三號又ハ第四號ノ書類ヲ提出スル場合ニ在リテハ其ノ正本

第十七條 二種以上ノ試驗ハ同時ニ之ヲ受クルコトヲ得ス

第四章 試驗ノ執行

第十八條 試驗ハ體格檢査及學術試驗トシ學術試驗ハ筆記試驗及口述試驗トス

體格檢査ニ合格シタル者ニ非サレハ之ニ對シ學術試驗ヲ行ハス但シ體格檢査ニ於テ甲種合格ニ該當シタル者體格檢査ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ再ヒ同一官廳ニ受驗申請ヲ爲シタルトキハ合格ノ標準同等ナル試驗ノ場合ニ限り其ノ認定ニ依リ體格檢査ヲ省略スルコトヲ得

筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ之ニ對シ口述試驗ヲ行ハス

第十九條 沿岸丙種運轉士試驗、湖川港乙種二等運轉士試驗、沿岸乙種二等運轉士試驗、沿岸發動機船三等機關士試驗及湖川港汽船三等機關士試驗ニハ筆記ヲ行ハス

第二十條 船長及運轉士試驗ニ於テ國語、英語及數學ノ筆記試驗、機關長及機關士試驗ニ於テ國語、英語、數學及物理力學ノ筆記試驗ニ合格シ其ノ他ノ學術試驗ニ合格セサリシ者同一官廳ニ同種以下ノ受驗申請ヲ爲シタルトキハ該科目ノ筆記試驗ヲ免除ス

筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セサリシ者當該筆記試驗ニ合格シタル日ヨリ六月内ニ同一官廳ニ同種ノ受驗申請ヲ爲シタルトキハ前項ニ掲クル試驗科目ヲ除キ一回ヲ限り當該筆記試驗ヲ免除ス

第十條ニ該當スル者及朝鮮總督ノ授與シタル海技免狀ヲ有スル者ニ對シテハ別ニ告示スル所ニ依リ筆記試驗ヲ免除ス

中學校ヲ卒業シタル者其ノ他專門學校ノ入學資格ヲ有スル者甲種二等運轉士試驗又ハ二等機關士試驗以下ノ試驗ヲ受クル場合ハ第一項ニ掲クル科目ノ試驗ヲ免除ス

第二十一條 體格檢査ハ別表體格檢査標準表ニ依リ學術試驗ハ別表學術試驗科目表ニ依リ之ヲ行フ

第二十二條 試驗執行中受驗者ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ者ニ對シ試驗ヲ停止ス

- 一、受驗資格ナキコト
- 二、受驗禁止中ナルコト
- 三、試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト

受驗者管海官廳ノ定ムル受驗心得ニ違背シタルトキハ其ノ者ニ對シ試驗ヲ停止スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ試験ヲ停止シタルトキ又ハ試験執行後第一項各號ノ一ニ該當スル事實アリタルコトヲ知リタルトキハ管海官廳ハ當該受験者ノ試験ノ全部又ハ一部ヲ無効ト爲スコトヲ得

第二十三條 試験ニ合格シタルトキハ其ノ旨受験者ニ通知ス但シ告知又ハ揭示ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

第二十四條 受験資格ヲ詐リ其ノ他試験ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ付テハ管海官廳ハ六月以上五年以下ノ期間ヲ定メ受験ヲ禁止スルコトヲ得

第五章 受験手数料

第二十五條 試験手数料ハ體格検査手数料及學術試験手数料トシ別表試験手数料表ニ定ムル所ニ依ル體格検査手数料ハ受験申請ノ際又學術試験手数料ハ體格検査ニ合格シタル際之ヲ納付スヘシ但シ第十八條第二項但書ノ規定ニ依リ體格検査ヲ省略スル場合ニ於テハ受験申請ノ際學術試験手数料ヲ納付スヘシ

第二十六條 試験手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ第三號書式ノ納付書ニ貼付シ之ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ貼付シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ス

第二十七條 既納ノ試験手数料ハ之ヲ還付セス

第六章 講習會

第二十八條 船舶職員ノ養成ヲ目的トスル講習會ハ管海官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ開催スルコトヲ得ス

前項ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄管海官廳ニ提出スヘシ

一、講習會開催ノ期日及場所

二、講習ノ目的タル試験ノ種類

三、講師(履歴ヲ明カニスルコト)

四、講習ヲ受クル者ノ見込員數

五、講習ノ期間、科目及時間割

六、講習ヲ受クル者ヨリ徴收スヘキ諸種ノ費用

前項各號ノ事項ハ所轄管海官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四條第二項ニ定ムル講習會開催ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ第二項ノ認可申請書ニ講習ヲ受クル者ノ申込書ヲ添付スヘシ

前項ノ講習會ハ常時講習ヲ爲ス場合ト雖各講習ノ開始毎ニ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十九條 講習ヲ終了シタルトキハ講習會主催者ハ遲滞ナク講習會ニ關スル概況及會計ニ付所轄管海官廳ニ報告スヘシ

常時講習ヲ爲ス者ニ在リテハ前條第四項ノ講習ヲ除ク外毎年一回前項ノ報告ヲ爲スヘシ

第三十條 第四條第二項ニ定ムル講習會ニ於テハ別表小形船試驗講習科目表ニ依リ講習ヲ爲スヘシ

前項ノ講習ヲ終了シタルトキハ試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ對シ修了證書ヲ交付スヘシ
講習會主催者ハ前項ノ試驗ノ問題及成績表ヲ所轄管海官廳ニ提出スヘシ

第三十一條 所轄管海官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ第二十八條第二項第三號、第五號又ハ第六號ノ事項ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

所轄管海官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ吏員ヲシテ講習會ニ臨檢セシメ關係書類ノ檢閱又ハ講習ノ監督ヲ爲サシムルコトヲ得

第一項ノ命令ニ違背シ又ハ前項ノ檢閱若ハ監督ヲ拒ミタルトキハ講習會ノ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第七章 罰 則

第三十二號 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、第十六條第三號又ハ第四號ニ掲クル履歷ニ關シ虚偽ノ證明書ヲ發給シ又ハ之ヲ行使シタル者
- 二、第二十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者

附 則

本令ハ昭和四年法律第四十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年九月遞信省令第四十號船舶職員試驗規程ハ之ヲ廢止ス

舊試驗規程ニ依リテ行ヒタル試驗及申請其ノ他ノ行爲ハ本令第二十條第一項ノ場合ヲ除クノ外本令ニ依リタルモノト同一ノ効力ヲ有ス

本令施行後二年間ヲ限リ舊試驗規程ニ定ムル受験資格ニ適合スル履歷ハ第四條ノ規定ニ拘ラス之ヲ本令ニ依ル相當試驗ノ受験履歷ト認ムルコトヲ得（舊試驗規程ニ依ル漁船丙種運轉士試驗ハ本令ニ依ル沿岸丙種運轉士試驗ニ相當スルモノト看做ス）

機關長又ハ機關士ノ試驗ヲ受ケムトスル者ニシテ本令施行前滅失、沈没其ノ他ノ事由ニ因リ機關ノ公稱馬力ヲ算定スルコト能ハサル船舶ニ乗組ミタルモノノ乗船履歷ハ舊試驗規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ本令ニ依ル相當試驗ノ乗組履歷ト認ムルコトヲ得舊試驗規程ニ依ルコト能ハサル場合ニ於テハ管海官廳ノ認定スル所ニ依ル

本令施行後昭和六年六月三十日迄學術試驗ハ第二十一條ノ規定ニ拘ラス發動機船二等機關士試驗及二等機關士試驗ヲ除クノ外舊試驗規程ニ定ムル學術試驗科目表ニ依リ之ヲ行フ

本令施行ノ際現ニ存スル常時講習ヲ爲ス講習會ニ付テハ主催者ヨリ本令施行後一週間内ニ第二十八條ノ認可ヲ申請スヘシ

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス、漁船ニ付テハ本令施行前ノ規程ニ依ル航洋船舶又ハ大航洋船舶ニ乗組ミタル履歷ハ本令ニ依ル航洋船舶又ハ大航洋船舶ニ乗組ミタル履歷ト看做ス、近海二等機關士免狀ヲ受有スル者ハ本令施行前ノ規程ニ依ル乘船履歷ヲ以テ仍一等機關士試驗ヲ受クルコトヲ得

本令施行前近海二等機關士試驗ノ筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セザリシ者ハ受験者ノ選擇ニ依リ近海汽船二等機關士試驗又ハ近海發動機船二等機關士試驗ノ筆記試驗ニ合格シタルモノト看做ス

漁船甲種一等 等運轉士試驗	漁船甲種二等 等運轉士試驗	汽船甲種二等 等運轉士試驗	汽船甲種二等 等運轉士試驗	漁船甲種二等 等運轉士試驗	乙種船長試驗	乙種一等運轉 士試驗	漁船乙種一等 等運轉士試驗
一、二、三、四、五、六、七、八、千二百噸以上ノ航洋漁業汽船	一、二、三、四、五、六、七、八、千二百噸以上ノ航洋漁業汽船	二十噸以上ノ大航洋汽船	五十噸以上ノ大航洋汽船	航洋船以上ノ航洋漁業汽船	航洋船以上ノ航洋漁業汽船	航洋船以上ノ航洋漁業汽船	航洋船以上ノ航洋漁業汽船
一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上
漁船甲種二等運轉士免狀	漁船甲種二等運轉士免狀				乙種一等運轉士免狀	乙種一等運轉士免狀	沿岸乙種二等運轉士免狀
一船等運轉士長	三船等運轉士長	運航	運航	運航	二船等運轉士長	一船等運轉士長	一船等運轉士長

受驗履歴表 (其ノ一)

乙種二等運轉士試驗	沿岸乙種二等運轉士試驗	湖川港乙種二等運轉士試驗	小形船乙種二等運轉士試驗	丙種船長試驗	丙種運轉士試驗	沿岸丙種運轉士試驗	小形船丙種運轉士試驗	試驗ノ種類
一、二、三、千二百噸以上ノ航洋漁業汽船	一、二、三、千二百噸以上ノ航洋漁業汽船	航洋船以上ノ航洋漁業汽船	航洋船以上ノ航洋漁業汽船	航洋船以上ノ航洋漁業汽船	航洋船以上ノ航洋漁業汽船	航洋船以上ノ航洋漁業汽船	航洋船以上ノ航洋漁業汽船	船
一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	期
沿岸乙種二等運轉士免狀	沿岸丙種運轉士免狀			丙種運轉士免狀	丙種運轉士免狀	沿岸丙種運轉士免狀		覆
船長	船長	運航	運航	二船等運轉士長	一船等運轉士長	運航	運航	海技免狀ノ種類
船長	船長	運航	運航	二船等運轉士長	一船等運轉士長	運航	運航	勤務ノ種類

漁船甲種船長 試驗	長汽船甲種船 試驗	甲種一等運轉 士試驗	〇	一	二	三	四	五	六
		五	四	三	二	一	二	一	二
五 百噸以上 航洋帆 船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	五 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船
一年 以上	一年 以上	一年 以上	一年 以上	一年 以上	一年 以上	一年 以上	一年 以上	一年 以上	一年 以上
狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免
運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航

汽船甲種一 等 運轉士試驗	漁船甲種一 等 運轉士試驗	甲種一等運轉 士試驗	一	二	三	四	五	六	七	八	九
		五	四	三	二	一	二	一	二	一	二
五 百噸以上 航洋汽 船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	五 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船	二 百噸以上 航洋漁業 汽船
二年 以上	二年 以上	二年 以上	二年 以上	二年 以上	二年 以上	二年 以上	二年 以上	二年 以上	二年 以上	二年 以上	二年 以上
狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免	狀 漁 汽 船 甲 種 一 等 運 轉 士 免
運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航	運 一 等 運 轉 士 航

沿岸發動機船三等 機關士試驗	發動機船三等機關 士試驗	湖川港汽船三等機 關士試驗	汽船三等機關士試 驗	三等機關士試驗	近海發動機船二等 機關士試驗	近海汽船二等機關 士試驗
發動機船 三十馬力以上ノ發動機船	汽船 三十馬力以上ノ發動機船	汽船 三十馬力以上ノ發動機船	汽船 三十馬力以上ノ發動機船	一、三十馬力以上ノ發動機船 二、三十馬力以上ノ發動機船	一、六十馬力以上ノ航洋汽船 二、六十馬力以上ノ航洋汽船 三、六十馬力以上ノ航洋汽船	一、六十馬力以上ノ航洋汽船 二、六十馬力以上ノ航洋汽船 三、六十馬力以上ノ航洋汽船 四、六十馬力以上ノ航洋汽船
一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上 一年以上 一年以上	一年以上 一年以上 一年以上 一年以上	一年以上 一年以上 一年以上 一年以上
機關運轉	機關運轉	機關運轉	機關運轉	機關運轉 機關運轉 機關運轉	機關運轉 機關運轉 機關運轉 機關運轉	機關運轉 機關運轉 機關運轉 機關運轉
一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上 一年以上 一年以上	一年以上 一年以上 一年以上 一年以上	一年以上 一年以上 一年以上 一年以上

試驗種類 小形發動機船三等 機關士試驗	試驗種類 甲種船長試驗	汽船甲種船長 試驗	二、九、八、七、六、五、四、三、二、一	二、九、八、七、六、五、四、三、二、一
			五、四、三、二、一	五、四、三、二、一
發動機船	乘船	期間	海技免狀ノ種類	勤務ノ種類
一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上
機關運轉	機關運轉	機關運轉	機關運轉	機關運轉
一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上

一等機關士試驗										
三、五百馬力以上ノ航洋汽船	四、二百馬力以上ノ航洋汽船	五、三百馬力以上ノ航洋汽船	六、四百馬力以上ノ航洋汽船	七、二百馬力以上ノ航洋汽船	八、三百馬力以上ノ航洋汽船	九、四百馬力以上ノ航洋汽船	十、二百馬力以上ノ航洋汽船	十一、三百馬力以上ノ航洋汽船	十二、四百馬力以上ノ航洋汽船	十三、二百馬力以上ノ航洋汽船
六月以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上	一年以上
二等機關士免狀	近海汽船二等機關士免狀	近海汽船二等機關士免狀	近海汽船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	發動機船二等機關士免狀
機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長

發動機船二等機關士試驗										
三、二百馬力以上ノ航洋發動機船	四、三百馬力以上ノ航洋發動機船	五、四百馬力以上ノ航洋發動機船	六、二百馬力以上ノ航洋發動機船	七、三百馬力以上ノ航洋發動機船	八、四百馬力以上ノ航洋發動機船	九、二百馬力以上ノ航洋發動機船	十、三百馬力以上ノ航洋發動機船	十一、四百馬力以上ノ航洋發動機船	十二、二百馬力以上ノ航洋發動機船	十三、三百馬力以上ノ航洋發動機船
一年以上	六月以上	六月以上	六月以上	六月以上	六月以上	六月以上	六月以上	六月以上	六月以上	六月以上
發動機船三等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀	近海發動機船二等機關士免狀
機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長
										以上 一年六月

辨色	耳ノ現狀	聽覺	體格	疾病
完全ナルモノ	内外聽道ノ疾病特ニ鼓膜穿孔耳漏、片耳又ハ兩耳耳聾ナキモノ	兩耳共ニ六十種以上ノ距離ニ於テ明ニ懷中時計ノ秒時音ヲ聽取シ得ルモノ	身體薄弱、胸隔扁平ニシテ勞瘵實ノ徵候、羸瘦、畸形、指趾等ノ缺損、四肢運動ノ不自由ナキモノ	心肺ノ疾患、心悸亢進、聲音ノ嘶嘎、肋膜炎後ノ障礙、精神異常、言語障礙、吶吃其ノ他著シキ疾病ナキモノ
紅綠盲及青黃盲ニ非サル色弱ナルモノ	上欄掲記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ	兩耳共ニ三十種以上ノ距離ニ於テ明ニ懷中時計ノ秒時音ヲ聽取シ得ルモノ	上欄掲記ノ障礙アルモ輕微ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ	上欄掲記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ

備考 機關長及機關士ノ試験ニハ辨色検査ヲ行ハス

學術試驗科目

沿岸丙種運轉士試験

一、航海術

手用測深具及手用測程具ノ取扱

海圖ノ説明及用法

羅針儀ノ説明及用法

船位ノ測定

二、運用術

推進器及舵ノ作用

船燈及救命具ノ取扱

當直ニ關スル心得

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學ノ大意

晴雨計ノ用法、日本近海ニ於ケル氣壓及風ノ大要

貨物取扱ノ大要

日誌取扱

三、法規

海上衝突豫防法

船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶安全法(滿載吃水線及無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)及各附屬法規並地方取締規則中須知事項

丙種運轉士試驗

一、國語

書取、作文、解釋

二、數學

算術

四則應用

三、航海術

航用器具ノ取扱及矯正

手用測深具、手用測程具

海圖ノ說明及用法

航路標識ノ大要

潮汐ノ大要

羅針儀ノ說明及用法

羅針自差測定並羅針自差表ノ作成及用法

推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定

針路改正法、物標距離測定法

四、運用術

船體要部ノ構造並主要機具ノ取附及配置

桅檣、帆架、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存

錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存

吃水ノ說明

推進器及舵ノ作用

船舶ノ修繕及保存ノ大要

船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存

當直ニ關スル心得

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用

船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置

短艇及防火ニ關スル心得

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學

晴雨計及寒暖計ノ說明及用法、日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水及海流ノ大要

信號

國際信號旗ノ說明及用法、海難ニ關スル信號、氣象信號

貨物取扱

甲板及船側諸口ノ水密閉鎖

各種貨物ノ船積及引渡

救急醫術ノ大要
日誌取扱

五、法規

海上衝突豫防法
商法海商編中船員ニ關スル規定
船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶安全法(無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)及各附屬法規並稅關、
檢疫、開港及水路取締ニ關スル法規中須知事項

丙種運轉士試驗

丙種運轉士試驗科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目

一、數學

算術
歩合算迄

二、航海術

航用器具ノ取扱及矯正
六分儀、人工地平儀、測深機械、測程機械
潮時算法
推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法
天測ニ依ル船位ノ測定
太陽子午線高度緯度法

天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定
太陽出沒方位法

三、運用術

運轉自由ヲ得サル帆船ノ取扱
短艇演習及防火演習
假舵及救命筏ノ組立及用法
海鏡ノ組立及用法並撒油鎮浪法
海上氣象學
日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水、海流、氷流及氷塊
信號
國際信號(國際通信書信號編)、船舶通航信號、潮時信號

湖川港乙種二等運轉士試驗

二、航海術

試驗ヲ受ケムトスル區域ノ水路
羅針儀ノ説明及用法

二、運用術

舵、操舵機具、傳令器及推進器ノ説明
船燈及救命具ノ取扱
當直ニ關スル心得
汽船ノ運用

三、法規

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護
海上衝突豫防法

船舶職員法、海員懲戒法、船舶安全法(滿載吃水線及無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)及各附屬法規並地方取締規則中須知事項

沿岸乙種二等運轉士試驗

二、航海術

手用測深具及手用測程具ノ取扱

海圖ノ説明及用法

羅針儀ノ説明及用法

船位ノ測定

二、運用術

推進器及舵ノ作用

船燈及救命具ノ取扱

當直ニ關スル心得

各種ノ天候及場所ニ於ケル汽船ノ運用

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

海上氣象學ノ大意

晴雨計ノ用法、日本近海ニ於ケル氣壓及風ノ大意

貨物取扱ノ大意

三、法規

日誌取扱

海上衝突豫防法

船舶法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶安全法(滿載吃水線及無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)及各附屬法規並地方取締規則中須知事項

乙種二等運轉士試驗

一、國語

書取、作文、解釋

二、數學

算術

四則應用

三、航海術

航用器具ノ取扱及矯正

手用測深具、手用測程具、測程機械

海圖ノ説明及用法

航路標識ノ大意

潮汐ノ大意

羅針儀ノ説明及用法

羅針自差測定並羅針自差表ノ作成及用法

推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定

四、運用術

針路改正法、物標距離測定法

船體要部ノ構造並主要機具ノ取附及配置、錨、鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
吃水ノ説明

推進器及舵ノ作用

船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存

當直ニ關スル心得

各種ノ天候及場所ニ於ケル汽船ノ運用

船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

短艇及防火ニ關スル心得

曳船

海上氣象學

晴雨計及寒暖計ノ説明及用法

日本近海ニ於ケル氣溫、氣壓、風、海水及海流ノ大要

信號

國際信號旗ノ説明及用法、海難ニ關スル信號、氣象信號

貨客取扱

旅客及客室ニ關スル心得

甲板及船側諸口ノ水密閉鎖

各種貨物ノ船積及引渡

救急醫術ノ大要

日誌取扱

五、法規

海上衝突豫防法

商法海商編中船員ニ關スル規定

船員法、船員最低年齡法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶安全法(無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)及各

附屬法規並稅關、檢校、開港及水路取締ニ關スル法規中須知事項

乙種一等運轉士試驗

乙種二等運轉士試驗科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目

一、數學

算術

歩合算迄

二、航海術

航用器具ノ取扱及矯正

六分儀、人工地平儀、測深機械、時辰儀

潮時算法

推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定

緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、潮流航法、航海日誌算法

天測ニ依ル船位ノ測定

三、運用術

太陽子午線高度緯度法

天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定

太陽出沒方位法、太陽時辰方位法(表使用)

船舶ノ修繕及保存ノ大要

縦帆ノ取扱

短艇演習及防火演習

海上氣象學

氣象觀測器ノ説明及用法

日本近海ニ於ケル氣温、氣壓、風、海水及海流

信號

國際信號(國際通信書信號編)、船舶通航信號、潮時信號

漁船乙種一等運轉士試驗

乙種一等運轉士試驗科目中國語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ除キタルモノ

乙種船長試驗

乙種一等運轉士試驗科目ノ外左ノ各號ニ掲ケル科目

一、數學

算術

全體

二、航海術

術語解説

航用器具ノ取扱

三杆分度儀

羅針儀ノ据付

羅針自差分解並羅針自差曲線圖ノ作成及用法

羅針儀矯正

天測ニ依ル船位ノ測定

太陽近午緯度法、太陽時辰儀緯度法、極星緯度法

天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定

太陽高度方位法、太陽時辰方位法

三、運用術

噸數ノ種別

操舵ト回轉閥

船舶洋上横附

運轉自由ヲ得サル汽船ノ取扱

假舵及救命筏ノ組立及用法

海錨ノ組立及用法並撤油鎮浪法

海上氣象學

信號

國際信號

日本近海ニ於ケル米流及米塊
貨物取扱

扛重装置並圓材、鐵鎖、鋼鋼索ノ支持力及保存
重量物ノ船積及引渡、貨物ノ船積及按配

四、法規及商事實務

船舶安全法

船荷證券ニ關スル事項

甲種二等運轉士試驗

一、國語

二、英語

航海曆、海圖及水路誌ヲ了解シ得ル程度

三、數學

算術

全體

代數

二次方程式迄

幾何

平面(圓柱)

三角法

四、航海術

術語解説

磁氣

音響

航海器具ノ取扱及矯正

海圖ノ説明及用法

航路標識ノ大要

潮汐及潮時算法

羅針儀ノ説明及用法

羅針自差測定並羅針自差表ノ作成及用法

推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定

物標距離測定法、緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法

天測ニ依ル船位ノ測定

太陽子午線高度緯度法、太陽近午緯度法、太陽時辰儀緯度法

天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定

太陽出沒方位法、太陽高度方位法、太陽時辰方位法

時辰儀違差ノ測定

太陽高度、報時信號

五、運用術

船體要部ノ構造並主要機具ノ取附及配置

桅檣、帆架、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存

錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存

吃水ノ説明

推進器及舵ノ作用

船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存

當直ニ關スル心得

出入港準備作業

帆ノ取扱

各種ノ天候及場所ニ於ケル船舶ノ運用

船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置

海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護

短艇ノ機裝、取扱及保存

短艇演習及防火演習

海上氣象學

氣象學ノ大要

信號

國際信號(國際通信信號編及電信編)、氣象信號、船舶通航信號、潮時信號

貨客取扱

旅客及客室ニ關スル心得、甲板及船側諸口ノ水密閉鎖

扛重裝置並副材、鐵鎖、鋼索ノ支持刀及保存

各種貨物ノ船積及引渡

救急醫術ノ大要

日誌取扱

六、法規

海上衝突豫防法

商法海商編中船員ニ關スル規定

船員法、船員最低年齡法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶安全法及各附屬法規並稅關、檢校、開港及

水路取締ニ關スル法規中須知事項

漁汽船甲種二等運轉士試驗、漁船甲種二等運轉士試驗及汽船甲種二等運轉士試驗

漁汽船甲種二等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學並運用術中橫帆裝置ノ帆船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種二等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ又汽船甲種二等運轉士試驗科目ハ運用術中橫帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ甲種二等運轉士試驗科目中ヨリ除キタルモノ

甲種一等運轉士試驗

甲種二等運轉士試驗科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目

一、英語

船舶ノ修繕及荷役ニ關スル書類ヲ了解シ得ル程度

二、數學(算術ヲ除ク)

代數

比例迄

幾何

平面(比例差)

三角法

平面

三、應用力學

力ノ合成及分解、能率、偶力、運動ノ法則、仕事、簡單機械、機械ノ効率、動力ノ傳達、重心、水壓、浮力ノ中心、メタセンター、ツリム、シンプソン氏ノ法則、水ノ抵抗、船舶ニ使用スル材料ノ強弱

四、航海術

羅針儀据附

羅針自差分解並羅針自差曲線圖ノ作成及用法

索星

天測ニ依ル船位ノ測定

一定ノ時間ニ於テ子午線ヲ經過スヘキ星ノ名及經過時ノ推算、恆星又ハ行星子午線高度緯度法、極星緯度法

五、運用術

船舶ノ修繕及保存ノ大要

下橋建設其ノ他圓材ノ取扱

復原力ト船舶ノ動搖

操舵ト回轉圈

假舵及救命筏ノ組立及用法

海錨ノ組立及用法並撒油慣浪法

曳船

海上氣象學

貿易風、疾風、颶風、海流、水流及水塊

貨物取扱

重量物ノ積船及引渡、貨物ノ積積及按配

漁汽船甲種一等運轉士試驗、漁船甲種一等運轉士試驗及汽船甲種一等運轉士試驗

漁汽船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學並運用術中横帆裝置ノ帆船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、又汽船甲種一等運轉士試驗科目ハ

運用術中横帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ甲種一等運轉士試驗科目中ヨリ除キタルモノ

甲種船長試驗

甲種一等運轉士試驗科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目但シ甲種一等運轉士免狀又ハ汽船甲種一等運轉士免狀ヲ受有スル受験者ニ對シテハ數學ヲ除ク

一、英語

簡單ナル契約書類及商事通信ヲ了解シ得ル程度

二、航海術

羅針儀矯正

大圓航法ノ大要及大圓圖用法

天測ニ依ル船位ノ測定

恆星又ハ行星近午緯度法、恆星又ハ行星時辰儀經度法、太陽子午線高度緯度法、天體ノ推算高度ト實測高度及眞方位トニ依ル經緯度法

天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定

恆星又ハ行星時辰方位法

世界ニ於ケル主要航路

燃料消費ト速度トノ關係

三、運用術

噸數ノ種別

船舶洋上横附

運轉自由ヲ得サル船舶ノ取扱

四、法規及商事實務

商法海商編

船舶經濟ノ大要

漁汽船甲種船長試驗、漁船甲種船長試驗及汽船甲種船長試驗

漁汽船甲種船長試驗科目ハ國語、英語、數學並運用術中横帆裝置ノ帆船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種船長

試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ又汽船甲種船長試驗科目ハ運用術中横帆裝置ノ帆

船ニ關スル事項ヲ甲種船長試驗科目中ヨリ除キタルモノ

沿岸發動機船三等機關士試驗

一、機關術

各種ノ小形發動機ニ於ケル發動及取扱、氣室、燃燒室、諸瓣及諸氣口ノ構造

著火裝置

發動ノ遲滯其ノ他發動機ノ故障又ハ不慮ノ事變ヲ生シタルトキノ處置

油類ノ貯藏、瓦斯漏洩、防水及防火ニ關スル注意

寒暖計、輕比重計及壓力計ノ構造、効用及取扱

二、法規

船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶安全法(滿載吃水線及無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)及各附屬法規中須知事項

湖川港汽船三等機關士試驗

一、機關術

汽機、汽罐及附屬具ノ効用及取扱

停止及運轉中ノ汽機、汽罐ニ對スル注意

汽機、汽罐ニ故障又ハ不慮ノ事變ヲ生シタルトキノ處置

防水及防火ノ注意

壓力計、真空計、驗鹽計、寒暖計ノ構造、効用及取扱

二、法規

船舶職員法、海員懲戒法、船舶安全法(滿載吃水線及無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)及各附屬法規中須知事項

發動機船三等機關士試驗

一、國語

書取、作文、解釋

二、數學

算術

四則、分數、小數、簡單ナル面積及體積ノ計算

三、機關術

沿岸發動機船三等機關士試驗科目ニ依リ其ノ程度ヲ稍高メタルモノ

四、法規

船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶安全法(滿載吃水線及無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)及各附屬法規中須知事項

汽船三等機關士試驗

一、國語

書取、作文、解釋

二、數學

算術

四則、分數、小數、簡單ナル面積及體積ノ計算

三、機關術

湖川港汽船三等機關士試驗科目ニ依リ其ノ程度ヲ稍高メタルモノ

四、法規

船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶安全法(滿載吃水線及無線電信ニ關スル事項ヲ除ク)及各附屬法規中須知事項

三等機關士試驗

發動機船三等機關士試驗及汽船三等機關士試驗ノ全科目

近海發動機船二等機關士試驗

發動機船三等機關士試驗科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目

一、數學

算術(開方ヲ除ク)

二、機關術

各種發動機ノ種別、構造及取扱

燃料ノ種別、性質及貯藏

吸鑄、軸受其ノ他滑動部ニ於ケル摩擦及各部ノ調整、調速及反轉ノ裝置

小形汽缸ノ取扱及應急處置

驗量計ノ構造及取扱

冷水管及油管ニ通スル諸管ノ配置並之ニ對スル注意

三、法規

商法海商編中船員ニ關スル規定

近海汽船二等機關士試驗

三等機關士試驗科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目

一、數學

算術(開方ヲ除ク)

二、機關術

汽機、汽缸ノ要部及附屬具ノ構造

汽機、汽缸ノ損傷シ易キ部分及之ニ對スル注意

冷水管及水筒ニ通スル諸管ノ配置並之ニ對スル注意

防水及防火ノ裝置

三、法規

汽機、汽鐘其ノ他一般ノ腐蝕豫防ニ關スル注意
石炭ノ積込及貯藏ニ關スル注意
操舵機、揚船機、揚貨機ノ構造及取扱
晴雨計及傳令器ノ構造及取扱
商法海商編中船員ニ關スル規定

發動機船二等機關士試験

近海發動機船二等機關士試験科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目

一、數學

算術

全體

代數

二次方程式迄

二、物理學

物性

力、物質ノ基本性質、慣性ノ法則、重力、比重及密度、壓力及張力、萬有引力、物質ノ三態、分子力
彈性、彈性率、フックノ定律、表面張力、毛管現象、溶解、擴散、滲透、凝著及吸藏液體及液體內ノ壓力、
パスカルノ原理、水壓機、水準器、重力ヨリ生スル壓力、側壓、連通器、アルキメジスノ原理、比重及其ノ
測定、比重瓶、浮秤
空氣ノ重サ、大氣ノ壓力、トリチエリーノ實驗、氣壓計、空氣ノ浮力、ボイルノ法則、サイフォン、水ポン

三、機關術

發電機、電動機ノ取扱

其ノ他近海發動機船二等機關士試験科目ニ依リ其ノ程度ヲ稍高メタルモノ

二等機關士試験

近海二等機關士試験科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目

一、數學

算術

全體

代數

二次方程式迄

二、物理學

物性

力、物質ノ基本性質、慣性ノ法則、重力、比重及密度、壓力及張力、萬有引力、物質ノ三態、分子力
彈性、彈性率、フックノ定律、表面張力、毛管現象、溶解、擴散、滲透、凝著及吸藏、液體及液體內ノ壓力
パスカルノ原理、水壓機、水準器、重力ヨリ生スル壓力、側壓、連通器、アルキメジスノ原理、比重及其ノ
測定、比重瓶、浮秤
空氣ノ重サ、大氣ノ壓力、トリチエリーノ實驗、氣壓計、空氣ノ浮力、ボイルノ法則、サイフォン、水ポン
ブ、空氣ポンプ、壓縮ポンプ、渦巻ポンプ

三、機關術

發電機、電動機ノ取扱

各種發動機ノ要部及附屬具ノ構造並取扱其ノ他近海二等機關士試驗科目ニ依リ其ノ程度ヲ稍高メタルモノ

發動機船一等機關士試驗

發動機船二等機關士試驗科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目

一、數學(算術ヲ除ク)

代數

比例迄

幾何

平面(圓迄)

二、物理學

運動及力

速度、等速度運動、不等速度運動、速度ノ組合及分解、相對運動、加速度、運動ノ三法則、運動量、力積、
壓力、力ノ絕對單位、重力ノ生スル加速度、力ノ重力單位、摩擦、回轉摩擦、簡單ナル形ノ重心、物體ノ釣

合

熱

溫度及熱、寒暖計、熱量及比熱、混合法、熱ノ傳導、對流、輻射、線膨脹、體膨脹、液體ノ膨脹、氣體ノ膨脹、
氣體ノ溫度、壓力及體積ノ關係、絕對溫度、ダルトンノ定律、氣體ノ密度ト壓力トノ關係

融解及凝固、融解ニ伴フ體積ノ變化、融解點ニ及ホス壓力ノ影響、復氷寒劑

氣化、沸騰、飽和蒸氣及過熱蒸氣、沸騰點ト壓力

球狀態、氣化熱液化、濕度、露點、濕度計

熱トエネルギー、熱ノ仕事當量ノ測定

三、機關術

各種發動機及附屬具ノ構造及取扱

各種發動機各部ニ於ケル故障及損傷ノ原因並之ニ對スル處置、修繕及豫防、各種發動機ノ馬力

各種唧筒ノ構造及取扱

發電機、電動機、操舵機、揚縮機、揚貨機、整速器ノ構造及取扱

瓦斯ノ發生及爆發ニ對スル注意

液體燃料ノ積込、貯藏及取扱ニ對スル注意

一等機關士試驗

二等機關士試驗科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目

一、數學(算術ヲ除ク)

代數

比例迄

幾何

平面(圓迄)

二、物理學

運動及力

速度、等速度運動、不等速度運動、速度ノ組合及分解、相對運動、加速度、運動ノ三法則、運動量、力積、
壓力、力ノ絕對單位、重力ノ生スル加速度、力ノ重力單位、摩擦、回轉摩擦、簡單ナル形ノ重心、物體ノ釣

合

熱

溫度及熱、寒暖計、熱量及比熱、混合法、熱ノ傳導、對流、輻射、線膨脹、體膨脹、液體ノ膨脹、氣體ノ膨脹、氣體ノ溫度、壓力及體積ノ關係、絕對溫度、ダルトンノ定律、氣體ノ密度ト壓力トノ關係、融解及凝固、融解ニ伴フ體積ノ變化、融解點ニ及ホス壓力ノ影響、復水寒劑、氣化、沸騰、飽和蒸氣及過熱蒸氣、沸騰點ト壓力、球狀蒸、氣化熱、液化、濕度、露點、濕度計、熱トエネルギー、熱ノ仕事當量ノ測定

三、機關術

各種唧筒ノ構造及取扱、各種機關ノ馬力、發電機、電動機、蒸騰器、給水加熱器、給水濾過器、通風機、整速機ノ構造及取扱、石炭ノ自然燃燒、瓦斯ノ發生及爆發ニ對スル注意、液體燃料ノ積込、貯藏及取扱ニ對スル注意

發動機船機關長試驗

發動機船一等機關士試驗科目ノ外左ノ各號ニ掲クル科目但シ國語ヲ除ク

一、英語

機關士ノ職務ニ關スル簡單ナル書籍ヲ了解シ得ル程度

二、數學

代數

二項法迄

幾何

平面

三角法

平面、對數

三、物理力學

磁氣

磁石磁力、磁氣感應、磁場、地球磁氣、分子磁石說

電氣

帶電體、電氣ノ傳導、電氣力、電氣感應、電位、電流、電壓、電池、電氣抵抗、オームノ定律、抵抗、連結、電流ト熱、電流ノ磁氣作用、電流ノ磁場、アンペア計、ボルト計、電磁石、電信機、感應電流、感應電流ノ方向、感應コイル、自己及相互感應

力學

力ノ合成及分解、剛體ニ働ク力ノ組合、力ノ能率、平行力ノ合力、偶力、重心、浮體ノ釣合、仕事、工率、水タービン

挺子、秤、滑車、輪軸、斜面、楔、ネジ、齒車

落體ノ運動、アットウッドノ器械、圓運動、振子運動、彈性體ノ振動、回轉運動、獨樂ノジャイロ作用、運動スル物體ニ對スル抵抗、流體ノ吸收作用、運動及位置ノエネルギー、仕事トエネルギー、エネルギー不減則

四、製圖

發動機、小形汽機ノ主要部ノ一箇若ハ數箇又ハ其ノ他ノ部分ニ付解シ易キ製圖ヲ作り必要ナル寸法ヲ圖中ニ記入シ以テ此ノ圖面ニ依リ製作ヲ爲シ得ヘキモノ

五、機關術

發動機各部ノ構造ト其ノ安全、耐久又ハ經濟トノ關係

燃料及通風

油、水及皮殼ノ性質及取扱

指壓器、指壓圖及「トーションメーター」

發動機、材料及其ノ強力

冷藏機及水壓機ノ原理、構造及取扱

簡單ナル交流理論、交流機械

機關長試験

一等機關士試験科目ノ外左ノ各號ニ掲ケル科目但シ國語ヲ除ク

一、英語

機關士ノ職務ニ關スル簡單ナル書籍ヲ了解シ得ル程度

二、數學

代數

二項法迄

幾何

平面

三角法

平面、對數

三、物理及力學

磁氣

磁石ノ作用、磁氣感應、磁場、地球磁氣、分子磁石說

電氣

帶電氣、電氣ノ傳導、電氣力、電氣感應、電位、電流、電壓、電池、電氣抵抗、オームノ定律、抵抗ノ連結
電流ト熱、電流ノ磁氣作用、電流ノ磁場、アンペア計、ボルト計、電磁石、電信機、感應電流、感應電流
ノ方向、感應コイル、自己及相互感應

力學

力ノ合成及分解、剛體ニ働ク力ノ組合、力ノ能率、平行力ノ合力、偶力、重心、浮體ノ釣合、仕事、工率、
水タービン

挺子、秤、滑車、輪軸、斜面、楔、ネジ、齒車

落體ノ運動、アットウッドノ器械、圓運動、振り運動、彈性體ノ振動、回轉運動、獨樂ノジャイロ作用、運
動スル物體ニ對スル抵抗、流體ノ吸收作用、運動及位置ノエネルギー、仕事トエネルギー、エネルギーノ不

減則

四、製圖

汽機、發動機、汽鐘ノ主要部ノ一箇若ハ數箇又ハ其ノ他ノ部分ニ付解シ易キ製圖ヲ作り必要ナル寸法ヲ圖中ニ
記入シ以テ此ノ圖面ニ依リ製作ヲ爲シ得ヘキモノ

五、機關術

汽機、發動機、汽鐘各部ノ構造ト其ノ安全、耐久又ハ經濟トノ關係

燃料及通風

油、水及皮殼ノ性質並取扱

指壓器、指壓圖及「トーションメーター」汽機、發動機、汽鐘ノ材料及其ノ強力

冷藏機及水壓機ノ構造及取扱
簡單ナル交流理論、交流機械

小形船試驗講習科目表

(一) 小形船丙種運轉士試驗及小形船乙種二等運轉士試驗

海圖ノ説明及用法

羅針儀ノ説明及用法

船位ノ測定

船燈及救命具ノ取扱

海上衝突豫防法其ノ他海事法規中須知事項

(二) 小形發動機船三等機關士試驗

發動機ノ始動準備、始動、運轉、停止ニ關スル注意

給油及著火ノ調整

各唧筒ニ對スル注意

發動機ノ故障又ハ不慮ノ事變ヲ生シタルトキノ處置

防水、防火ノ注意、油類ノ貯藏及瓦斯漏洩ニ關スル注意

寒暖計、輕比重計及壓力計

海事法規中須知事項

試驗手數料

手數料ノ種類	試驗ノ種類	手數料額
體格檢査手數料	各 種 試 驗	二 十 錢
學術試驗手數料	沿岸丙種運轉士試驗、湖川港乙種二等運轉士試驗、沿岸乙種二等運轉士試驗、湖川港汽船三等機關士試驗、沿岸發動機船三等機關士試驗	一 圓
	丙種運轉士試驗、乙種二等運轉士試驗、漁船乙種一等運轉士試驗、發動機船三等機關士試驗、汽船三等機關士試驗、三等機關士試驗、近海發動機船二等機關士試驗、近海汽船二等機關士試驗	二 圓
	丙種船長試驗、乙種一等運轉士試驗、漁汽船甲種二等運轉士試驗、漁船甲種二等運轉士試驗、汽船甲種二等運轉士試驗、汽船甲種一等運轉士試驗、甲種運轉士試驗、發動機船二等機關士試驗、二等機關士試驗	三 圓
	乙種船長試驗、汽船甲種一等運轉士試驗、甲種一等運轉士試驗、漁汽船甲種長試驗、漁船甲種船長試驗、發動機船一等機關士試驗、一等機關士試驗	五 圓
	汽船甲種船長試驗、甲種船長試驗、發動機船機關長試驗、機關長試驗	七 圓

備考
一、氏名ニハ振假名ヲ附スコト

氏名	船隻又ハ機關總數若ハ積石船又ハ機關航行區域又船主ノ氏名職名									
	工場又ハ機關總數又ハ公稱馬力關ノ種類ハ從業制限又ハ名稱									
出生ノ年月日	乘船又ハ就下船又ハ終乘船又ハ就業ノ年月日又ハ期間									
	月 日 年									
本籍	月 日 年									
	月 日 年									
期間合計	月 日 年									
	月 日 年									

履歷書

(第一號書式)

受驗申請書

(試驗ノ種類)試驗相受度船隻職員試驗規程第十三條ニ依リ履歷書、受驗資格證明書、戶籍謄本及寫眞相添此段申請候也

年 月 日

(所轄)遞信局長宛

申請者
現住所

氏

名印

(表)

第十條又ハ第二十條末項ニ該當スル者ハ卒業(修了)シタル學校ノ名稱及其ノ年月日又ハ檢定ノ年月日	(學校ノ名稱)	年 月 日
海技免狀ヲ受有スルトキハ其ノ種類、番號、試驗、場所及合格年月日	第 免 狀	(試驗ノ場所) 年 月 日
該免狀ヲ停止セラレタルトキハ其ノ年月日及停止ノ期間	同 上	年 月 日 期間 年 月 日
試驗申請ノ日ヨリ過リ六月以内ニ體格檢査ニ於テ甲種合格ニ該當シタルトキハ試驗ノ種類試驗ノ場所及合格年月日	試驗	(試驗ノ場所) 年 月 日
第二十條第一項又ハ第二項ニ該當スルトキハ試驗ノ種類、試驗ノ場所及合格年月日	試驗	(試驗ノ場所) 年 月 日
申請ノ試驗ト同種ノ試驗ヲ既ニ受ケタルトキハ其ノ試驗ノ場所、年月日及不成立又ハ不合格ノ事由	(試驗ノ場所)	年 月 日 (不成立又ハ不合格事由)

- 一、總噸數若ハ積石數ハ船長及運轉士試験申請者ニ限リ又公稱馬力ハ機關長及機關士試験申請者ニ限リ記載スルコト
- 一、船舶ノ種類(船長及運轉士試験申請者ニ限リ記載)ハ汽船、帆船、漁業汽船、漁業帆船ノ別但シ帆船及漁業帆船ノ場合ニ在リテハ機關及帆帆裝置ノ有無ヲモ記載スルコト
- 一、機關ノ種類(機關長及機關士試験申請者ニ限リ記載)ハ汽機、發動機ノ別又機關ヲ有スル帆船ナルトキハ其ノ旨ヲモ記載スルコト
- 一、履歴日數中半數ノミ効力ヲ有スルモノノ期間合計ハ他ノ全數ノモノト區別スルコト
- 一、乗船期間ノ計算ニ付テハ乗船ノ翌日ヨリ起算シ下船ノ日ハ之ヲ算入スルコト
- 一、工場ニ於ケル就業期間ノ計算ニ付テハ就業ノ翌日ヨリ起算シ終業ノ日ハ之ヲ算入スルコト但シ缺勤日數ハ合算シテ之ヲ控除スルコト

(第二號書式)

體格検査申請書

船舶職員法第五條第二項(又ハ第三項)ニ依リ(免狀ノ種類)免狀授與申請致度候間體格検査相成度船舶職員試験規程第十四條ニ依リ履歴書、受験資格證明書、戶籍謄本及寫眞相添此段申請候也

年 月 日

申請者

氏

名 印

(所轄)通信局長宛

(表)

船舶職員法施行細則第二條第一項ニ依リ告示シタル學校ヲ卒業シタルトキハ學校及學科ノ名稱及卒業又ハ修了ノ年月日海軍武官ハ官階及進級年月日並掌帆兵教程、掌信號兵教程又ハ掌機兵教程ヲ修了シタルトキハ其ノ名稱及修了ノ年月日	(學校等ノ名稱)	年 月 日
海技免狀ヲ受有スルトキハ其ノ種類、番號、試験ノ場所及合格年月日	第 免 狀 號	(試験ノ場所) 年 月 日
該免狀ヲ停止セラレタルトキハ其ノ年月日及停止ノ期間	同 上	年 月 日 停止 年 月 日 期間

(裏)

履 歴 書	(役種及官階) 氏 名	出生ノ年月日	本 籍
	船舶又ハ機關總噸數若ハ積石船又ハ機航行區域又船主ノ氏名	職 名	乘船又ハ就下船又ハ終乘船又ハ就業ノ年月日
工場ノ名稱	數又ハ公稱馬力關ノ種類	ハ從業制限又ハ名稱	業ノ年月日
期間合計	月 日 年	月 日 年	月 日 年
年 月 日	月 日 年	月 日 年	月 日 年

備考

- 一、氏名ニハ假名ヲ附スコト
- 一、役種及官階ハ海軍武官ニ限り記載スルコト
- 一、總噸數若ハ積石數ハ船長及運轉士試験申請者ニ限り又公稱馬力ハ機關長及機關士試験申請者ニ限り記載スルコト
- 一、船舶ノ種類(船長及運轉士試験申請者ニ限り記載)ハ汽船、帆船、漁業汽船、漁業帆船ノ別但シ帆船及漁業帆船ノ場合ニ在リテハ機關及横帆装置ノ有無ヲモ記載スルコト
- 一、機關ノ種類(機關長及機關士試験申請者ニ限り記載)ハ汽機、發動機ノ別又機關ヲ有スル帆船ナルトキハ其ノ旨ヲモ記載スルコト
- 一、履歴日數中半數ノミ効力ヲ有スルモノノ期間合計ハ他ノ全數ノモノト區別スルコト
- 一、乗船期間ノ計算ニ付テハ乗船ノ翌日ヨリ起算シ下船ノ日ハ之ヲ算入スルコト
- 一、工場ニ於ケル就業期間ノ計算ニ付テハ就業ノ翌日ヨリ起算シ終業ノ日ハ之ヲ算入スルコト但シ缺勤日數ハ合算シテ之ヲ控除スルコト
- 一、海軍武官ニ在リテハ離現役年月日ヲ附記スルコト

(第三號書式)

納付書	ニ相當スル收入印紙
(試験ノ種類)試験申請候ニ付テハ體格検査(又ハ學術試験)手数料金	
左ニ貼附ノ上納付候也	
年 月 日	
(所轄)逓信局長宛	氏 名 印

船用品取締

船用品取締規則

(昭和九年二月五日 逓信省令第一七號)

第一章 總則	七三	第五章 監査	七三
第二章 製造免許	七五	第六章 手数料	七三
第三章 型式承認	七八	第七章 罰則	七三
第四章 檢定	七九	附 則	七三

第一章 總則

第一條 法令ニ依リ船舶ニ備フベキ船用品ニシテ別表第一號ニ掲グルモノヲ製造スル者ハ當該船用品ノ型式毎ニ第二章ノ規定ニ依リ逓信大臣ノ製造免許ヲ受クルコトヲ要ス但シ船用品検査試験規則ニ依ル船用品合格證明書(以下單ニ合格證明書ト稱ス)ヲ受クル目的ヲ以テ製造スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

船用品ニ付製造免許ヲ受ケタル者(以下單ニ免許製造人ト稱ス)其ノ製造免許船用品ヲ製造シタルトキ又ハ當該船用品若ハ之ト同種類ノモノノ要部ヲ修繕シタルトキハ第四章ノ規定ニ依リ製造免許船用品檢定又ハ船用品修繕檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第二條 前條ニ定ムル船用品ノ要部ノ修繕ハ當該船用品又ハ之ト同種類ノモノノ免許製造人ニ非ザル者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ズ但シ航海中其ノ他免許製造人ヲシテ修繕ヲ爲サシムルニ著

シク困難ナル事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ修繕ヲ爲サシムル場合ニハ船燈ニ付テハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ヲ修繕人ニ提
示スベシ

第一項但書ノ規定ニ依リ修繕ヲ爲シタルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ニ
於テ現品ニ付第四章ノ規定ニ依リ船用品修繕檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 別表第二號ニ掲グル船用品ニ付テハ其ノ型式毎ニ第三章ノ規定ニ依リ逡信大臣ノ型式承認
ヲ受クルコトヲ得

別表第二號ニ掲ゲザル船用品ト雖モ逡信大臣ニ於テ必要アリト認ムルモノニ付亦前項ニ同ジ
型式承認船用品ヲ製造又ハ輸入シタル者ハ第四章ノ規定ニ依リ型式承認船用品檢定ヲ受クルコト
ヲ得

第四條 第一條ニ定ムル船用品ハ船用品檢査試驗規則ニ依ル甲號檢印又ハ本令ニ依ル檢印ヲ附シタ
ルモノナルコトヲ要ス

第五條 本令ニ於テ船用品ノ試驗規程ト稱スルハ船燈ニ付テハ船燈試驗規程、信號器ニ付テハ信號
器試驗規程、救命器具ニ付テハ救命器具試驗規程、防毒面ニ付テハ防毒面試驗規程、消火器ニ付
テハ消火器試驗規程、火災警報裝置ニ付テハ火災警報裝置試驗規程、船口覆布ニ付テハ船口覆布
試驗規程ヲ謂フ

第六條 本令ニ依リ逡信大臣ニ申請書若ハ届書ヲ提出シ又ハ證書ヲ返還スル場合ニ於テハ主タル營
業所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スベシ

第七條 本令中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第二章 製造免許

第八條 船用品ニ付製造免許ヲ受ケントスルトキハ標本ニ付合格證明書ノ交付ヲ受ケ船用品製造免
許申請書(第一號書式)ヲ逡信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ事業資金額、製造所ノ設備、使用人ノ員數、會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ定款
又ハ之ニ準ズベキモノ及代表者ノ氏名ヲ記載シタル書類竝ニ當該船用品ノ合格證明書ノ寫ヲ添附
スベシ

榴彈、火箭、信號青焰、信號紅焰、救命胴衣、救命焰又ハ救命索發射器ニ關スル申請書ニハ第二
十二條ノ規定ニ依ル説明書ヲモ添附スベシ尙榴彈、火箭、信號青焰、信號紅焰又ハ救命索發射器
ニ關スル申請書ニハ銃砲火藥類取締法ニ依リ火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ受ケタルコトヲ證明ス
ル書類ノ寫ヲモ添附スベシ

第九條 逡信大臣前條ノ申請ニ依リ船用品ノ製造ヲ免許シタルトキハ船用品製造免許證書(第二號
書式)ヲ申請人ニ交付ス

船用品製造免許期間ハ五年以内トス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ逡信大臣ハ製造免許ヲ取消スコトアルベシ

- 一 本令ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 標本又ハ製造品ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキ
- 三 製造所ノ設備ノ變更其ノ他ノ事由ニ依リ製造免許船用品ノ製造ヲ爲スニ適セズト認ムルニ至
リタルトキ
- 四 銃砲火藥類取締法ニ依ル火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ取消サレタルトキ

五 第十二條ニ掲グル標本ノ要部ガ當該品ノ試験規程ノ改正ニ依リ之ニ適合セザルニ至リタルトキ

六 其ノ他遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

第十一條 遞信大臣船用品ノ製造ヲ免許シタルトキ又ハ製造免許ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十二條 免許製造人ハ製造免許船用品ノ型式毎ニ合格證明書ノ交付ヲ受ケタル標本ヲ各製造所ニ保管シ且第二十八條ノ規定ニ依リ製造免許船用品檢定ヲ受ケントスル遞信省管船局船舶試験所

以下單ニ船舶試験所ト稱ス、船舶試験所支所又ハ管海官廳ニ差出スベシ

前項ノ規定ニ依リ保管シ又ハ差出シタル標本ガ滅失又ハ損傷シタルトキハ免許製造人ハ更ニ標本ヲ當該製造所ニ保管シ又ハ當該船舶試験所、船舶試験所支所若ハ管海官廳ニ差出スベシ

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ差出シタル標本ハ第二十条各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ之ヲ還付ス

第十三條 免許製造人ハ製造免許船用品ノ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書寫(通數ハ其ノ都度指定ス)ヲ船舶試験所ニ差出スベシ

第十四條 免許製造人ハ製造品毎ニ當該官吏ノ適當ト認ムル方法ニ依リ船燈、信號器又ハ救命器具ニ在リテハ其ノ品名、型式、製造番號、製造人ノ氏名又ハ名稱及製造年月ヲ、船燈部分品ニ在リテハ製造番號及製造人ノ記號ヲ、救命索ニ在リテハ其ノ品名、型式、寸法、製造番號、製造人ノ氏名又ハ名稱及製造年月ヲ標示スベシ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人ハ船用品製造免許證書ノ書換ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

一 氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキ

二 主タル營業所ヲ移轉シタルトキ

三 主タル營業所ニ付行政區畫ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキ

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人ハ遞信大臣ニ之ヲ届出ヅベシ

一 事業資金額ヲ變更シタルトキ

二 會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ定款若ハ之ニ準ズベキモノ又ハ代表者ヲ變更シタルトキ

三 營業所(主タル營業所ヲ除ク)若ハ製造所ヲ移轉若ハ増減シ又ハ製造所ノ設備ヲ變更シタルトキ

四 銃砲火藥類取締法ニ依ル火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ取消サレタルトキ

第十七條 免許製造人ガ死亡シタルトキハ其ノ相續人ニ限リ其ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ製造ヲ繼續セントスルトキハ相續ヲ證明スル書類ヲ添エ船用品製造免許證書ノ書換ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

第十八條 船用品製造免許證書ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ當該免許製造人ハ船用品製造免許證書ノ再交付ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

第十九條 免許製造人第十五條、第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ船用品製造免許證書ノ交付ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊證書ヲ遞信大臣ニ返還スベシ

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人又ハ船用品製造免許證書ノ保管者ハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク船用品製造免許證書ヲ遞信大臣ニ返還スベシ

一 船用品製造免許期間満了シタルトキ

- 二 免許製造人廢業シタルトキ
- 三 免許製造人死亡シ其ノ相續人製造ヲ繼續セザルトキ
- 四 製造免許ヲ受ケタル法人解散シタルトキ
- 五 製造免許ヲ取消サレタルトキ

第二十一條 免許製造人ハ其ノ製造品ニ付製造所毎ニ每三月中ノ製造販賣高統計表（第三號書式）ヲ作成シ翌月十日迄ニ當該製造所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ届出ヅベシ

第二十二條 第一條ニ定ムル船用品ヲ販賣スルニ當リテハ船燈ニ在リテハ一箇毎ニ船燈檢定證明書一通ヲ、榴彈ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ端數毎ニ略圖ヲ附シタル使用法說明書一通及打上臺一箇ヲ、火箭、信號青焰又ハ信號紅焰ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ端數毎ニ略圖ヲ附シタル使用法說明書一通ヲ、救命胴衣ニ在リテハ二十箇又ハ其ノ端數毎ニ圖解ヲ附シタル著用法說明書一通ヲ、救命焰ニ在リテハ一箇毎ニ又救命索發射器ニ在リテハ一組毎ニ各略圖ヲ附シタル使用法說明書一通ヲ添付スベシ

第二十三條 第一條ニ定ムル船用品ニシテ合格證明書ヲ有スルモノヲ販賣スルニ當リテハ船燈ニ在リテハ一箇毎ニ合格證明書ヲ添付スベシ其ノ他ノモノニ在リテハ前條ノ規定ヲ準用ス

第三章 型式承認

第二十四條 船用品ニ付型式承認ヲ受ケントスルトキハ船用品型式承認申請書（第四號書式）ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ當該船用品ノ合格證明書ノ寫又ハ船用品檢査試驗規則ニ依ル船用品檢査試驗成績書ノ寫ヲ添付スベシ

第二十五條 逕信大臣前條ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ當該船用品ノ型式ヲ承認ス

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ逕信大臣ハ型式承認ヲ取消スコトアルベシ

- 一 型式承認ヲ受ケタル船用品ノ要部ガ當該品ノ試驗規程ノ制定又ハ改正ニ依リ之ニ適合セザルニ至リタルトキ
- 二 其ノ他逕信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

第二十七條 逕信大臣船用品ノ型式ヲ承認シタルトキ又ハ型式承認ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第四章 檢定

第二十八條 製造免許船用品檢定又ハ型式承認船用品檢定ヲ受ケントスルトキハ申請書（第五號書式）又ハ第六號書式）ヲ現品ト共ニ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ製造所（當該船用品ガ輸入品ナルトキハ營業所）所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ提出スベシ但シ型式承認船用品檢定ノ場合現品ヲ差出シ難キトキハ當該官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り現品ノ所在地ニ於テ檢査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合第一條ニ定ムル船燈ニ付テハ一箇毎ニ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書寫ニ製造番號及製造年月ヲ記載シタルモノヲ添付スベシ

第二十九條 前條第一項但書ニ依リ檢査ヲ受クル者ハ當該官廳ノ指定スル所ニ從ヒ該船用品檢査ノ爲當該官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ

第三十條 船用品修繕檢定ヲ受ケントスルトキハ申請書（第七號書式）ヲ現品ト共ニ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ最寄管海官廳ニ提出スベシ此ノ場合第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ヲ添付スベシ

第三十一條 第二十八條及前條ノ申請アリタルトキハ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ハ現品ヲ検査シ當該船用品ノ試驗規程又ハ型式承認ニ適合スト認メタルトキハ左ノ各號ノ一ニ依リ之ヲ處理ス

一 製造免許船用品又ハ型式承認船用品ノ檢定ノ場合ニ於テハ現品ニ檢印(別記雛形)ヲ附シ之ヲ申請人ニ還付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ一箇毎ニ船燈檢定證明書(第八號書式)ヲ申請人ニ交付ス

二 船用品修繕檢定ノ場合ニ於テハ第三十五條第一項ノ規定ニ依リ檢印ノ效力ヲ停止セラレタル現品ハ更ニ之ニ檢印ヲ附シタル上、其ノ他ノモノハ其ノ儘之ヲ申請人ニ還付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ノ裏面ニ修繕檢定年月日及修繕箇所ヲ記載シ當該官吏捺印ノ上之ヲ申請人ニ還付ス

船用品修繕檢定ニ於テ現品ガ當該船用品ノ試驗規程ニ適合セズト認メタルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消シ之ヲ申請人ニ還付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ニ消印ノ上之ヲ申請人ニ還付ス

第三十二條 船燈檢定證明書ヲ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ船燈檢定證明書再交付申請書(第十號書式)ヲ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ最寄管海官廳ニ提出シ船燈檢定證明書ノ再交付ヲ受クルコトヲ得

前項ノ再交付ヲ受クルコト能ハザルトキハ船燈再檢定申請書(第十一號書式)ヲ船舶試驗所又ハ船舶試驗所支所ニ提出シ現品ノ再檢定ヲ受クルコトヲ得

第三十三條 前條第二項ノ申請アリタルトキハ船舶試驗所又ハ船舶試驗所支所ハ現品ヲ検査シ船燈

試驗規程ニ適合スト認メタルトキハ更ニ檢印ヲ附シ且船燈檢定證明書ヲ交付シ現品ガ船燈試驗規程ニ適合セズト認メタルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消シ之ヲ申請人ニ還付ス

第五章 監査

第三十四條 船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲシテ免許製造人又ハ型式承認船用品製造人ノ營業所若ハ製造所ニ就キ第十條又ハ第二十六條ノ適用ニ關シ必要ナル監査ヲ爲サシメ若ハ船舶ニ就キ第一條及第三條ニ定ムル船用品ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十五條 當該官吏ハ前條ノ監査又ハ検査ニ當リ船用品ガ其ノ試驗規程又ハ型式承認ニ適合セズト認ムルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消スベシ但シ第一條ニ定ムル船用品ニシテ修繕ノ上當該品ノ試驗規程ニ適合スル見込アルモノニ付テハ檢印ニ單線ヲ附シ其ノ效力ヲ停止スベシ

第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ前項ノ規定ニ依リ其ノ檢印ヲ取消シタルトキハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ニ消印ヲ捺シ檢印ノ效力ヲ停止シタルトキハ其ノ旨合格證明書又ハ船燈檢定證明書ノ裏面ニ記載シ當該官吏捺印スベシ

第三十六條 當該官吏ハ第三十四條ノ監査又ハ検査ノ爲必要ト認ムルトキハ第一條又ハ第三條ニ定ムル船用品ヲ提出セシメ之ヲ試驗ニ供スルコトヲ得

第六章 手数料

第三十七條 船用品製造免許證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手数料二圓ヲ船燈檢定證明書ノ再交付ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手数料二十錢ヲ納付スベシ但シ第十五條

第三十八條 船用品ノ檢定ヲ受クルトキハ檢定品一箇ニ付別表ニ定ムル手数料ヲ納付スベシ

第三條第二項ノ規定ニ依ル型式承認船用品ノ檢定手数料ハ其ノ都度之ヲ定ム
 第三十九條 手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書(第十二號書式)ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ
 第四十條 本章ノ規定ニ依ル手数料ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セズ

第七章 罰則

第四十一條 第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第一條第二項、第二條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十二條、第二十條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
 第四十二條 前條ノ規定ニ依リ處罰セラルベキ者其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者、禁治產者又ハ法人ナルトキハ其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

附則

第四十三條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第四十四條 昭年四年六月減信省令第十八號船燈信號器救命具取締規則(以下單ニ舊取締規則ト稱ス)ハ之ヲ廢止ス
 第四十五條 本令施行前舊取締規則ノ罰則ニ觸ルル行爲ヲ爲シタル者ニ付テハ仍舊取締規則ニ依ル第四十六條 舊取締規則ニ依リ受ケタル製造免許ハ其ノ免許期間内本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ乙種橋燈及乙種兩色燈ニ付テハ其ノ期間内ト雖モ製造免許ヲ取消スコトアルベシ
 第四十七條 舊取締規則ニ依リ第一條ニ定ムル船用品ニ付シタル檢印ハ本令ニ依リ附シタルモノト

看做ス

舊取締規則ニ依ル船燈檢定證明書ハ本令ニ依ル船燈檢定證明書ト看做ス
 乙種橋燈及乙種兩色燈ニ付シタル檢印及當該船燈檢定證明書ノ有効期限ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ別ニ之ヲ告示ス

第四十八條 舊取締規則ニ依ル製造免許ヲ有スル者ノ製造シタル船用品及舊取締規則ニ依ル檢印ヲ附シタル船用品ノ檢定ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

別記雛形

船舶試驗所及船舶試驗所支所檢印 **船檢**
 備考 「船檢」ノ上ニハ船舶試驗所ノモノニ在リテハ「東」、船舶試驗所支所ノモノニ在リテハ其ノ所在地名ノ頭字ヲ冠スルモノトス
 管海官廳檢印 **海檢**
 備考 「海檢」ノ上ニハ管海官廳所在地名ノ頭字ヲ冠スルモノトス

別表 第一號

船	品名	檢定手数料		船	品名	檢定手数料	
		製造免許船用品檢定	船燈再檢定			製造免許船用品檢定	船燈再檢定
甲	種橋燈	〇・五〇	五・〇〇	乙	種橋燈	〇・三〇	三・〇〇

- 船用品製造免許申請書
- 一 船用品ノ品名及型式
 - 二 營業所ノ位置及名稱
 - 三 製造所ノ位置及名稱
 - 四 船用品合格證明書ノ番號及交付年月日
- 右船用品取締規則第一條第一項ニ依リ船用品製造免許申請候也
- 年 月 日

主タル營業所 申請人 氏 名 印
 遞信大臣宛

第二號書式
 第 號

- 船用品製造免許證書
- 一 船用品ノ品名及型式
 - 二 標本ノ船用品合格證明書ノ番號及交付年月日
 - 三 免許期間
- 主タル營業所 氏 名

右船用品取締規則ニ依リ製造ヲ免許ス

年 月 日 遞信大臣 氏 名 印

第三號書式

- 自 年 月 日 至 年 月 日 三月中製造免許船用品製造販賣高統計表
- 一 船用品免許製造人ノ氏名又ハ名稱及主タル營業所
 - 二 製造所ノ位置及名稱

船用品製造 免許證書番號	船用品ノ品 名及型式	前期繰越 箇數	製造箇數		販賣箇數	本期末現存 箇數	一箇ノ代價	
			合格	不合格			卸賣	小賣

第四號書式

船用品型式承認申請書

- 一 船用品ノ品名及型式
- 二 營業所ノ位置及名稱
- 三 製造所ノ位置及名稱
- 四 船用品合格證明書ノ番號及交付年月日
船用品検査試験成績書ノ番號及交付年月日

右船用品取締規則第三條第二項ニ依リ船用品型式承認申請候也

年 月 日

主タル營業所

申請人

氏

名 印

逓信大臣宛

第五號書式

製造免許船用品檢定申請書

- 一 船用品製造免許證書ノ番號
- 二 船用品ノ品名、型式及箇數
- 三 製造所ノ位置及名稱
- 四 製造年月
- 五 製造番號

右船用品取締規則第一條第二項ニ依リ製造免許船用品檢定申請候也

年 月 日

主タル營業所

申請人

氏

名 印

逓信省管船局船舶試驗所
(又ハ同支所若ハ管海官廳)宛

第六號書式

型式承認船用品檢定申請書

- 一 船用品型式承認番號
- 二 船用品ノ品名、型式及箇數
- 三 製造所ノ位置及名稱
- 四 製造年月
- 五 製造番號

六 船用品取締規則第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ現品ノ所在地ニ於テ検査ヲ受ケントス
ルトキハ其ノ場所

右船用品取締規則第三條第三項ニ依リ型式承認船用品檢定申請候也

年 月 日

主タル營業所

申請人

氏

名 印

第七號書式

遞信省管船局船舶試驗所宛
(又ハ同支所若ハ管海官廳)

船用品修繕檢定申請書

- 一 船用品製造免許證書ノ番號
 - 二 船用品合格證明書ノ番號
 - 三 船用品ノ品名、型式及箇數
 - 四 修繕箇所
 - 五 備附船舶ノ番號、種類、名稱、總噸數及所有者ノ氏名又ハ名稱
 - 六 船用品取締規則第二條第一項但書ニ依ルモノニ在リテハ其ノ事由
- 右船用品取締規則第一條第二項ニ依リ船用品修繕檢定申請候也

年 月 日

主タル營業所又ハ住所(當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所)

申請人

氏

名 印

第八號書式

(何船檢又ハ何海檢)第 號

船燈檢定證明書

- 一 船用品製造免許證書ノ番號
 - 二 船燈ノ品名及型式
 - 三 製造人ノ主タル營業所及氏名又ハ名稱
 - 四 製造所ノ位置及名稱
 - 五 製造年月
 - 六 製造番號
 - 七 檢定成績 別記明細書ノ通
- 右船用品取締規則ニ依リ檢定シタル結果船燈試驗規程ニ適合スルモノト認ム
- 年 月 日

遞信省管船局船舶試驗所名 印
(又ハ同支所若ハ管海官廳)

第九號書式

(何船檢又ハ何海檢)第 號

型式承認船用品檢定證明書

- 一 船用品型式承認番號
- 二 船用品ノ品名、型式及箇數
- 三 檢定申請者ノ主タル營業所及氏名又ハ名稱
- 四 製造所ノ位置及名稱

- 五 製造年月
 - 六 製造番號
- 右船用品取締規則ニ依リ檢定シタル結果承認型式ニ適合スルモノト認ム
- 年 月 日

遞信省管船局船舶試驗所名 印
(又ハ同支所若ハ管海官廳)

第十號書式

船燈檢定證明書再交付申請書

- 一 船用品製造免許證書ノ番號
 - 二 船燈ノ品名及型式
 - 三 製造人ノ氏名又ハ名稱
 - 四 製造年月
 - 五 製造番號
 - 六 檢定官廳
 - 七 再交付申請ノ事由
- 右船用品取締規則第三十二條第一項ニ依リ船燈檢定證明書再交付申請候他
- 年 月 日

住所(當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所)

申請人 氏 名 印

遞信省管船局船舶試驗所
(又ハ同支所若ハ管海官廳)宛

第十一號書式

船燈再檢定申請書

- 一 船燈ノ品名及型式
- 右船用品取締規則第三十二條第二項ニ依リ船燈再檢定申請候也
- 年 月 日

住所(當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所)

申請人 氏 名 印

遞信省管船局船舶試驗所
(又ハ同支所)宛

第十二號書式

手数料納付書

手数料ノ種別	手数料算定ノ基礎
船用品製造免許證書(交付、再交付、書換)手数料	通
船燈檢定證明書再交付手数料	通
製造免許船用品檢定手数料	通
型式承認船用品檢定手数料	通
右年月日附申請ノ手数料トシテ納付候也	通

手数料
圓圓圓圓
錢錢錢錢

年 月 日

申請人

氏

名 印

遞信大臣(遞信省管船局船舶試驗所、同支所又ハ管海官廳)宛

船燈試驗規程

(昭和九年二月五日)
遞信省令第一九號

第一章 總則	七四	第十一章 安全燈	七五
第二章 油船燈	七五	第三章 電氣船燈	七五
第一節 通則	七五	第一節 通則	七五
第二節 檣燈	七五	第二節 檣燈	七五
第三節 舷燈	七五	第三節 舷燈	七五
第四節 兩色燈	七五	第四節 白燈	七五
第五節 白燈	七五	第五節 紅燈	七五
第六節 紅燈	七五	第六節 三色燈	七五
第七節 三色燈	七五	第七節 船尾燈	七五
第八節 船尾燈	七五	第八節 安全燈	七五
第九節 操舵目標燈	七五		
第十節 信號燈	七五		
第一章 總則	七五	附則	七五

第一條 船燈ノ金屬部ハ銅又ハ眞鍮ヲ以テ堅牢ニ製造シ其ノ接合部ハ密著セシメテ鐵附シ且要部ハ總テ鍍附ト爲スベシ但シ安全燈ニ在リテハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ銅又ハ眞鍮以外ノ材料ヲ使用スルコトヲ得

檣燈、舷燈、甲種兩色燈、三色燈、船尾燈及信號燈ノ燈胴ト燈蓋及燈底トノ接合竝ニ甲種白燈及紅燈ノ燈胴ト燈蓋トノ接合ハ折曲抱合ト爲シ乙種兩色燈ノ燈胴ト燈蓋トノ接合ハ折曲ト爲シ甲種白燈及紅燈ノ燈胴ト燈底トノ接合ハ鍍附ト爲スベシ

燈胴及外部煙筒ヲ構造スル金屬板ノ周縁ニ適當ナル眞鍮針金ヲ捲込ムベシ但シ乙種兩色燈、丁種白燈及操舵目標燈ノ燈及外部煙筒下部ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 燈窓ニ堅ニ取附クル梓棒ノ徑又ハ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ
燈窓ニ堅ニ取附クル梓棒ノ徑又ハ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ
燈窓硝子及著色挿入硝子ハ有害ナル氣泡其ノ他ノ瑕疵ヲ有セズ且冷熱ニ堪フル品質ニシテ兩面ヲ滑ニ磨キタルモノナルコトヲ要ス但シ著色透鏡、無色槲形硝子及無色球形硝子ノ兩面ハ磨カザルモ妨ナシ

第三條 無色透鏡ハ二・九ノ密度公差正負〇・〇七ヲ有スル無色鉛硝子ヲ以テ成ルベク薄ク製造シ内面ハ圓筒形ト爲シ外面ニハ中央ニ一帯ノ凸形ヲ設ケ其ノ上下ニ各三帯ノ折形ヲ設クベシ
無色透鏡ノ形狀ハ透鏡ノ中央橫截面ノ中心ニ於ケル燈火ヲ該面ノ上下各一〇度ノ範圍ニ集束シ其ノ照度ハ該燈火ノ照度ニ比シ白燈及紅燈用透鏡ニ在リテハ上下各二・五度以內ノ方向ニ於テ、其ノ他ノ透鏡ニ在リテハ上下各五度以內ノ方向ニ於テ二倍以上ニシテ且上下各一〇度ノ方向ニ於テ一倍以上トナラシメ其ノ他ノ方向ニ於テハ漸次ニ其ノ倍率ヲ變化スルモノナルコトヲ要ス

無色透鏡ノ堅截面ノ形狀ハ各截面ニ於テ差異ナキモノナルコトヲ要ス
無色透鏡ニハ密度測定用試験片ヲ附シ置クベシ

無色透鏡ノ高サ及横截面内面半径ノ公差ハ各正負〇・五ミリメートルトス

第四條 著色透鏡ハ著色硝子ヲ以テ成ルベク薄ク製造シ外面ハ球形ト爲シ内面ニハ中央ニ一箇ノ凸形ヲ設ケ其ノ周囲ニ九帶ノ折形ヲ設クベシ

著色透鏡ノ形狀ハ透鏡ノ中央截面ノ中心ニ於ケル燈火ヲ該面ノ各側五度ノ範圍ニ集束スルモノナルコトヲ要ス

著色透鏡ノ中央截面ノ形狀ハ各截面ニ於テ差異ナキモノナルコトヲ要ス

著色透鏡ノ徑ノ公差ハ正負〇・五ミリメートルトス

第五條 圓筒形ノ燈窓硝子及著色挿入硝子ノ厚サ、高サ又横截面内面半径ノ公差ハ各正負〇・五ミリメートルトシ無色燧形硝子及無色球形硝子ノ厚サノ公差ハ正負一ミリメートルトス

第六條 著色燈窓硝子、著色挿入硝子及著色透鏡ハ適當ナル色調ヲ有シ濃度ニ不同ナク且一〇%乃至一五%ノ全透率ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七條 船燈各部ノ構造及寸法ニシテ本令ニ規定ナキモノニ付テハ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第八條 本令ノ規定ニ該當セザル船燈ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第二章 油船燈

第一節 通則

第九條

燈籠ハ口金及燈筒ヲ裝置シタル油壺ヲ挿入シ得ルモノナルコトヲ要ス
煙筒ハ火口ノ直上ニ設クベシ

燈窓ニ堅ニ取附クル梓棒ハ火口ノ延長線上ニ置クコトヲ得ズ

第十條 船燈ハ無風高氣温ノ場合ニ於テモ通氣十分ニシテ燈火ガ不同ナク十分ニ燃照スル構造ノモノナルコトヲ要ス

船燈ハ風又ハ船舶ノ動搖等ニ依リ油煙ヲ生ズルコトナク又消火セザル様通氣孔ノ大サ及配置ヲ適當ニシ且飛沫ノ浸入ニ依リ光度ニ影響ヲ及ボスコトナキ構造ノモノナルコトヲ要ス

第十一條 油壺ハ燈火ガ信號燈及安全燈ニ在リテハ五時間以上、乙種兩色燈、丁種白燈及操舵目標

燈ニ在リテハ八時間以上、其ノ他ノ船燈ニ在リテハ一六時間以上繼續シテ安全ニ燃照シ得ル油量ヲ貯ヘ得ルモノナルコトヲ要ス

油壺ノ形狀ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス
油壺ニハ氣孔ヲ有スル注油栓ヲ裝置シ且油壺ノ内部ニハ燈油ノ動搖ヲ防グ裝置ヲ設クベシ

第十二條 火口ノ形狀ハ一字形ニシテ第一表ニ掲グル幅ノ平燈心ニ適合スルモノナルコトヲ要ス
口金ニハ燈心調整裝置ヲ附シ引火防具及氣孔ヲ裝置スベシ但シ種油用ノモノニ在リテハ引火防具

及氣孔ヲ裝置スルコトヲ要セズ

第十三條 油壺及口金ノ挿入裝置ハ口金ヲ裝置シタル油壺ヲ燈籠ニ挿入スルトキ火口ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナキモノナルコトヲ要ス

第十四條 石油燈ニハ燈筒ヲ使用スベシ燈筒ハ無色透明ナル良質ノ硝子ヲ以テ成ルベク薄ク且厚サニ不同ナク製造シ形狀及寸法ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第十五條 反射鏡ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザル限リ大形ト爲シ其ノ表面ハ燈火ノ最輝點ヲ中心トスル球面ノ一部ニシテ十分磨キタル後銀色鍍ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス但シ乙種兩色燈及操舵目標燈ノ反射鏡ノ表面ハ圓筒形ト爲スコトヲ得

第十六條 油船燈ニハ石油ヲ使用スベシ但シ丁種白燈及操舵目標燈ニハ種油ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 油船燈各部ノ寸法ハ第一表ニ依ル

第十八條 水先燈ノ構造及寸法ハ本節ノ規定ニ依ルノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二節 檣燈

第十九條 燈窓ニハ甲種檣燈ニ在リテハ無色透鏡ヲ、乙種檣燈ニ在リテハ無色圓筒形硝子ヲ裝置ス

ベシ

第二十條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱

面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第二十一條 火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第二十二條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種檣燈ニ在リテハ一〇燭光以上、乙種檣燈ニ在リテハ七燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二十三條 檣燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第二十四條 檣燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第三節 舷燈

第二十五條 甲種舷燈ノ燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

乙種舷燈ノ燈窓ニハ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第二十六條 燈窓硝子ノ後部留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ燈籠ノ側面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

燈窓硝子ノ前部留金ノ縁ヨリ燈籠ノ側面ニ至ル距離ハ該側面ヨリ火口ノ中心ニ至ル距離ヨリ一五

ミリメートル以上小ナルコトヲ要ス

第二十七條 著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且左舷舷燈用ノ硝子ヲ

右舷舷燈ニ、右舷舷燈用ノ硝子ヲ左舷舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ梓ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ金屬梓及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第二十八條 油壺ノ挿入裝置ハ左舷舷燈用ノ油壺ヲ右舷舷燈ニ、右舷舷燈用ノ油壺ヲ左舷舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ

第二十九條 火口ハ燈籠ノ側面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス方向ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第三十條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種舷燈ニ在リテハ一〇燭光以上、乙種舷燈ニ在リテハ五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十一條 燈籠側部ノ掛具及隔板ニ取附クル突起金具ノ形狀及寸法ハ第一圖ニ依ル

隔板ノ形狀及寸法ハ第二圖乃至第四圖ニ依ル

第三十條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種舷燈ニ在リテハ一〇燭光以上、乙種舷燈ニ在リテハ五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十一條 燈籠側部ノ掛具及隔板ニ取附クル突起金具ノ形狀及寸法ハ第一圖ニ依ル

隔板ノ形狀及寸法ハ第二圖乃至第四圖ニ依ル

第三十二條

舷燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第三十三條

甲種舷燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第四節 兩色燈

第三十四條

甲種兩色燈ノ燈窓ニハ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

乙種兩色燈ノ燈窓ニハ左舷側ニ紅色透鏡ヲ、右舷側ニ綠色透鏡ヲ裝置スベシ

第三十五條

甲種兩色燈ノ各側ノ燈窓硝子ノ後部留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第三十六條

燈窓硝子ノ前中央ニハ堅ニ隔障ヲ設クベシ
隔障ハ燈籠ノ前面ニ銀附ト爲スベシ

甲種兩色燈ノ燈窓硝子ノ前部留金ノ幅ハ隔障中心ヨリ測リ左右各四ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十七條

火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ甲種兩色燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ、乙種兩色燈ニ在リテハ著色透鏡ノ焦點ヲ過ギル垂直軸上ニ置クベシ

第三十八條

口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ甲種兩色燈ニ在リテハ一六時間繼續燃照後五燭光以上乙種兩色燈ニ在リテハ八時間繼續燃照後三燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十九條

兩色燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第五節 白燈

第四十條

燈窓ニハ甲種白燈ニ在リテハ無色透鏡又ハ無色圓筒形硝子ヲ、乙種白燈及丙種白燈ニ在

リテハ無色橢形硝子ヲ、丁種白燈ニ在リテハ無色球形硝子ヲ裝置スベシ

第四十一條

火口ハ其ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第四十二條

口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種白燈ニシテ無色透鏡ヲ裝置スルモノニ在リテハ四燭光以上、丙種白燈ニ在リテハ七燭光以上、乙種白燈ニ在リテハ四燭光以上、丙種白燈ニ在リテハ二燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第四十三條

甲種白燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト下部燈胴トノ間ニ、其ノ他ノ白燈ニハ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第四十四條

油壺ヲ燈底ヨリ挿入スル白燈ニ在リテハ油壺ノ逸脱ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ設クベシ

第六節 紅燈

第四十五條

燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ紅色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第四十六條

紅色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナキ構造ト爲スベシ

紅色挿入硝子ニハ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

紅色挿入硝子ハ二箇以上ノ硝子ヲ幅七ミリメートル以下ノ金屬梓棒ヲ以テ堅ニ接合シタル構造ト爲ス

スコトヲ得

前項ノ硝子堅接合ノ金屬梓棒ハ火口ノ延長線ノ位置外ニ止マルコトヲ要ス

紅色挿入硝子ノ上縁及下縁ニ於ケル金屬梓棒ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第四十七條

火口ハ其ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第四十八條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後一〇燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第四十九條 紅燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第五十條 油壺ヲ燈底ヨリ挿入スル紅燈ニ在リテハ油壺ノ逸脱ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ設クベシ

第七節 三色燈

第五十一條 燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第五十二條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第五十三條 燈窓ノ前面ニハ燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ミ船燈ノ對稱面ト左右各二・一・五度ノ角度ヲ爲ス平面内ニ中心面ヲ有スル隔障ヲ設クベシ

隔障ハ燈籠前面ニ銀附ト爲スベシ

第五十四條 著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且紅色硝子ト綠色硝子トヲ挿遠スル虞ナキ構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ梓ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬梓ノ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

著色挿入硝子ノ上縁、下縁及後縁ニ於ケル金屬梓及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第五十五條 著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬梓ノ幅ノ中心線ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト二・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第五十六條 火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第五十七條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後一〇燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第五十八條 三色燈ニハ反射鏡ヲ備スベシ

第五十九條 三色燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第八節 船尾燈

第六十條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第六十一條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁又燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト六七・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第六十二條 火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第六十三條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後四燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十四條 船尾燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第九節 操舵目標燈

第六十五條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第六十六條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト九〇度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第六十七條 火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第六十八條 操舵目標燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第十節 信號燈

第六十九條 燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置スベシ

第七十條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト二二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第七十一條 火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第七十二條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ五時間繼續燃照後五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第七十三條 信號燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第七十四條 遮光板ハ敏速ニ開閉シ得ルモノニシテ滑動遮光板ニ在リテハ中央ヨリ兩側ニ開クモノナルコトヲ要ス

鍵盤ハ之ヲ押ヘ附クルニ必要ナル重量ガ四五〇グラム以上九〇〇グラム以下ニシテ其ノ作動距離一〇ミリメートルヲ標準トス

第十一節 安全燈

第七十五條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第七十六條 安全燈内部ニハ燈火ガ直接外氣ニ通ズル部分ニ二重ノ金網ヲ設クベシ

前項ノ金網ハ徑〇・三二ミリメートル乃至〇・四〇ミリメートルノ針金ヲ使用シ一平方センチメートルニ付一四四以上ノ網目ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十七條 安全燈ハ鍵又ハ特殊ノ方法ニ依ラザレバ開放シ得ザル構造ト爲シ且結合部ノ自然的弛緩ヲ防止シ得ル適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第七十八條 安全燈ニハ之ヲ開放セズシテ點火シ得ル裝置ヲ設クベシ

第七十九條 安全燈ハ之ヲ高サ一・五メートルノ箇所ヨリ木床上ニ連續三回墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第八十條 安全燈ハ可燃性混氣中ニテ漏火セザルモノナルコトヲ要ス

第八十一條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ五時間繼續燃照後一・五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第八十二條 安全燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製棒ヲ取附クベシ

前項ノ棒棒ハ相隣レル棒棒ノ外側ヲ連ネタル直線ガ燈窓硝子ニ接觸セザル構造ト爲スコトヲ要ス

第三章 電氣船燈

第一節 通則

第八十三條 燈籠ハ燈蓋部ニ於テ開閉シ得ル構造ト爲スベシ燈籠ハ電線ヲ挿入セル部分ヨリ飛沫ガ浸入セザル構造ト爲スベシ

第八十四條 電線ハ電氣工作物規程ニ依ル第四種絶緣電線ニシテ導體ノ直徑一ミリメートル以上ノ單線又ハ公稱切斷面積〇・九平方ミリメートル以上ノ撚線ナルコトヲ要ス

電線相互間及電線ト燈籠トノ間ノ絶緣抵抗ハ船燈毎ニニメグオーム以上ナルコトヲ要ス

第八十五條 電球承口ハ内徑二三ミリメートルノ挿込承口ト爲シ上向ニ取附ク且電球ガ一定ノ位置ヨリ移動セザル構造ト爲スベシ

電球承口ノ垂直軸ハ白燈、紅燈及安全燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ、其ノ他ノ船燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸ノ後方九ミリメートルノ位置ニ在ルコトヲ要ス
電球承口取附臺ハ亞麻仁油ヲ以テ綯縁處理ヲ爲シタル樺材又ハ櫻材ナルコトヲ要ス
第八十六條 電球ハ籠形金屬纖維ヲ使用セル眞空式白熱電球ナルコトヲ要ス
第八十七條 電氣船燈各部ノ寸法ハ第二表ニ依ル
第八十八條 兩色燈、丙種白燈、丁種白燈、水先燈及操舵目標燈ノ構造及寸法ハ本節ノ規定ニ依ル
ノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二節 檣燈

第八十九條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第九十條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第九十一條 電球ハ甲種檣燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種檣燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第九十二條 檣燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第三節 舷燈

第九十三條 甲種舷燈ノ燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

乙種舷燈ノ燈窓ニハ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第九十四條 燈窓硝子ノ後部留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ燈籠ノ側面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

燈窓硝子ノ前部留金ノ縁ヨリ燈籠ノ側面ニ至ル距離ハ該側面ヨリ電球承口ノ中心ニ至ル距離ヨリ一五ミリメートル以上小ナルコトヲ要ス

第九十五條 著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且左舷舷燈用ノ硝子ヲ右舷舷燈ニ、右舷舷燈用ノ硝子ヲ左舷舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ
著色挿入硝子ニハ金屬製ノ梓ヲ取附クベシ
著色挿入硝子ノ金屬梓及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第九十六條 電球ハ甲種舷燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種舷燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第九十七條 燈籠側部ノ掛具及隔板ニ取附クル突起金具ノ形狀及寸法ハ第一圖ニ依ル

隔板ノ形狀及寸法ハ第五圖乃至第七圖ニ依ル
第九十八條 甲種舷燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第四節 白燈

第九十九條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第一百條 電球ハ甲種白燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種白燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第一百一條 白燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第五節 紅燈

第二百二條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ紅色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第二百三條 紅色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子が正規ノ位置外ニ止マル虞ナキ構造ト爲スベシ

紅色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

紅色挿入硝子ハ二箇以上ノ硝子ヲ幅七ミリメートル以下ノ金屬枠ヲ以テ堅ニ接合シタル構造ト爲スコトヲ得

紅色挿入硝子ノ上縁及下縁ニ於ケル金屬枠ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第二百四條 電球ハ四〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第二百五條 紅燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第六節 三色燈

第二百六條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ左舷側ニ紅燈圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ

綠燈圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第二百七條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第二百八條 燈窓ノ前面ニハ燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ミ船燈ノ對稱面ト左右各一二・五度ノ角度ヲ爲ス平面内ニ中心面ヲ有スル隔障ヲ設クベシ

隔障ハ燈籠前面ニ銀附ト爲スベシ

第二百九條 著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子が正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且紅色硝子ト綠色硝子ト

ヲ挿入スル處ナキ構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬枠ノ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

著色挿入硝子ノ上縁、下縁及後縁ニ於ケル金屬枠及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第二百十條 著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬枠ノ幅ノ中心線ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第二百十一條 電球ハ四〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第二百十二條 三色燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠棒ヲ取附クベシ

第七節 船尾燈

第二百十三條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第二百十四條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト六七・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第二百十五條 電球ハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第八節 安全燈

第二百十六條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第二百十七條 蓄電池ヲ使用スル安全燈ニ在リテハ顛倒シタル場合電液ノ流出セザルモノナルコトヲ要ス

第二百十八條 電池ノ容量ハ五時間以上有效ニ點燈シ得ルモノナルコトヲ要ス

- 第一百十九條 閉閉器其ノ他電氣的接續部ハ防焰密閉室内ニ在ルコトヲ要シ閉閉器ハ外部ヨリ操作シ得ルモノナルコトヲ要ス
- 第一百二十條 安全燈ハ鍵又ハ特殊ノ方法ニ依ラザレバ開放シ得ザル構造ト爲シ且結合部ノ自然的弛緩ヲ防止シ得ル適當ナル装置ヲ備フルコトヲ要ス
- 第一百二十一條 安全燈ニハ損傷又ハ故障ニ依リ漏火セザル様適當ナル「フューズ」其ノ他ノ安全装置ヲ設クベシ
- 第一百二十二條 安全燈ハ之ヲ高サ一・五メートルノ箇所ヨリ木床上ニ連續三回墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス
- 墜落試験ノ際ニハ電池ヲ等型等重ノ他ノモノト交換スルモ妨ナシ
- 第一百二十三條 安全燈ハ可燃性混氣中ニテ點滅ノ際漏火セザルモノナルコトヲ要ス
- 第一百二十四條 電球ハ五ワット以上ノモノナルコトヲ要ス
- 第一百二十五條 安全燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製梓棒ヲ取附クベシ前項ノ梓棒ハ相隣レル梓棒ノ外側ヲ連ネタル直線ガ燈窓硝子ニ接觸セザル構造ト爲スコトヲ要ス

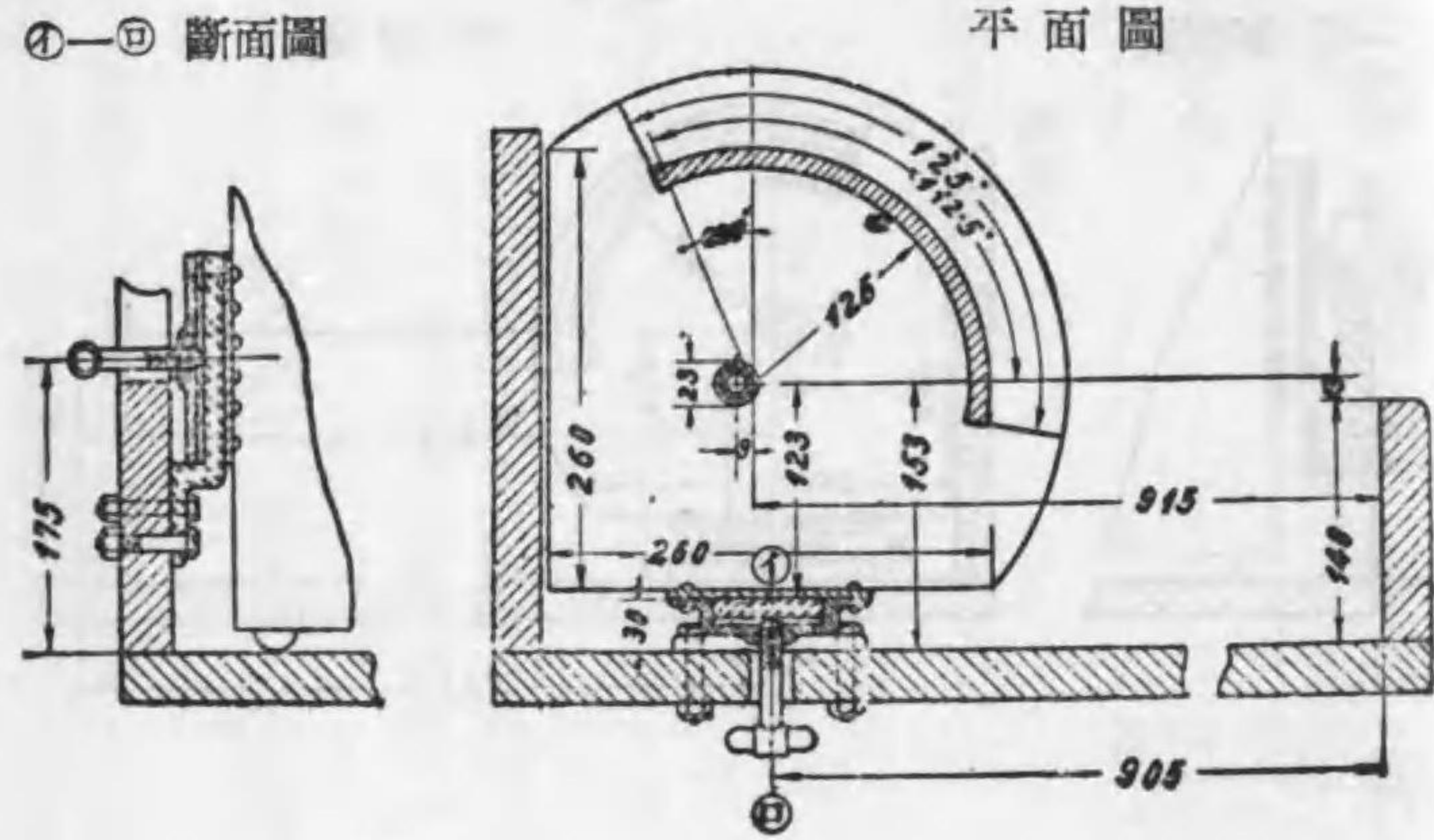
附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和四年六月遞信省令第十九號船燈試驗規程ハ之ヲ廢止ス

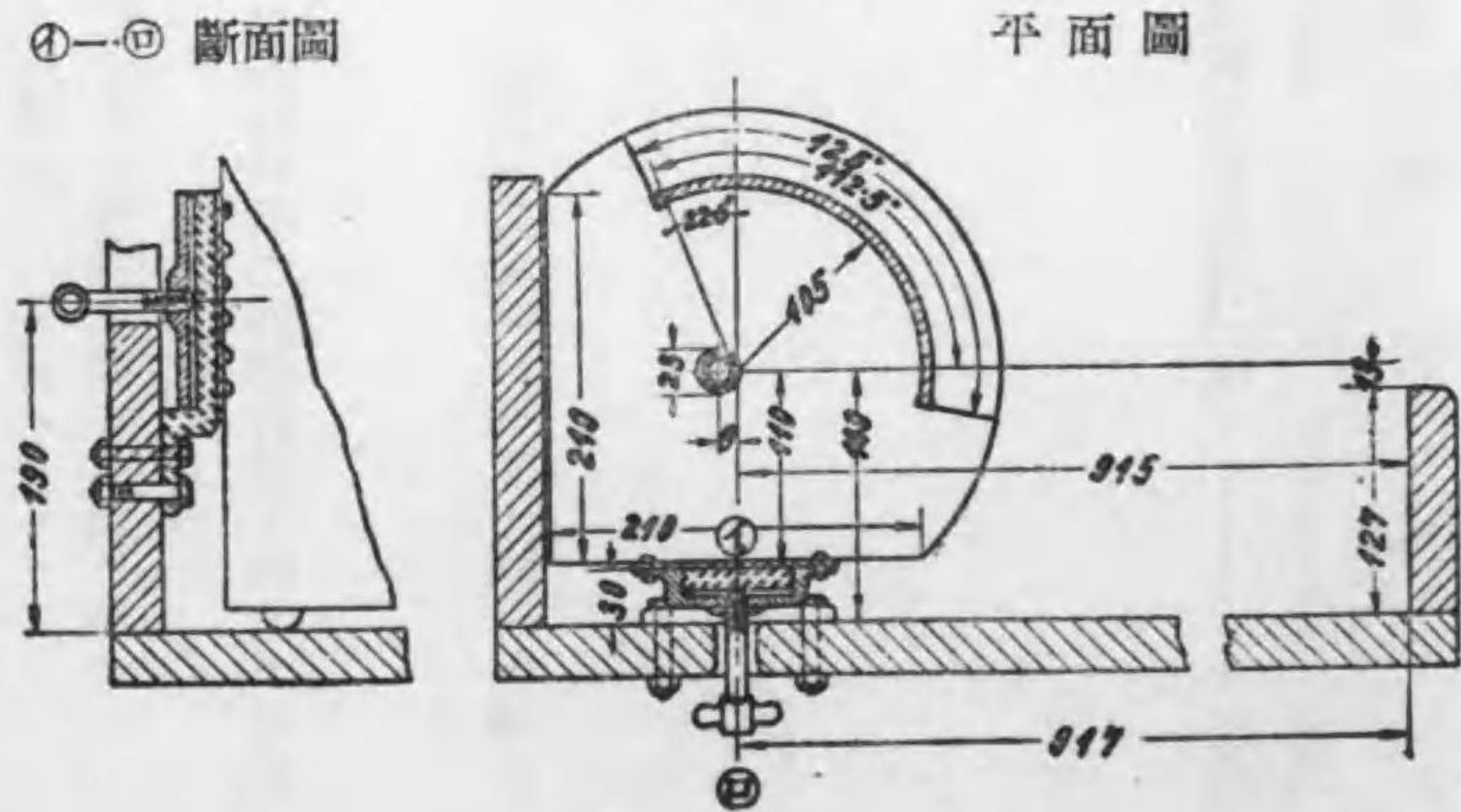
油 船 燈 一 表 法 表

船燈種類	光束角度	燈 色	燈 質		燈 質		燈 質		燈 質		燈 質		燈 質		燈 質	
			色 質	色 質	色 質	色 質	色 質	色 質	色 質	色 質	色 質	色 質	色 質	色 質		
甲種電燈 1 海里以上	225°	第一種 白色 燈 質	200°	115°	180°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°
乙種電燈 3 海里以上	225°	第一種 白色 燈 質	200°	115°	180°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°
甲種電燈 2 海里以上	112.5°	第一種 白色 燈 質	125°	125°	135°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°
乙種電燈 1 海里以上	112.5°	第一種 白色 燈 質	125°	100°	130°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°
甲種電燈 1 海里以上	112.5°	第一種 白色 燈 質	115°	100°	130°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°	300°
乙種電燈 1 海里以上	—	第一種 白色 燈 質	—	—	122°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
甲種電燈 3 海里以上	360°	第一種 白色 燈 質	360°	30°	165°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
乙種電燈 2 海里以上	360°	第一種 白色 燈 質	360°	30°	165°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
乙種電燈 1 海里以上	360°	第一種 白色 燈 質	360°	30°	165°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
丙種電燈 1 海里以上	360°	第一種 白色 燈 質	360°	—	220°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
丁種電燈	360°	第一種 白色 燈 質	360°	—	100°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
紅 色 燈	360°	第一種 紅色 燈 質	360°	90°	165°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三色 燈	360°	第一種 三色 燈 質	360°	115°	180°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電 燈	135°	第一種 白色 燈 質	140°	80°	130°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電 燈	180°	第一種 白色 燈 質	185°	65°	100°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電 燈	45°	第一種 白色 燈 質	40°	95°	165°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電 燈	300°	第一種 白色 燈 質	300°	25°	60°	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

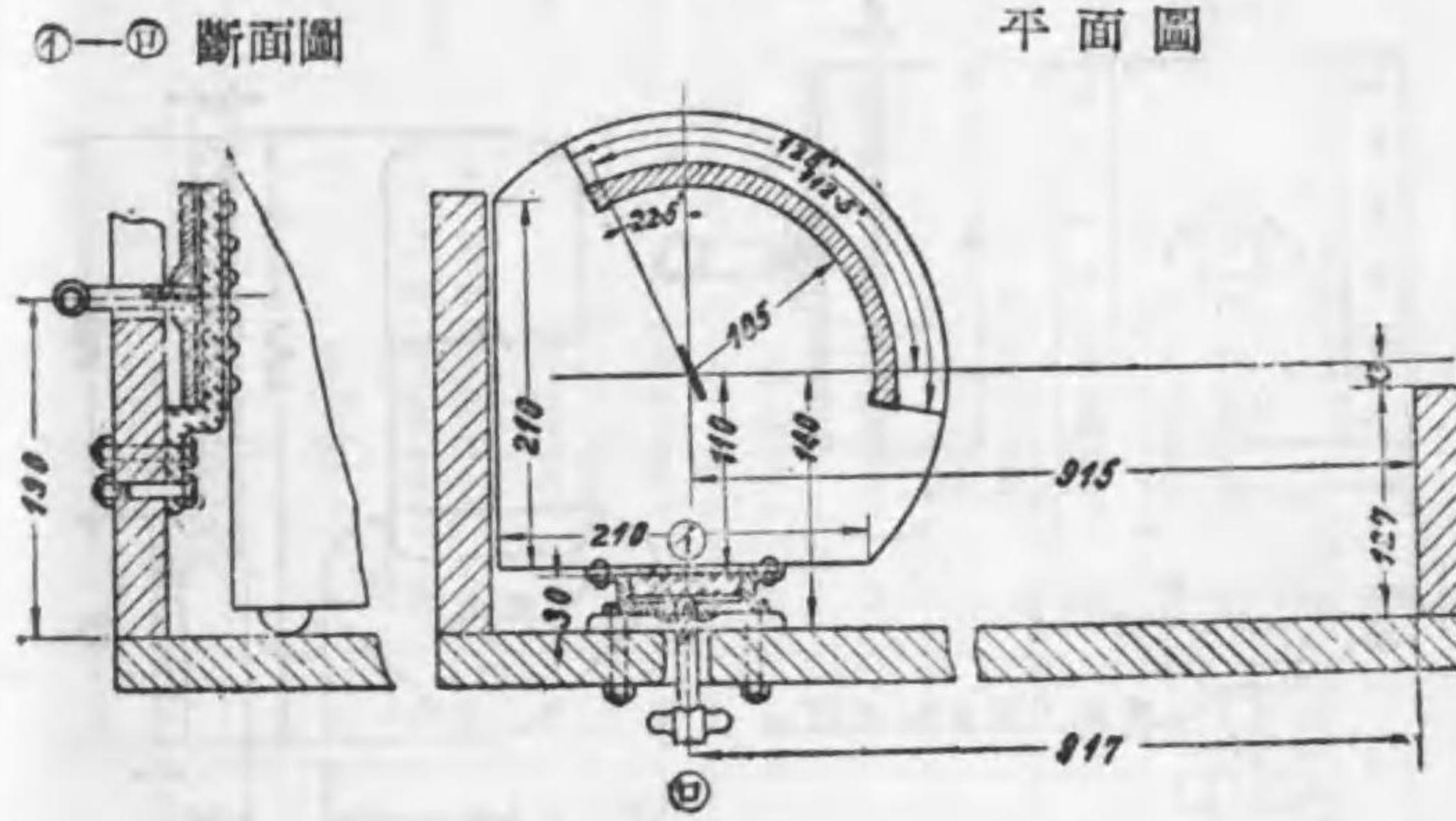
第五圖
甲種舷燈第一種用隔板(電氣船燈用)
單位 mm



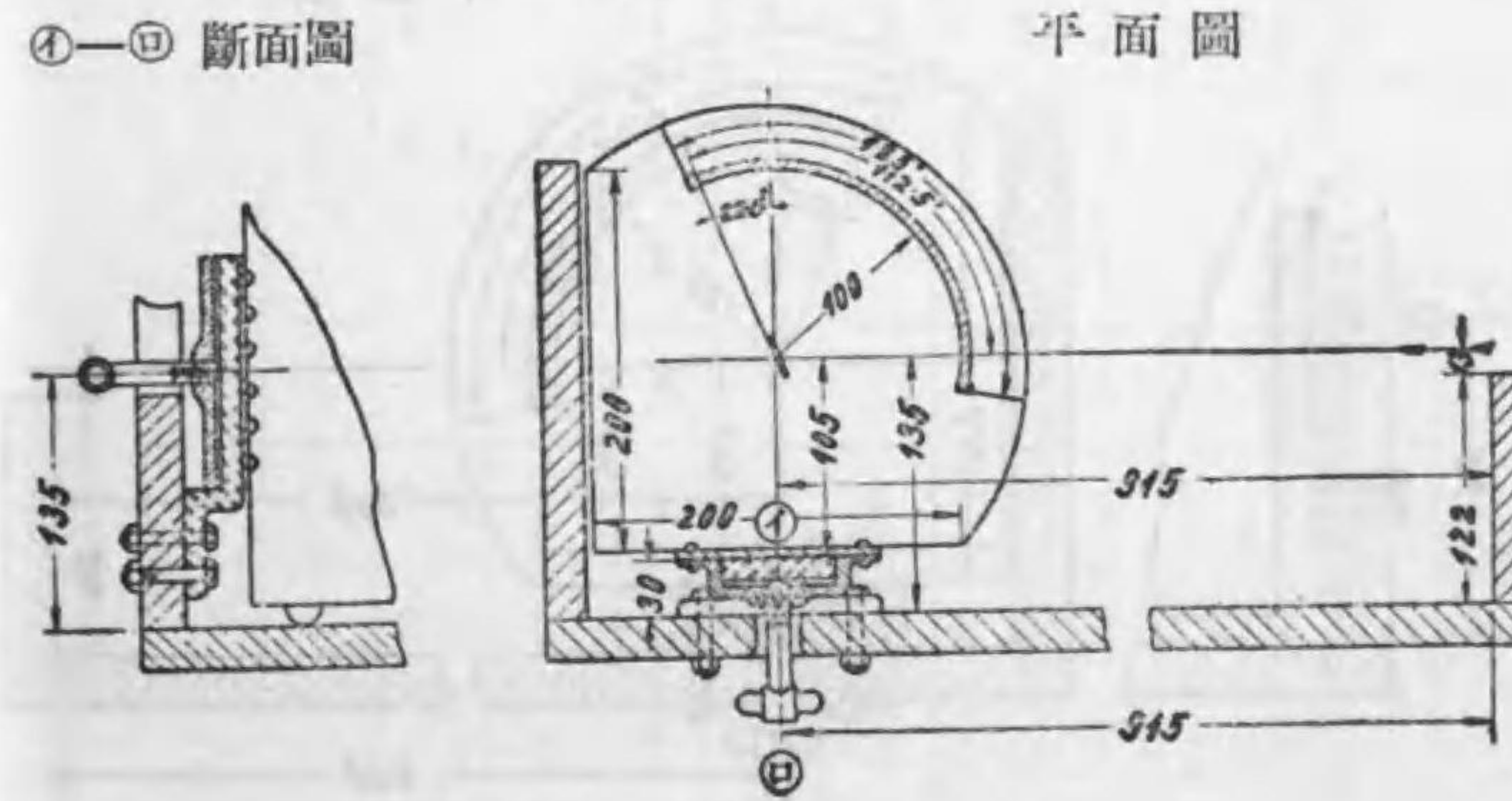
第六圖
甲種舷燈第二種用隔板(電氣船燈用)
單位 mm



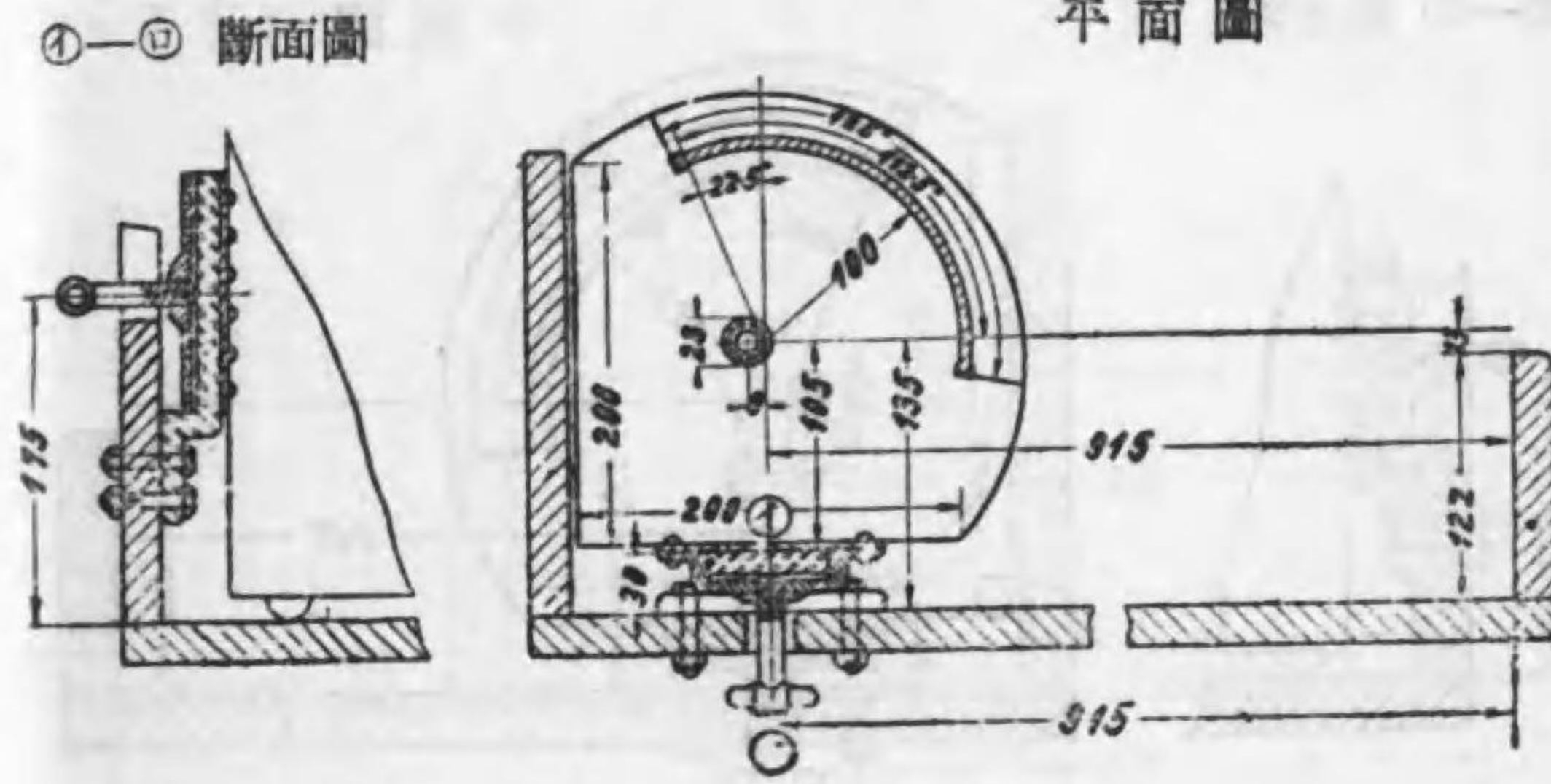
第三圖
甲種舷燈第二種用隔板(油船燈用)
單位 mm



第四圖
乙種舷燈用隔板(油船燈用)
單位 mm



第七圖
乙種舷燈用隔板(電氣船燈用)
單位 mm



信號器試驗規程

(昭和九年二月五日
遞信省令第二〇號)

- 第一章 總則…………… 七五
- 第二章 霧中號角…………… 七五
- 第三章 榴彈…………… 七五
- 第一章 總則…………… 七五
- 第一條 信號器ヲ分チテ左ノ五種トス
 - 霧中號角
 - 榴彈
 - 火箭
 - 信號青燈
 - 信號紅燈
- 第二條 本令ノ規定ニ該當セザル信號器ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス
- 第二章 霧中號角
- 第三條 霧中號角ハ手動ヲ以テ一海里以上ノ距離ニ達スル音響ヲ六秒時以上連續發聲シ得ルモノナルコトヲ要ス
- 第四條 霧中號角ノ構造及寸法ハ本章各條ノ規定ニ依ルノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル
- 第五條 風室ハ良質ノ革及無節堅質ノ木材ヲ以テ製造シ革ト板トハ銅鋸ニハ固著スベシ

第六條 歌口ハ眞鍮其ノ他適當ノ材料ヲ以テ製造シ之ヲ風室ニ固著スベシ
第七條 喇叭管ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛板ヲ以テ製造シ之ニ眞鍮製螺込口ヲ附スベシ
喇叭管ノ縦ノ接合ハ折曲抱合ト爲スベシ

第三章 榴彈

第八條 榴彈ハ昇高一五〇メートル以上ノ箇所ニ於テ爆發シ星火ヲ發スルモノナルコトヲ要ス
第九條 榴彈ハ保存ニ堪ヘ點火ニ危險ナク且不時ニ發火セザル品質ノモノナルコトヲ要ス
第十條 榴彈ニハ取附位置ヲ異ニセル自發點火裝置及豫備點火裝置ヲ納メ置クベシ
自發點火裝置ハ雷管式ニシテ之ニ長サ二メートル以上ノ強靱ナル引索ヲ附スベシ
豫備點火裝置ハ之ニ點火シタル後榴彈ガ昇騰ヲ開始スル迄ニ三秒時以上ノ餘裕アルモノナルコトヲ要ス

第十一條 榴彈ノ打揚筒ハ破裂セザル構造ノモノナルコトヲ要ス

第十二條 榴彈ノ底部ニハ之ヲ打揚臺ニ挿込ム爲徑三〇ミリメートル長サ四〇ミリメートルノ突起ヲ設クルコトヲ要ス

打揚臺ハ眞鍮ヲ以テ製造シタル内徑三一ミリメートル、深サ四〇ミリメートル以上、厚サ五ミリメートルノ圓筒ニシテ木甲板又ハ手摺ニ之ヲ取附クル爲ノ鏝ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第十三條 榴彈ハ一箇毎ニ防濕塗料ヲ施シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビヤ」護謨ニテ密封スベシ
第四章 火箭

第十四條 火箭ハ箭竿ト共ニ昇騰シ高サ一五〇メートル以上ノ箇所ニ於テ爆發シ星火ヲ發スルモノナルコトヲ要ス

第十五條 火箭ハ保存ニ堪ヘ點火ニ危險ナク且不時ニ發火セザル品質ノモノナルコトヲ要ス

第十六條 火箭ニハ荒天ニ於テモ點火シ得ル適當ナル點火裝置ヲ納メ置クベシ

第十七條 内筒ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵銅板ヲ以テ製造シ其ノ縦接合ハ折曲抱合ニシ置クベシ
鐵附ト爲スベシ

第十八條 箭竿ノ材料及寸法ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス
箭竿挿ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵銅板ヲ以テ製造シ適當ナル銅線ヲ以テ筒ニ縛著シ置クベシ

箭竿挿ト銅線トハ鐵附ト爲スベシ
第十九條 火箭ハ一箇毎ニ防濕塗料ヲ施シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビヤ」護謨ニテ密封スベシ

第五章 信號青焰及信號紅焰
第二十條 信號青焰ハ一二〇燭光以上ヲ有スル青色ノ焰ヲ、信號紅焰ハ一二〇燭光以上ヲ有スル紅色ノ焰ヲ三分時以上連續發焰シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二十一條 信號青焰及信號紅焰ハ保存ニ堪ヘ點火ニ危險ナク且不時ニ發火セザル品質ノモノナルコトヲ要ス

第二十二條 信號青焰及信號紅焰ニハ自發點火裝置及豫備點火裝置ヲ納メ置クベシ

第二十三條 信號青焰及信號紅焰ハ一箇毎ニ防濕塗料ヲ施シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビヤ」護謨ニテ密封スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年六月遞信省令第二十號信號器試驗規程ハ之ヲ廢止ス

救命器具試驗規程

(昭和九年二月五日
遞信省令第二一號)

第一章 總則	七〇
第二章 救命艇	七二
第一節 通則	
第一節 第一級救命艇	
第二節 第二級救命艇	
第三節 發動機附救命艇	
第四節 救命艇ノ容積及面積	
第五節 定員	
第六節 定員	
第七節 雜則	
第三章 救命筏	七〇
第四章 救命浮器	七四
第五章 救命浮環	七七
第六章 救命胴衣	七九
第七章 救命焰	八一
第八章 救命索發射器	八一
附則	

第一條 救命器具ヲ分チテ左ノ七種トス

- 一 救命艇
- 二 救命筏
- 三 救命浮器
- 四 救命浮環
- 五 救命胴衣

六 救命焰

七 救命索發射器

第二條 本令ノ規定ニ該當セザル救命器具ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第二章 救命艇

第一節 通則

第三條 救命艇ヲ分チテ左ノ五種トス

- 一 第一級甲型救命艇 内部浮体ノミヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇
- 二 第一級乙型救命艇 内部浮体及外部浮体ヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇
- 三 第二級甲型救命艇 内部浮体及外部浮体ヲ有シ舷側ノ上部ヲ疊込ミ得ル無甲板救命艇
- 四 第二級乙型救命艇 固定水密舷牆又ハ疊込ミ得ル水密舷牆ヲ有スル有甲板救命艇
- 五 發動機附救命艇 第一級救命艇ニシテ發動機ヲ備フルモノ

第四條 救命艇ハ其ノ構造適當ニシテ海上ニ於テ十分ナル復原性ヲ有シ且人及艤裝品ヲ滿載シタルトキ十分ノ乾舷ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第五條 救命艇ハ人及艤裝品ヲ滿載シテ之ヲ安全ニ水面ニ卸シ得ルニ十分ナル強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第六條 救命艇ノ浮力ハ其ノ使用ニ先チ艇体ノ主要部分ニ付特別ノ操作ヲ要セズシテ得ラルルモノナルコトヲ要ス

第六條 救命艇ノ重量ハ人及艤裝品ヲ滿載シタル場合二〇、三〇〇キログラムヲ超ユルコトヲ得ズ

第七條 救命艇ノ容積ハ三・五立方メートル未満ナルコトヲ得ズ
 第八條 第六節ノ規定ニ依リ算出シタル定員ガ一〇〇人以上トナルベキ救命艇ハ發動機附救命艇ト爲スコトヲ要ス

第九條 救命艇ノ内部浮体ニハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル金屬製水密空氣箱ヲ使用スベシ

- 一 空氣箱ハ厚サ〇・六〇ミリメートル以上ノ良質ノ銅板、黃銅板又ハ當該官吏ノ適當ト認ムル耐久材料ニテ構成スルコト(亞鉛板、亞鉛鍍鐵鋼板又ハ銅鍍鐵鋼板ヲ使用スルコトヲ得ズ)
- 二 空氣箱ノ長サハ一・二〇センチメートルヲ超エザルコト
- 三 空氣箱ニハ波形ノ金屬板ニテ構成スルモノヲ除キ其ノ長サ一〇〇センチメートルヲ超ユルモノナルトキハ補強ノ爲空氣箱内部ニ仕切板ヲ設クルコト
- 四 空氣箱ヲ構成スル金屬板ノ繼目ハ幅一〇ミリメートル以上ノ二重折曲抱合ト爲シ良ク槌打シ且繼附スルコト但シ端部ノ繼目ハ折曲ト爲スモ妨ナキコト
- 五 空氣箱ヲ波形ノ金屬板ニハ構成スル場合ニハ繼目ニ於ケル波形ノ部分ニ裂痕ノ發生スルコトヲ防止スル爲空氣箱ヲ構成スルニ先チ板ヲ十分燒鈍スルコト
- 六 空氣箱ニハ之ニ木製ノ仕切板ヲ取附クル等ノ爲穿孔セザルコト
- 七 空氣箱ハ每平方センチメートル〇・〇七キログラムノ空氣壓ヲ以テ試験シ空氣ノ漏洩セザルモノナルコト
- 八 空氣箱ノ表面ニハ煮沸セル亞麻仁油又ハ良質ノ「ワニス」若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル塗料ヲ塗布スルコト
- 九 空氣箱ヲ取附クルニハ之ヲ鐵鋼部ニ接觸セシメザルコト

第十條 救命艇ノ外部浮体ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

- 一 外部浮体ハ「コルク」又ハ之ト同等ノ效力ヲ有スル材料ヲ以テ構成スルコト(「蘭」、「コルク」屑若ハ散粒狀材料ヲ使用スルコトヲ得ズ)
 - 二 外部浮体ヲ構成スル「コルク」ハ之ヲ良質ノ防水帆布ヲ以テ包ミタル上適當ノ塗料ヲ塗布スルコト
 - 三 外部浮体ハ空氣ニ依リ膨脹セシメラレタルモノナラザルコト
 - 四 「コルク」以外ノ材料ヲ以テ構成シタル外部浮体ノ容積及配置ハ救命艇ノ浮力及復原性ガ「コルク」製浮体ヲ備フル場合ト同等ナル様之ヲ定ムルコト
 - 五 外部浮体ハ救命艇ヲ卸ストキ船側ニ接スルモ裂損ヲ生ズルコトナキ形狀ト爲シ其ノ下縁ガ救命艇ノ滿載吃水線ヨリ稍高キ位置ニ在ル様之ヲ艇体ニ取附クルコト
 - 六 外部浮体ハ各舷三箇ヲ連續シタルモノト爲シ必要ニ應ジ艇体ヨリ取外シ得ルモノナルコト
- 第二節 第一級救命艇
- 第十一條 第一級救命艇ノ船首材及船尾材ニ於テ測リタル舷弧ノ高サノ平均ハ艇ノ長サノ四%以上ナルコトヲ要シ其ノ水密空氣箱ノ配置ハ荒天ノ際滿載狀態ニテ艇ノ復原性ヲ確保シ得ルモノナルコトヲ要ス
- 第十二條 第一級甲型木製救命艇ノ水密空氣箱ノ容積ハ艇ノ容積ノ一〇%以上ナルコトヲ要ス
- 第十三條 第一級乙型木製救命艇ノ水密空氣箱ノ容積ハ艇ノ容積ノ七・五%以上、「コルク」製外部浮体ノ容積ハ艇ノ容積ノ三・三%以上ナルコトヲ要ス
- 第十四條 第一級金屬製救命艇ニ在リテハ其ノ浮力ガ第十二條又ハ前條ノ規定ニ依ル第一級木製救

命艇ト同等トナル様浮体ノ容積ヲ定ムベシ

第三節 第二級救命艇

第十五條 第二級甲型救命艇ノ疊込舷側ハ水密ナルコトヲ要ス

第十六條 第二級甲型救命艇ノ長サノ中央ノ舷側ニ於ケル固定艇体ノ上面ヨリ測リタル乾舷ハ滿載

状態ニ於テ淡水中ニテ左表ニ掲グルモノヨリ小ナラザルコトヲ要ス

救命艇ノ長サ (米)	最小乾舷 (耗)
七・九〇	二〇〇
八・五〇	二二五
九・一五	二五〇

備考

救命艇ノ長サガ表ニ掲グルモノニ該當セザルトキハ挿間法ニ依リ最小乾舷ヲ求ムベシ

第十七條 第二級甲型木製救命艇ノ水密空氣箱ノ容積ハ定員一人ニ付四三立方デシメートル以上、

「コルク」製外部浮体ノ容積ハ定員一人ニ付六立方デシメートル以上ナルコトヲ要ス

第十八條 第二級甲型金屬製救命艇ニ在リテハ其ノ浮力ガ前條ノ規定ニ依ル第二級甲型木製救命艇ト同等トナル様浮体ノ容積ヲ定ムベシ

第十九條 第二級乙型救命艇ハ栓孔ヲ有セザルモノニシテ甲板上ヨリ水ヲ排除スルニ有效ナル装置ヲ備フルモノナルコトヲ要シ且甲板ノ形狀ニ應ジ左ノ各號ノ一ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 凹甲板救命艇ニ在リテハ凹甲板ノ面積ハ甲板全面積ノ三〇%以上ト爲シ凹甲板ノ水面上ノ高

サハ其ノ最低箇所ニ於テ艇ノ長サノ〇・五%以上、其ノ兩端ニ於テ艇ノ長サノ一・五%以上ト爲シ且乾舷ハ三五%以上ノ豫備浮力ヲ供スルモノト爲スコト

二 平甲板救命艇ニ在リテハ艇ノ長サノ中央ノ舷側ニ於ケル甲板ノ上面ヨリ測リタル乾舷ハ滿載状態ニ於テ淡水中ニテ左表ニ掲グルモノヨリ小ナラザルコト

救命艇ノ深サ (耗)	最小乾舷 (耗)
三二〇	七〇
四六〇	九五
六一〇	一三〇
七六〇	一六五

備考

一 救命艇ノ深サハ長サノ中央ニ於テ龍骨翼板ノ下面ヨリ舷側ニ於ケル甲板ノ上面迄ノ垂直距離トス

二 救命艇ノ深サガ表ニ掲グルモノニ該當セザルトキハ挿間法ニ依リ最小乾舷ヲ求ムベシ

三 船首材及船尾材ニ於テ測リタル舷弧ノ高サノ平均ガ艇ノ長サノ三%ヨリ小ナルトキハ最小乾舷ハ表ニ掲グルモノニ艇ノ長サノ三%ト該平均トノ差ノ一四・三%ヲ加ヘタルモノト爲スベシ

第四節 發動機附救命艇

第二十條 發動機附救命艇ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

- 一 第一級救命艇ニ關スル規定ニ適合シ且發動機、探照燈及無線電信設備並ニ其ノ附屬物ノ重量ト此等ヲ除キタルトキ艇ニ追加收容シ得ベキ人員ノ重量トノ差ヲ補フニ足ル様十分ニ浮体ノ容積ヲ増加スルコト
- 二 發動機及其ノ附屬物ハ荒天状態ニ於テモ確實ニ操作シ得ル様適當ニ之ヲ蔽圍スルコト
- 三 後退ノ爲メノ裝置ヲ備フルコト
- 四 速力ハ滿載状態ニテ平水ニ於テ一時間ニ付六海里以上ナルコト
- 五 一〇〇人以上ノ定員ヲ有スル發動機附救命艇ニ在リテハ浮体ノ容積ヲ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ從ヒ増加スルコト

第五節 救命艇ノ容積及面積

第二十一條 第一級救命艇ノ容積(立方メートルニテ)ハ左ノ算式ニ依リ算定スベシ

$$\text{容積} = \frac{1}{12} (4A + 2B + 4C)$$

ハ船首材ニ於ケル外板ノ内面ヨリ船尾ノ形狀尖形ナルトキハ船尾材ニ於ケル外板ノ内面迄、
 方形ナルトキハ船尾横板ノ内面迄測リタル救命艇ノ長サ(メートルニテ)

A、B及Cハハノ一端ヨリ順次其ノ四分ノ一、二分ノ一及四分ノ三ノ箇所ニ於ケル艇体ノ横截面積(平方メートルニテ)

第二十二條 前條ノ横截面積(平方メートルニテ)A、B及Cハ夫々左ノ算式ニ依リ算定スベシ

$$\text{面積} = \frac{1}{12} (a + 4b + 2c + 4d + e)$$

hハ外板ノ内面ニ於テ龍骨ヨリ舷端迄測リタル當該横截面ノ深サ(メートルニテ)

a及eハhノ兩端ニ於ケル外板ノ内面ヨリ内面迄ノ幅(メートルニテ)

b、c及dハhノ一端ヨリ順次其ノ四分ノ一、二分ノ一及四分ノ三ノ箇所ニ於ケル外板ノ内面ヨリ内面迄ノ幅(メートルニテ)

前項ノ算式ニ依リ横截面ヲ算定スルニ當リテハ左ノ規定ニ依ルベシ

- 一 横截面積A又ハCノ算定ニ於テ當該横截面ニ於ケル舷弧ノ高サガ艇ノ長サノ一%ヲ超ユルトキハ超過部分ニ相當スル面積ハ之ヲ横截面積ニ算入スベカラズ
- 二 中央横截面積Bノ算定ニ於テ當該横截面ニ於ケル舷端迄ノ深サガ最大内法幅ノ四五%ヲ超ユルトキハ超過部分ニ相當スル面積ハ之ヲ横截面積ニ算入スベカラズ
- 三 前號ノ場合横截面積A又ハCノ算定ニ於テ當該横截面ニ於ケル舷端迄ノ深サガ中央横截面ノ最大内法幅ノ四五%ニ艇ノ長サノ一%ヲ加ヘタルモノヲ超ユルトキハ超過部分ニ相當スル面積ハ之ヲ横截面積ニ算入スベカラズ

第二十三條 發動機附救命艇ノ容積ハ第二十一條ノ規定ニ依ル容積ヨリ發動機、探照燈及無線電信設備並ニ其ノ附屬物ノ占ムル容積ヲ控除シタルモノトス

第二十四條 第二級甲型救命艇ノ固定舷側内ノ面積(平方メートルニテ)又ハ第二級乙型救命艇ノ甲板面積(平方メートルニテ)ハ左ノ算式ニ依リ算定スベシ

$$\text{面積} = \frac{1}{12} (2a + 1.5b + 4c + 1.5d + 2e)$$

ハ外板ノ外面ト船首材トノ交點ヨリ船尾材ニ於ケル之ニ相當スル點迄ノ長サ(メートルニテ)
 a、b、c、d及eハハノ一端ヨリ順次其ノ八分ノ一、四分ノ一、二分ノ一、四分ノ三及八分

ノ七ノ箇所ニ於テ舷端又ハ甲板上面ニテ測リタル外板ノ外面ヨリ外面迄ノ幅(メートルニテ)
 第二十五條 第一級救命艇ノ容積(立方メートルニテ)ハ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ第
 二十一條ノ規定ニ依ラズ左ノ算式ニ依リ算定スルコトヲ得

$$\text{容積} = L \times B \times D \times 0.6$$

Lハ船首材ニ於ケル外板ノ外面ヨリ船尾ノ形狀尖形ナルトキハ船尾材ニ於ケル外板ノ外面迄、
 方形ナルトキハ船尾横板ノ外面迄測リタル救命艇ノ長さ(メートルニテ)

Bハ艇体最廣部ニ於ケル外板ノ外面ヨリ外面迄測リタル救命艇ノ幅(メートルニテ)

Dハ艇ノ長さノ中央ニ於テ龍骨ニ於ケル外板ノ内面ヨリ舷端迄測リタル救命艇ノ深サ(メー
 ルニテ)

前項ノ算式ニ依リ容積ヲ算定スルニ當リテハDガBノ四五%ヲ超ユルトキハDノ値ハBノ四五%
 ニ止ム

第六節 定員

第二十六條 第一級救命艇ノ定員ハ其ノ容積(立方メートルニテ)ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シ
 第二級救命艇ノ定員ハ固定舷側内又ハ甲板ノ面積(平方メートルニテ)ヲ左表ニ掲グル單位面積ニ
 テ除シ之ヲ定ムベシ

救命艇ノ種類	單位容積又ハ單位面積
第一級甲型救命艇	〇・二八三立方メートル

第一級乙型救命艇	〇・二五五立方メートル
第二級救命艇	〇・三二五平方メートル

第二十七條 有甲板救命艇ニ在リテハ座席設備ニ相當スル人員ガ前條ノ定員ヨリ大ナルトキハ當該
 官吏ハ實地試験ノ上其ノ定員ヲ増加スルコトヲ得但シ甲板面積平方メートル數ヲ〇・二八〇ニテ
 除シテ得タル數ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ試験ニ於テ凹甲板救命艇ノ側部ニ於ケル甲板ノ高マリタル部分ハ之ヲ座席ニ充ツルコトヲ
 得

第二十八條 救命艇ノ定員ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ必要ニ應ジ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ制限スベ
 シ

一 前二條ノ規定ニ依ル定員ガ座席設備ニ相當スル人員ヨリ多キトキハ定員ヲ座席設備ニ相當ス
 ル人員ニ止ムベシ此ノ場合座席設備ニ相當スル人員ハ總員著席シタルトキ權ノ使用ヲ妨ゲザル
 様之ヲ決定スベシ

二 第二級救命艇ニ在リテハ滿載状態ニ於ケル乾舷ガ第十六條又ハ第十九條ニ規定スル乾舷ヨリ
 小ナルトキハ該規定ニ適合スル迄定員ヲ減少スベシ

三 深サ一二センチメートルヲ超ユル第一級救命艇ニ在リテハ第二十六條ニ依ル定員ニ一二二
 センチメートルト艇ノ實際ノ深サトノ比ヲ乘ジテ得タル人員迄定員ヲ減少スベシ但シ實地試験
 ノ上減少ノ程度ヲ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムル限度ニ止ムルコトヲ得

第二十九條 鋭尖ナル兩端ヲ有スル救命艇又ハ形狀著シク肥滿セル救命艇ノ定員ノ算定ハ當該官吏
 ノ適當ト認ムル方法ニ依ル

第三十條 救命艇ノ實地試験ハ救命胴衣ヲ着用シタル大人ヲ搭載シテ之ヲ行フベシ
有甲板救命艇ノ乾舷ノ検査ハ定員一人ニ付七五キログラムノ重量ヲ積載シテ之ヲ行フベシ

第七節 雜則

第三十一條 救命艇ニハ其ノ舷側ノ外周ニ沿ヒ長サ六一センチメートル毎ニ一箇ノ把握部ヲ有スル
把索ヲ取附クベシ

前項ノ把握部ノ中央ハ救命艇ノ満載吃水線ニ近キコトヲ要ス

第三十二條 救命艇ニハ明瞭且耐久ノ文字ヲ以テ左ノ各號ノ標示ヲ爲スベシ

- 一 型式承認番號(型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル)
- 二 製造番號
- 三 寸法(第二十五條第一項ニ示スL、B及D)
- 四 定員
- 五 重量(満載状態ノ重量)
- 六 製造年月
- 七 製造者ノ氏名又ハ名稱

第三章 救命筏

第三十三條 救命筏ノ定員ハ該救命筏ノ甲板面積平方メートル數ヲ〇・三七二ニテ除シタル數及浮
体ノ全容積立方デシメートル數ヲ八五ニテ除シタル數ノ中何レカ小ナルモノヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十四條 救命筏ハ上下何レノ面ヲ上ニシテ浮ベタル場合ニ於テモ有效ニシテ定員一人ニ付七五
キログラムノ割合ノ鐵片ヲ其ノ重心ガ筏ノ甲板面ヨリ〇・六メートルノ位置ニ在ル様ニ搭載シ且

屬具ヲ搭載シタル場合相當ノ復原性及乾舷ヲ保持スルモノナルコトヲ要ス

第三十五條 救命筏ハ之ヲ使用スルニ先キ特別ノ操作ヲ要セズ且容易迅速ニ取扱ヒ得ルモノナルコ
トヲ要ス

第三十六條 救命筏ハ構造堅牢ニシテ船舶ノ甲板ヨリ之ヲ投下スルモノニ在リテハ救命筏搭載甲板
ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線迄ノ高サニ等シキ高サヨリ水面ニ墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナ
ルコトヲ要シ機械的裝置ニ依リ進水セシムルモノニ在リテハ其ノ強力ハ當該官吏ノ適當ト認ムル
モノナルコトヲ要ス

第三十七條 救命筏ノ重量ハ七五〇キログラムヲ超ユルコトヲ得ズ但シ機械的裝置ニ依リ進水セシ
ムル救命筏ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八條 救命筏ノ浮体ハ水密ナル空氣箱又ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムル浮力材料ヨリ成ルコ
トヲ要シ浮体ノ浮力ガ空氣ニ依ルモノナル場合ニハ膨脹セシムル必要ナキモノナルコトヲ要ス

第三十九條 浮体ハ出來得ル限り救命筏ノ側部ニ近ク之ヲ配置スルコトヲ要ス

- 第四十條 金屬製空氣箱ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス
 - 一 空氣箱ハ厚サ〇・六〇ミリメートル以上ノ良質ノ銅板又ハ黃銅板若ハ當該官吏ノ適當ト認ム
ル耐久材料ニテ構成スルコト(亞鉛板、亞鉛鍍鐵鋼板又ハ銅鍍鐵鋼板ヲ使用スルコトヲ得ズ)
 - 二 空氣箱ノ長サハ一二〇センチメートルヲ超エザルコト
 - 三 空氣箱ニハ波形ノ金屬板ニテ構成スルモノヲ除キ其ノ長サガ七五センチメートルヲ超ユルモ
ノナルトキハ補強ノ爲空氣箱内部ニ仕切板又ハ支肘ヲ設クルコト
 - 四 空氣箱ヲ構成スル金屬板ノ繼目ハ幅一〇ミリメートル以上ノ折曲抱合ト爲シ良ク槌打シ且鐵

附スルコト但シ端部ノ繼目ハ折曲ト爲スモ妨ナキコト

五 空氣箱ヲ波形ノ金屬板ニテ構成スル場合ニハ繼目ニ於ケル波形ノ部分ニ裂痕ノ發生スルコト

ヲ防止スル爲空氣箱ヲ構成スルニ先チ板ヲ十分ニ燒鈍スルコト

六 空氣箱ニハ之ニ木製ノ仕切板又ハ支肘ヲ取附タル等ノ爲穿孔セザルコト

七 空氣箱ハ每平方センチメートル〇・一〇キログラムノ空氣壓ヲ以テ試験シ空氣ノ漏洩セザルモノナルコト

八 空氣箱ノ表面ニハ煮沸セル亞麻仁油又ハ良質ノ「ワニス」若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル塗料ヲ

塗布スルコト

九 空氣箱ヲ取附クルニハ之ヲ鐵鋼部ニ接觸セシメザルコト

第四十一條 浮休ハ包箱又ハ包枠ヲ以テ之ヲ防護シ動かザル様取附クルコトヲ要ス

第四十二條 救命筏ノ主枠組ニ使用スル木材ハ堅材ナルコトヲ要ス

浮休ヲ防護スル爲ノ包箱、包枠又ハ甲板ニ使用スル木材ハ柔材ナルモ妨ナシ

第四十三條 救命筏ハ其ノ兩面ニ木材、帆布其ノ他適當ナル材料ニテ造リタル固定又ハ疊込ノ舷壁ヲ備フルコトヲ要ス

第四十四條 救命筏ニハ當該官吏ノ適當ト認ムル位置ニ五箇以上ノ樞架孔ヲ設クルコトヲ要ス

第四十五條 救命筏ニハ其ノ周邊ニ沿ヒ周邊ノ長サ三〇・五センチメートル毎ニ一箇ノ把握部ヲ有スル二列ノ把索ヲ其ノ一ハ浮休ノ頂面ヨリ稍下部ニ、他ハ浮休ノ底面ヨリ稍上部ニ取附クルコトヲ要ス

前項ノ把索ハ良質ノ「マニラ」索ニシテ徑一二ミリメートル以上ノモノナルコトヲ要シ把握部ニハ

外徑四センチメートル長サ一〇センチメートルノ木製浮子ヲ附スルコトヲ要ス

第四十六條 救命筏ニハ左ノ各號ノ條件ニ從ヒ繫索ヲ備フルコトヲ要ス

一 繫索ノ長サハ救命筏ヲ搭載スル甲板ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線迄ノ高サニ二メートルヲ加ヘタルモノ以上ナルコト但シ一八メートルヨリ長キコトヲ要セザルコト

二 繫索ハ良質ノ「マニラ」索トシ其ノ大サハ救命筏ノ重量五〇〇キログラム以下ノモノニ在リテハ徑二四ミリメートル以上、五〇〇キログラムヲ超ユルモノニ在リテハ徑三〇ミリメートル以上ナルコト

三 繫索ヲ救命筏ニ取附クルニハ救命筏ニ堅牢ニ取附ケタル亞鉛鍍セル鍊鐵製又ハ鋼製ノ鑲附螺釘及母螺其ノ他適當ノ方法ニ依ルコト

四 前號ノ鑲附螺釘ノ鑲材ノ徑ハ徑二四ミリメートルノ繫索ニ對シテハ一一ミリメートル、徑三〇ミリメートルノ繫索ニ對シテハ一六ミリメートルナルコト

第四十七條 救命筏ニハ明瞭且耐久ノ文字ヲ以テ左ノ各號ノ標示ヲ爲スベシ

一 型式承認番號(型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル)

二 製造番號

三 定員

四 重量

五 墜落試験ノ高サ

六 製造年月

七 製造者ノ氏名又ハ名稱

第四章 救命浮器

第四十八條 救命浮器ノ定員ハ該救命浮器ノ全浮力キログラム數ヲ一四・五ニテ除シタル數及周邊ノ長サセンチメートル數ヲ三〇・五ニテ除シタル數ノ中何レカ小ナルモノヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十九條 救命浮器ハ上下何レノ面ヲ上ニシテ浮ベタル場合ニ於テモ有效ニシテ任意ノ邊ニ長サ三〇・五センチメートルニ付七・五キログラムノ割合ノ鐵片ヲ把索ニ吊シタルトキ相當ノ復原性及乾舷ヲ保持スルモノナルコトヲ要ス

第五十條 救命浮器ハ之ヲ使用スルニ先チ特別ノ操作ヲ要セズ且機械的裝置ナクシテ容易迅速ニ取扱ヒ得ルモノニシテ必要ニ應ジ之ヲ搭載セル甲板ヨリ水面ニ投下シ得ルモノナルコトヲ要ス

第五十一條 救命浮器ノ幅ハ一〇五センチメートル以上ナルコトヲ要ス

第五十二條 救命浮器ハ構造堅牢ニシテ之ヲ搭載スル甲板ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線ノ高サニ等シキ高サヨリ水面ニ墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第五十三條 救命浮器ノ重量ハ一八〇キログラムヲ超ユルコトヲ得ズ
重量一三五キログラムヲ超ユル救命浮器ニ在リテハ之ガ取扱ヲ容易ナラシムル爲適當ナル把手又ハ棧未ヲ取附ケ置クコトヲ要ス

前項ノ把手又ハ棧木ハ船舶ノ手摺ヲ越エテ救命浮器ヲ迂リ落サシムルニ支障ヲ來サザルモノナルコトヲ要ス

第五十四條 救命浮器ヲ淡水ニ浮ベタルトキ之ニ吊シ得ル鐵片ノ重量(キログラムニテ)ヲ以テ救命浮器ノ全浮力トス

第五十五條 救命浮器ノ浮体ハ水密ナル空氣箱又ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムル浮力材料ヨリ成ルコトヲ要ス

コトヲ要シ浮体ノ浮力ガ空氣ニ依ルモノナル場合ニハ救命浮器ノ使用ニ先チ膨脹セシムル必要ナキモノナルコトヲ要ス

第五十六條 浮体ハ出來得ル限り救命浮器ノ側部ニ近ク之ヲ配置スルコトヲ要ス

第五十七條 金屬製空氣箱ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス
一 空氣箱ハ厚サ〇・六〇ミリメートル以上ノ良質ノ銅板又ハ黃銅板若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル耐久材料ニテ構成スルコト(亞鉛板、亞鉛鍍鐵鋼板又ハ銅鍍鐵鋼板ヲ使用スルコトヲ得ズ)

二 空氣箱ノ長サハ一二〇センチメートルヲ超エザルコト

三 空氣箱ニハ波形ノ金屬板ニテ構成スルモノヲ除キ其ノ長サガ七五センチメートルヲ超ユルモノナルトキハ補強ノ爲空氣箱内部ニ仕切板又ハ支肘ヲ設クルコト

四 空氣箱ヲ構成スル金屬板ノ縫目ハ幅一〇ミリメートル以上ノ折曲抱合ト爲シ良ク槌打シ且ツ縫附スルコト但シ端部ノ縫目ハ折曲ト爲スモ妨ナキコト

五 空氣箱ヲ波形ノ金屬板ニテ構成スル場合ニハ縫目ニ於ケル波形ノ部分ニ裂痕ノ發生スルコトヲ防止スル爲空氣箱ヲ構成スルニ先チ板ヲ十分ニ燒鈍スルコト

六 空氣箱ニハ之ニ木製ノ仕切板又ハ支肘ヲ取附クル等ノ爲穿孔セザルコト

七 空氣箱ハ每平方センチメートル〇・一〇キログラムノ空氣壓ヲ以テ試験シ空氣ノ漏洩セザルモノナルコト

八 空氣箱ノ表面ニハ煮沸セル亞麻仁油又ハ良質ノ「ワニス」若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル塗料ヲ塗布スルコト

九 空氣箱ヲ取附クルニハ之ヲ鐵鋼部ニ接觸セシメザルコト

第五十八條 浮体ハ包箱又ハ包枠ヲ以テ之ヲ防護シ動カザル様取附クルコトヲ要ス

第五十九條 救命浮器ノ主梓組ニ使用スル木材ハ堅材ナルコトヲ要ス但シ當該官吏ニ於テ差支ナシ

ト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

浮体ヲ防護スル爲ノ包箱又ハ包枠ニ使用スル木材ハ柔材ナルモ妨ナシ

第六十條 救命浮器ニハ其ノ周邊ニ沿ヒ該救命浮器ノ定員ト同數ノ把握部ヲ有スル把索ヲ取附クル

コトヲ要ス

前項ノ各把握部ニハ外徑四センチメートル長サ一〇センチメートルノ木製浮子ヲ附スルコトヲ要ス

把握部ノ弛ミノ深サハ把索ガ濡レタルトキ一五センチメートル以上二〇センチメートル以下ナルコトヲ要ス

把索ハ深サ三〇センチメートル以下ノ救命浮器ニ在リテハ之ヲ深サノ中央線ニ沿ヒ一列ニ取附クルコトヲ要シ深サ三〇センチメートルヲ超ユル救命浮器ニ在リテハ之ヲ二列トシ其ノ一ハ浮体ノ

頂面ヨリ稍下部ニ、他ハ浮体ノ底面ヨリ稍上部ニ取附クルコトヲ要ス

把索ハ良質ノ「マニラ」索ニシテ徑一二ミリメートル以上ノモノナルコトヲ要ス

把索ヲ救命浮器ニ取附クルニハ亞鉛鍍セル鍊鐵製又ハ鋼製ノ環附螺釘及母螺ヲ使用スルカ又ハ救命浮器ノ外周ヲ形成スル梓材ニ孔ヲ穿テ之ニ直接把索ヲ通ズベシ

第六十一條 救命浮器ニハ左ノ各號ノ條件ニ從ヒ繫索ヲ備フルコトヲ要ス

一 繫索ノ長サハ救命浮器ヲ搭載スル甲板ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線迄ノ高サニ二メートルヲ加ヘタルモノ以上ナルコト但シ一八メートルヨリ長キコトヲ要セザルコト

二 繫索ハ良質ノ「マニラ」索トシ其ノ大サハ救命浮器ノ重量一三五キログラム以下ノモノニ在リテハ徑一六ミリメートル以上、一三五キログラムヲ超ユルモノニ在リテハ徑二〇ミリメートル

以上ナルコト

三 繫索ヲ救命浮器ニ取附クルニハ救命浮器ニ堅牢ニ取附ケタル亞鉛鍍セル鍊鐵製又ハ鋼製ノ環附螺釘及母螺其ノ他適當ノ方法ニ依ルコト

四 前號ノ環附螺釘ノ環材ノ徑ハ一一ミリメートルナルコト

第六十二條 救命浮器ノ側部ハ旅客ノ注意ヲ喚起スル爲紅白交互ノ條線ニ塗裝スベシ

第六十三條 救命浮器ニハ明瞭且耐久ノ文字ヲ以テ左ノ各號ノ標示ヲ爲スベシ

一 型式承認番號(型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル)

二 製造番號

三 定員

四 重量

五 墜落試験ノ高サ

六 製造年月

七 製造者ノ氏名又ハ名稱

第五章 救命浮環

第六十四條 救命浮環ハ一四・五キログラムノ鐵片ヲ附シ淡水ニ於テ二四時間以上浮ビ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十五條 救命浮環ハ高サ一八メートルノ箇所ヨリ水面ニ墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第六十六條 救命浮環ノ内徑ハ四二〇ミリメートルト爲シ外徑ハ七五〇ミリメートル以上、厚サハ

一〇〇ミリメートル以上、横截面ノ周ハ四五〇ミリメートル以上ト爲スベシ
第六十七條 救命浮環ノ浮力材料ハ一八箇以内ノ「コルク」塊又ハ「バルサ」塊ヲ木釘ヲ以テ固著シタルモノト爲スベシ

「コルク」ハ黒肌其ノ他ノ瑕疵ヲ有セザル天然「コルク」ニシテ其ノ重量一〇〇立方センチメートルニ付二二・五グラム以下ノモノナルコトヲ要ス

「バルサ」ハ樹皮其ノ他ノ瑕疵ヲ有セズ且十分ニ蒸氣乾燥ヲ施シタル良質ノモノナルコトヲ要ス

第六十八條 救命浮環ハ帆布ヲ以テ外装シ之ニ酸化亞鉛ヲ主成分トスル防水塗料ヲ三回以上塗布スベシ

帆布ハ一平方メートルニ付三四五グラム以上ノ重量ヲ有シ且幅三〇ミリメートルノ試験片ニ付長

サ一〇〇ミリメートルニテ試験シ經緯共四〇キログラム以上ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第六十九條 救命浮環ニハ四箇ノ縛帶ヲ縫著シ其ノ一箇ニハ檢印捺用ノ孔ヲ設ケ其ノ周縁ハ飾縫ト爲シ且孔蓋ヲ縫著スベシ

縛帶ハ幅六〇ミリメートル以上ト爲シ外装布ト同一ノ帆布ヲ二重合縫ト爲シタルモノナルコトヲ要ス

第七十條 救命浮環ニハ其ノ周圍ニ把索ヲ附スベシ

把索ハ良質ノ「ヤニラ」索トシ徑一〇ミリメートル以上、總長三メートル以上ニシテ接合部ニ於テ

モ三〇〇キログラム以上ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十一條 「ミシン」縫ニハ長サ二〇〇ミリメートルニテ試験シ二キログラム以上ノ強力ヲ有スル亞麻絲又ハ綿絲ヲ使用スベシ

手縫ニハ長サ二〇〇ミリメートルニテ試験シ二三キログラム以上ノ強力ヲ有スル亞麻絲ヲ使用スベシ

第七十二條 「ミシン」縫部ハ二五ミリメートルニ付約八針ノ割合ニテ、手縫部ハ二五ミリメートルニ付約三針ノ割合ニテ縫著スベシ

第六章 救命胴衣

第七十三條 救命胴衣ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 大人及小兒ノ兼用ニ適シ著用法簡易ニシテ前後表裏轉用シ得ルコト

二 水中ニ於テ身体ヲ略垂直ノ位置ニ保テ頭部ヲ十分露出セシメ得ルコト

第七十四條 救命胴衣ハ淡水ニ於テ七・五キログラムノ鐵片ヲ附シ二四時間浮ビタル後更ニ六・五キログラムノ鐵片ヲ附加シテ浮ビ得ルモノナルコトヲ要ス

第七十五條 救命胴衣ノ浮力材料ニハ「カボツク」、「コルク」又ハ「バルサ」ヲ使用スベシ

「カボツク」ハ良質ノ乳白色「カボツク」ニシテ種子其ノ他ノ夾雜物ヲ含有セズ且打綿ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス

「コルク」ハ黒肌其ノ他ノ瑕疵ヲ有セザル天然「コルク」ニシテ其ノ重量一〇〇立方センチメートルニ付二二・五グラム以下ノモノナルコトヲ要ス

「バルサ」ハ樹皮其ノ他ノ瑕疵ヲ有セズ且十分ニ蒸氣乾燥ヲ施シタル良質ノモノナルコトヲ要ス

「コルク」塊及「バルサ」塊ハ特殊ノ箇所ニ使用スルモノヲ除ク外七五〇立方センチメートル以上ノ容積ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十六條 救命胴衣ノ前部浮袋及後部浮袋ニハ等量ノ浮力材料ヲ使用スルコトヲ要シ「カボツク」

ヲ使用スルモノニ在リテハ各五〇〇グラム以上ナルコトヲ要ス
第七十七條 救命胴衣ノ仕上寸法ハ左表ニ依ル

浮力材料	前後各浮袋ノ寸法(浮力材料充填後)(耗)			首穴ノ寸法(耗)		肩襷ノ幅(耗)
	幅(中央ニテ)	高さ(中央ニテ)	厚サ(中央ニテ)	前後ノ徑	左右ノ徑	
カボツク	四〇〇	一九〇	一四〇			
コルク	四〇〇	一九〇	一二〇	二〇〇	一六〇	六〇
バルサ	四〇〇	一九〇	一二〇			

第七十八條 覆布、肩襷等ノ材料ハ糊附、防水其ノ他ノ粧装ヲ施サザル綿布又ハ亞麻布ニシテ一平方メートルニ付二四五グラム以上ノ重量ヲ有シ幅三〇ミリメートルノ試験片ニ付長サ一〇〇ミリメートルニテ試験シ經緯共四〇キログラム以上ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十九條 胴帯ハ亞麻織、綿織又ハ亞麻又綿混織ノ平紐ニシテ幅三〇ミリメートル以上ヲ有シ且長サ一〇〇ミリメートルニテ試験シ九〇キログラム以上ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第八十條 「ミシン」縫ニハ長サ二〇〇ミリメートルニテ試験シ一・五キログラム以上ノ強力ヲ有スル、亞麻絲又ハ綿絲ヲ使用スベシ

手縫ニハ前項ノ縫絲ヲ二重ト爲シタルモノ又ハ特ニ太キ縫絲ヲ使用スベシ
第八十一條 「ミシン」縫部ハ二五ミリメートルニ付約一〇針ノ割合ニテ、手縫部ハ二五ミリメートルニ付約六針ノ割合ニテ縫著スベシ

浮袋兩面ノ覆布ノ縫著部ハ各布縁ヲ内側ニ折合縫著スベシ

肩襷、布環等ハ浮袋ノ外部ニ五〇ミリメートル以上重ネテ縫著シ長方形及對角線縫留ヲ爲シ必要ニ應ジ各隅ニ門留ヲ施スベシ

第七章 救命焰

第八十二條 救命焰ハ之ヲ開孔シテ水上ニ投ジタルトル一分時以内ニ自然ニ發火シ風浪中ニ於テモ正シキ位置ヲ保チ一五〇燭光以上ノ焰ヲ三〇分時以上連續發焰シ得ルモノナルコトヲ要ス

第八十三條 罐ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵鋼板ヲ以テ製造スベシ
罐ノ縱接合ハ折曲抱合ト爲シ且鐵附スベシ

外罐ハ筒形ト爲シ其ノ兩端ニ突出セル皿形端板ヲ附スベシ

外罐ノ筒形部ト端板トハ累接ノ上鐵附スベシ

外罐ニハ救命焰ト救命浮環トノ連結ニ使用スル適當ナル通索環ヲ附シ置クベシ
外罐ニハ防腐塗料ヲ塗布スベシ

第八十四條 外罐ノ發焰孔及發焰用浸水孔ハ亞鉛板等ヲ以テ塞ギ其ノ上部ニ引剝用環ヲ附スベシ
引剝用環ハ徑四ミリメートルノ眞鍮針金製ニシテ内徑二五ミリメートルナルコトヲ要ス

亞鉛板等ヲ引剝グニ要スル荷重ハ救命焰ノ重量ヨリ小ナラズ且七キログラムヨリ大ナラザルコトヲ要ス

第八十五條 救命焰ニハ風化セザル發焰用炭化石灰七〇〇グラム以上及點火用燐化石灰七五グラム以上ヲ納メ置クベシ

第八章 救命索發射器

第八十六條 救命索發射器ヲ分チテ左ノ五種トス

- 一 第一號救命索發射器 標準到達距離三〇〇メートル以上ノモノ
 - 二 第二號救命索發射器 標準到達距離三〇〇メートル未滿二五〇メートル以上ノモノ
 - 三 第三號救命索發射器 標準到達距離二五〇メートル未滿二〇〇メートル以上ノモノ
 - 四 第四號救命索發射器 標準到達距離二〇〇メートル未滿一五〇メートル以上ノモノ
 - 五 第五號救命索發射器 標準到達距離一五〇メートル未滿一二〇メートル以上ノモノ
- 標準到達距離ト稱スルハ晴天無風ノ際ニ箭竿又ハ彈丸ガ救命索ヲ引キテ到達スル水平距離ヲ謂フ

第八十七條 救命索發射器ノ型ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 普通型 「ロケット」ニ點火シ「ロケット」作用ニ依リ救命索ヲ引キ行クモノ
- 二 短銃型 短銃ニ依リ「ロケット」ヲ發射スルト共ニ之ニ點火シ「ロケット」作用ニ依リ救命索ヲ引キ行クモノ
- 三 銃砲型 銃砲ニテ彈丸ヲ發射シ之ニ依リ救命索ヲ引キ行クモノ

第八十八條 普通型救命索發射器ハ發射臺一箇、箭竿附「ロケット」四箇及救命索二條ヲ以テ一組トス

短銃型救命索發射器ハ短銃一箇、箭竿附「ロケット」四箇、藥莢四箇及救命索二條ヲ以テ一組トス

第八十九條 救命索發射器ハ銃砲一箇、箭竿附彈丸四箇、藥莢四箇及救命索二條ヲ以テ一組トス

テ且使用者ニ危険ヲ及ボサザルモノナルコトヲ要ス

第九十條

救命索ハ良質ノ麻索、綿絲索其ノ他屬カナルモノニシテ其ノ徑、長サ及抗張力ノ標準ハ救命索發射器ノ種類ニ應ジ左表ニ依ル但シ第一號救命索發射器ニシテ標準到達距離著シク大ナルモノニ在リテハ救命索ノ徑、長サ及抗張力ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

種 類	救 命 索		
	徑 (耗)	長 (米)	抗張力 (疋)
第一號	六〇〇	六〇〇	二五〇
第二號	五〇〇	五〇〇	一八五
第三號	四〇〇	四〇〇	一三〇
第四號	三〇〇	三〇〇	八五
第五號	二五〇	二四〇	六五

救命索ハ水分ヲ吸收スル虞ナキ様水密ニ包裝シ使用ノ際容易ニ開裝シ得ルモノナルコトヲ要ス

第九十一條 「ロケット」ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

- 一 爆音ヲ發スル火藥ヲ含マズ且星火ヲ發セザルモノナルコト
- 二 内筒ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵鋼板ヲ以テ製造シタルモノナルコト
- 三 「ロケット」ハ一箇毎ニ防濕塗料ヲ塗布シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビア」護膜ニテ密封スルコト

第九十二條 普通型救命索發射器ニ使用スル「ロケット」ニ在リテハ前條ノ規定ニ依ルノ外荒天ニ於テ點火シ得ル適當ナル點火裝置ヲ備へ且該「ロケット」ニ點火シタル後「ロケット」作用ヲ開始スル迄三秒時以上ノ餘裕アルコトヲ要ス